

SONY

Network Video Management System Smart Client 2016 R3

ユーザーマニュアル

目次

著作権、商標、および免責条項.....	9
このマニュアルの対象ユーザー.....	10
監視システムの別の特徴.....	11
最低限のシステム要件.....	12
ようこそ	13
ヘルプの表示	13
Network Video Management System Smart Client の開始	14
Network Video Management System Smart Client のインストール	14
管理サーバーからのインストール	14
ログインプロセス.....	14
ログインウィンドウについて.....	14
ログイン認証について	16
ログインおよびログアウト.....	16
トラブルシューティング	17
Sony - Network Video Management System Smart Client の概要	19
Network Video Management System Smart Client のモードについて	19
上級版ワークスペースを使う	20
簡易ワークスペースの使用.....	23
[ライブ]タブ	25
[再生]タブ.....	28
セットアップモード.....	30

カメラツールバー	31
System Monitor タブ	31
Network Video Management System Smart Client の構成	32
アプリケーションのオプション	32
ペインのオプション	34
機能のオプション	35
タイムラインのオプション	35
エクスポートのオプション	36
キーボードのオプション	37
ジョイスティックのオプション	37
アラームのオプション	39
詳細オプション	39
言語のオプション	43
Sony - Network Video Management System Smart Client の操作	43
ユーザー権限によって、操作方法が決定されます	43
ライブビデオについて	44
ビデオの手動録画	45
録画ビデオについて	45
設定モードに入る	47
ビューの選択	47
フル画面表示	48
単一の画像のコピー	48
キーボードのショートカット	48
デジタルズーム、パンチルトズーム、360°レンズ画像	50
デジタルズーム	50
PTZ および魚眼レンズ画像	52
手動での出力のアクティブ化	58

監視と通信.....	59
ビューについて	59
ビューの作成および管理	60
ビューおよびビューのグループ	61
ビューグループの作成	62
ビューの作成	63
ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する	63
ビューヘショートカット番号を割り当てる	64
プライバシーマスク	64
ビューにコンテンツを追加する	65
ビューおよびカメラの検索.....	65
ビューにカメラを追加する.....	66
ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する.....	67
Smart Wall に画像を表示する.....	69
ビューにオーバーレイボタンを追加する	70
ビューアイテムまたは Smart Wall へのテキストの追加	70
ビュー間でビデオを送信する	71
ビューのカメラを変更	72
カメラの切り替え.....	72
HTML ページを使ったナビゲーション.....	72
よくある質問：ビュー	76
画面自動切替	78
画面自動切替について	78
ビューまたは Smart Wall に画面自動切替を追加する	78
自動切替設定	79
ホットスポット	79
ホットスポットについて	79
ビューまたは Smart Wall にホットスポットを追加する	79

ホットスポット設定.....	80
カメラ	80
ビューにカメラを追加する.....	80
カメラ名と色のインジケータ	81
仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイボタン.....	81
カメラ設定	82
よくある質問：カメラ	88
カメラナビゲータ	89
カメラナビゲータについて.....	89
カメラナビゲータの設定	90
ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する.....	91
音声設定.....	92
音声について	92
音声設定.....	92
相手と話す	93
よくある質問：音声.....	94
マップ	95
地図の紹介	95
マップ設定	99
ツールボックス	100
右クリックメニュー.....	101
マップ概要ウィンドウ	101
よくある質問：マップ	102
マップの操作	102
Matrix	108
Matrix について	108
YOKAI	109
ビューに Matrix のコンテンツを追加する	109

手動で Matrix の受信コンピュータにビデオを送信する	110
マルチウィンドウ	110
ディスプレイ間でビューを送信する	112
よくある質問：マルチウィンドウ	112
調査と文書	113
録画済みビデオの検索	113
個別再生を使用する録画済みビデオの表示	113
エクスポートされたビデオの表示	114
シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索.....	115
シーケンス検索	115
シーケンスの検索.....	116
検索の定義	117
タイムライン	117
シーケンスのナビゲート	117
サムネイル概要のナビゲーション	119
録画されたビデオのモーションを検索する	119
Network Video Management System Enterprise Edition で録画されたビデオのモーションを検索する	120
スマートサーチペインを使用した検索.....	122
時間の調整	123
モーション閾値について	124
スナップショットの作成	124
時間ナビ制御	124
タイムラインのボタンとコントロール.....	124
タイムライン	125
再生の日時	126
日付と時刻のナビゲーション	126

時間選択.....	126
再生スピード.....	126
再生ボタン.....	126
ナビゲーションボタン.....	127
時間幅.....	127
イベントおよびアラーム.....	128
アラームの操作.....	128
イベント.....	130
証拠のエクスポート.....	131
[エクスポート]ウィンドウの設定.....	131
ビデオクリップ、音声、 Network Video Management System データ、静止画像をエク スポートする.....	134
ストーリーボードのエクスポート.....	135
エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする.....	135
エクスポート中に録画の領域をマスクする.....	136
よくある質問：エクスポート.....	137
証拠を印刷する.....	138
拡張.....	140
Network Video Management System Smart Wall.....	140
Network Video Management System Smart Wall について.....	140
Network Video Management System Smart Wall でのライブまたは録画されたコン テンツの表示.....	141
Smart Wall の操作を開始する.....	142
カメラからビデオを表示する.....	143
Smart Wall のコンテンツの追加と削除.....	144
ビューまたは Smart Wall でのアラームリストの表示.....	147
Smart Wall での個別のアラームの表示.....	148
ビューから Smart Wall にコンテンツを送信する.....	154

Smart Wall モニターのレイアウトの変更.....	155
Smart Wall のトラブルシューティング.....	156
Network Video Management System Smart Client – Player	157
Network Video Management System Smart Client – Player のバージョン情報	157
Network Video Management System Smart Client – Player クイックガイド	157
Network Video Management System Smart Client – Player のビューの操作	158
データベースを開くウィザード	158
スクリプト	160
起動スクリプト	160
用語集	163
索引	168

著作権、商標、および免責条項

著作権 : © 2016 Sony Corporation

商標

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。Android は Google Inc. の商標です。

本書に記されているその他の商標はすべて、それぞれ該当する所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Sony Corporation は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったくの偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細は Sony 監視システムのインストールフォルダにあるファイル

3rd_party_software_terms_and_conditions.txt にあります。

このマニュアルの対象ユーザー

以下のドキュメントは、Sony - Network Video Management System Smart Client のユーザーを対象として、Sony - Network Video Management System Smart Client のインストール、設定、使用に関する詳細情報を提供しています。さらに、操作手順の例が数多く提供され、Sony - Network Video Management System Smart Client の一般的なタスクを実行できるように解説されています。

接続している Sony 監視システムの種類、ユーザー権限、組織におけるユーザーの役割などによっては、使用できない Sony - Network Video Management System Smart Client の機能もあることに注意してください。詳しくは、システム管理者に確認してください。

ユーザー インターフェース要素の配置に関する記述では、左から右へ表示するインターフェースを使用していると想定しています。一部の言語では、これを右から左へのインターフェースへ変更することができます。インターフェースを右から左へ設定すると、ボタン、ツールバー、ペインはこのドキュメントでの説明と逆になります。

監視システム管理者がすでに、あるユーザーに必要なビューを設定していることが分かっている場合は、このマニュアルの一部を省略してもかまいません。Sony - Network Video Management System Smart Client をインストールして、ログインした後、ライブビデオと録画ビデオの再生についての章に直接進んでください。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

監視システムの別の特徴

Sony - Network Video Management System Smart Client に搭載されている機能の多くは、接続されている Sony 監視システムの種類に関係なく使用できます。ただし、一部の機能は、Sony - Network Video Management System Smart Client が接続している監視システムの種類によって動作が異なります。接続している Sony 監視システムの種類が分からない場合は、監視システムの管理者に詳細をお問い合わせください。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。 <http://www.sony.net/CameraSystem>.

一般的に、Sony では、使用中の Network Video Management System 監視システムにあるすべての新機能を使用するためには、常に最新バージョンの Sony - Network Video Management System Smart Client を使用することをお勧めしています。

最低限のシステム要件

各種システムコンポーネントの最低システム要件については、Sony Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem/Product-info> をご覧ください。

どのバージョンの DirectX をインストールしているかを確認するには:

- スタートをクリックし、**実行...**を選択して **dxdiag** と入力します。**OK** をクリックすると、**DirectX 診断ツール**ウィンドウが開きます。

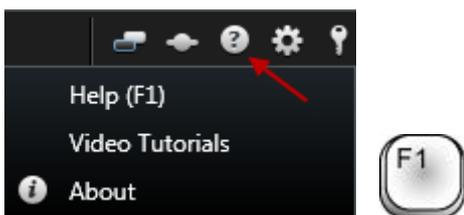
バージョン情報は、**システム**タブの最下部近くに表示されます。サーバーが DirectX のアップデートを必要とする場合は、最新版の DirectX を Microsoft Web サイト <http://www.microsoft.com/downloads> から入手できます。

ようこそ

Sony - Network Video Management System Smart Client の新機能について説明します。

ヘルプの表示

- Sony - Network Video Management System Smart Client ヘルプシステムにアクセスするには、Sony - Network Video Management System Smart Client ツールバーでヘルプ > ヘルプをクリックするか、キーボードの F1 キーを押します。



- ブラウザウィンドウでオンラインビデオチュートリアルにアクセスするには、Sony - Network Video Management System Smart Client ツールバーでヘルプ > ビデオチュートリアルをクリックします。

ヘルプシステムはコンテキスト依存であり、ユーザーが作業をしているエリアに関連するヘルプトピックが自動的に表示されます。ヘルプトピックのテキストにはさまざまな種類のリンクがありますが、その中でも、クリックすると展開して詳細情報を表示する、ドロップダウンリンクと呼ばれるリンクがあります。

ヒント： ヘルプトピックで表示した拡張ドロップダウンリンクのテキストすべてをすばやく縮小表示するには、コンテンツタブにあるトピックのタイトルをクリックしてください。

ヘルプトピックを印刷すると、そのトピックは画面に表示された状態で印刷されます。そのため、トピックに拡張ドロップダウンリンクが含まれている場合、必要なドロップダウンリンクをクリックしてテキストを表示させて、印刷に含めてください。これで、印刷する必要がある情報だけが含まれたページが印刷されます。

Network Video Management System Smart Client の開始

このセクションのトピックでは、Network Video Management System 監視システムを理解する方法を説明します。たとえば、ニーズに合わせて Network Video Management System Smart Client を構成する方法、コントロールの使用法、さまざまなタスクを実行する場所について確認できます。

Network Video Management System Smart Client のインストール

Network Video Management System Smart Client を使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。Network Video Management System Smart Client を監視システムサーバーからダウンロードして使用するコンピュータへインストールするか、DVD から直接インストールします。

管理サーバーからのインストール

開始する前に、Sony の Web サイトにアクセスし、使用している PC が Network Video Management System Smart Client の最低限のシステム要件 <http://www.sony.net/CameraSystem/Product-info> を満たしていることを確認して下さい。

1. Internet Explorer を開き、URL またはサーバーの IP アドレスを使用して管理サーバーに接続します。
 - (<http://localhost/installation/admin>) または
 - リモートサーバーの IP アドレス (http://IP_address/installation/admin) 。
2. ようこそページで、言語をクリックして、使用する言語を選択します。
3. **Network Video Management System Smart Client 設定**ウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

ウィザードがインストールパスを推奨します。通常は、推奨されたインストールパスを使用します。ただし、アドオン製品を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではなくなっていることがあります。

ログインプロセス

ログインウィンドウについて

初めてログインする場合、ビューが存在するかどうか確認する必要があります。ビューによって、ビデオの再生方法が決定されるため、Sony - Network Video Management System Smart Client を使用するにはビューが必要です。1 つまたは複数のビューがすでに作成されている場合もありますし、自分で作成しなければならない場合もあります。ビューがすでに作成されているかどうか確認する方法を含め、ビューの詳細についてはビュー『**21** ページ』で確認してください。

ユーザー設定(ビューを含む)は、監視システム上で中央管理されています。これは、Sony - Network Video Management System Smart Client がインストールされているコンピュータであれば、どのコンピュータへもログインでき、最後のログイン時のビューを復元できることを意味します。

ログイン中に 2 番目のダイアログが表示されたら、Sony - Network Video Management System Smart Client にアクセスするための追加のログイン認証 『16ページ の"ログイン認証について"参照 』が必要になります。

ログイン設定

名前	詳細
コンピュータ	監視システムサーバーを実行するコンピュータを選択します。
認証	<p>3 つの認証方法 (ユーザーの ID を確認するための方法) があります。</p> <p>すべての監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』が、3 つの認証方法をすべてサポートしているわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows 認証 (現行ユーザー): 使用中の Windows ログイン情報を使って認証されるため、ユーザー名やパスワードを指定する必要はありません。これはデフォルトの認証方法です。 • Windows 認証: Windows のログイン情報を使って認証されますが、Windows で使用しているユーザー名とパスワードを入力する必要があります。 • 基本認証: ユーザー名とパスワードを使用して、監視システムで設定する必要があります。
ユーザー名	<p>認証方法として Windows 認証 または 基本認証 を選択した場合のみ必要となります。 Windows 認証 を使用する場合は、Windows のユーザー名を入力します。 基本認証 を使用する場合は、監視システムの管理者が指定したユーザー名を入力してください。ユーザー名では大文字と小文字が区別されるため、「amanda」と「Amanda」では異なるユーザー名となります。</p>
パスワード	<p>認証方法として Windows 認証 または 基本認証 を選択した場合のみ必要となります。 Windows 認証 を使用する場合は、Windows のパスワードを入力します。 基本認証 を使用する場合は、監視システムの管理者が指定したパスワードを入力してください。</p>
パスワードを保存	<p>Windows 認証 または 基本認証 を使用する場合に使用できます。パスワードを保存できるため、次回以降、接続 をクリックするだけでログインできます。</p> <p>セキュリティの制約が適用される場合があります。不明な点がある場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。</p>

自動ログイン	<p>プロファイルに割り当てられているデフォルトのエクスポート設定を復元します。選択すると、Windowsへログインすると、前回のログインでの認証情報を使って Sony - Network Video Management System Smart Client に自動的にログインします。Windows 認証を使用している場合は、この自動ログイン機能を有効にするためにパスワードを保存を選択しておく必要があります。</p> <p>セキュリティの制約が適用される場合があります。不明な点がある場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。</p>
--------	--

ログイン認証について

Sony - Network Video Management System Smart Client にログインする場合、追加のログイン認証が要求されることがあります。スーパーバイザー、システム管理者、またはその他のあなたを認証できる権限を持つ人に、ログインフォームにあなたの資格情報と共にその人たちの資格情報を入力するよう依頼する必要があります。その後、あなたもログインできるようになります。

誰があなたを認証できるか分からない場合は、スーパーバイザーかシステム管理者に問い合わせてください。

ログインおよびログアウト

1. Sony - Network Video Management System Smart Client を開きます。
2. ログイン情報を指定して、**接続**をクリックします。ログイン時に問題が発生するとエラーメッセージ『17ページ の"トラブルシューティング"参照』が表示されることがあります。
3. 以前にログインしたことがある場合は、前回使用したビューを復元できます。設定によって、Sony - Network Video Management System Smart Client は、最後に使用したビューを復元するか確認します。オプションは以下のとおりです。
 - **メインビュー:** これを選択すると、Sony - Network Video Management System Smart Client のメインウィンドウで前回使用したビューが復元されます。
 - **分離ビュー:** 特定の Sony 監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続していて、前回のログイン時に分離ウィンドウ 『110ページ の"マルチウィンドウ"参照』でビューを使用していた場合にのみ使用できます。分離ウィンドウで前回使用していたビューを復元する場合に選択してください。
4. しばらくすると、Sony - Network Video Management System Smart Client ウィンドウが開きます。
5. Sony - Network Video Management System Smart Client からログアウトするには、Sony - Network Video Management System Smart Client のタイトルバーで**ログアウト**ボタンをクリックするだけです。



ログイン中に 2 番目のダイアログが表示されたら、Sony - Network Video Management System Smart Client にアクセスするための追加のログイン認証 『16ページ の"ログイン認証について"参照』が必要になります。

トラブルシューティング

Sony - Network Video Management System Smart Client へのログイン時に何らかの問題が発生した場合は、次のようなエラーメッセージが表示されます。

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。

問題： ログインが認められていないユーザー権限でログインしようとしてしました。

対処法： ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者にお問い合わせください。

問題： 現時点では Sony - Network Video Management System Smart Client のどの部分にもアクセスする権限がないため、ログインできません。

対処法： 必要に応じて、アクセス権限を変更できる監視システムの管理者に連絡してください。

認証失敗：自分自身を認証することはできません。

問題： 自分の資格情報を承認者に入力しました。field。自分自身を認証することはできません。

対処法： 認証権限を持つ人に連絡する必要があります。これは、スーパーバイザーかシステム管理者になります。この人は、自分の資格情報を入力して、あなたのログインを認証する必要があります。

認証失敗：認証する権限がありません。

問題： あるユーザーを認証しようとしてしましたが、それを実行できる権限がありませんでした。

対処法： 他のユーザーを認証するのに必要な権限を持っていることを確認するようにシステム管理者に依頼する。あるいは、十分な権限を持っている他の人にユーザーの認証を依頼する。

接続に失敗しました。サーバーのアドレスを確認してください。

問題： 指定されたサーバーアドレスの監視システムサーバーに接続できませんでした。

対処法： 入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバーアドレスには、プレフィクスとして「http://」を付け、ポート番号を指定する必要があります(例：http://123.123.123.123:80、ここで:80 はポート番号を示します)。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

接続に失敗しました。ユーザー名とパスワードを確認してください。

問題： 指定されたユーザー名またはパスワードでログインできませんでした。

対処法： 入力したユーザー名が正しいことを確認してから、正しいパスワードを入力してください。ユーザー名とパスワードでは大文字と小文字が区別されます(例：「Amanda」と「amanda」では異なるユーザー名となります)。

接続に失敗しました。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

問題： 同時に監視システムサーバーへ接続できるクライアントの最大数に達しています。

対処法： しばらく待ってからもう一度接続してください。すぐに監視システムへ接続する必要がある場合は、監視システムの管理者へ連絡してください。同時に接続できる許容クライアント数を変更できる可能性があります。

新しいクライアントが使用できます。アップグレードをお勧めします/アップグレードが必要です。から新しいバージョンをダウンロードできます。

問題： 新しいバージョンの Sony - Network Video Management System Smart Client が使用できます。通常このメッセージには、更新が推奨されるか、更新が必須である（例：重要な最新機能が、使用中の Sony - Network Video Management System Smart Client のバージョンでは動作しない）ことを示す情報が含まれています。また多くの場合、新しいバージョンをダウンロードできる場所に関する情報も含まれています。

対処法： メッセージに含まれている指示に従ってください。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

2 台（以上）のカメラが同じ名前または ID を使用しているため、アプリケーションが起動できません...

このエラーメッセージは、1つの監視システムからバックアップされた設定が、何も変更を加えられずに他の監視システムに対して誤って使用された、という非常にまれな状況で発生します。これによって、同じ ID を持つ異なるカメラが「競合」し、Sony - Network Video Management System Smart Client からの監視システムへのアクセスがブロックされます。このメッセージが表示されたら、ユーザーでは問題を解決できません。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

一部のメッセージは、ビューの上にオレンジ色の帯で表示されます：

この操作を行う権限がありません。

時間によって変わるユーザー権限で、以前は可能だったことが許可されなくなった場合に発生します。これは、特定のタイプの監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、ユーザー権限が、時間帯、曜日などによって異なる場合があるためです。このため、後で再びアクションを実行できるようになる場合もあります。

監視システムの設定により、Sony - Network Video Management System Smart Client のセッションは次の[...]で終了します。

現在の Sony - Network Video Management System Smart Client セッションの終了が近い場合に、発生します。特定タイプの監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、Sony - Network Video Management System Smart Client を使用する権限は、時間帯、曜日などによって異なる場合があります。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

ユーザー操作が最近検出されなかったため、**Sony - Network Video Management System Smart Client** のセッションは次の[...]で終了します。

Sony - Network Video Management System Smart Client をしばらく使用していない場合に発生します(具体的な時間は監視システムサーバーで定義します)。この場合、Sony - Network Video Management System Smart Client のセッションはセキュリティの理由のため、終了します。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。具体的な分数/秒数は監視システムサーバーで定義します。

Sony - Network Video Management System Smart Client の概要

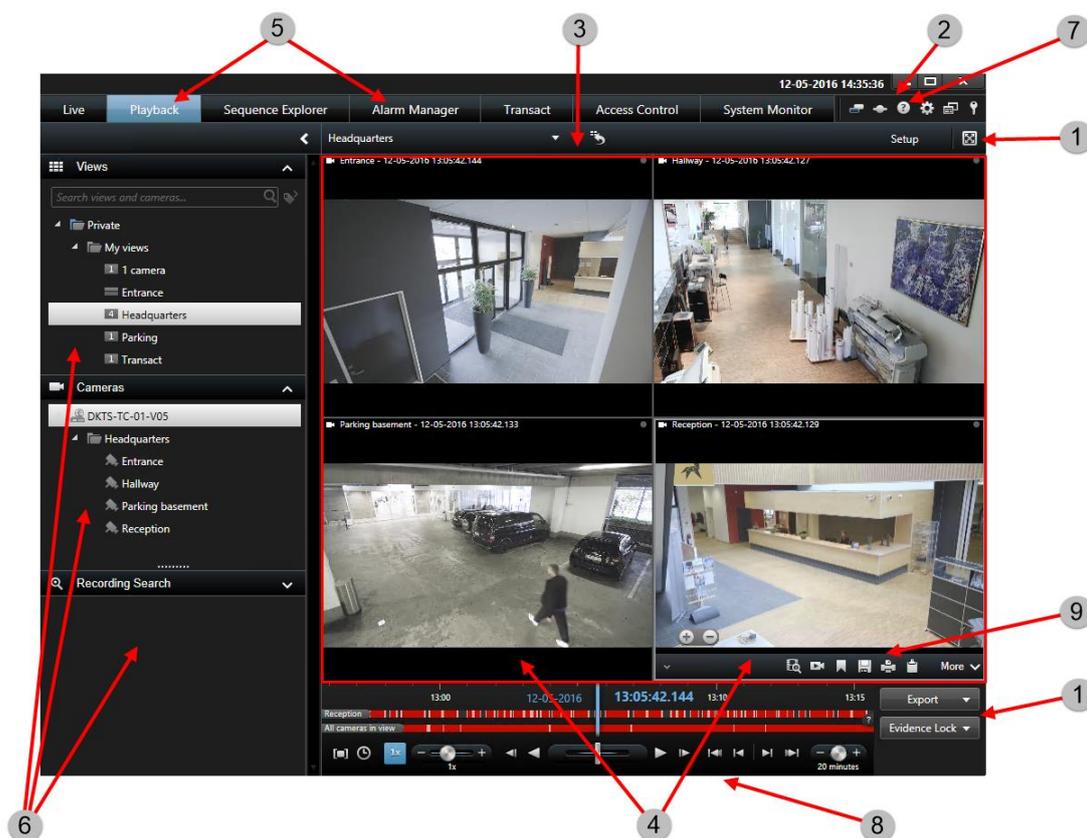
Network Video Management System Smart Client のモードについて

Network Video Management System Smart Client には 2 つのモードがあります。

- 簡易モード - ライブおよび再生タブのみ使用できます。制限されたタスクを実行できます。詳細については、「簡易ワークスペースの使用 『23ページ』」を参照してください。
- 詳細モード - すべての機能とタブを使用できます。セットアップモードにアクセスできます。

【モードの切り替え】ボタンでデフォルトモードを変更すると、Network Video Management System Smart Client は、次回プログラムを開くと、変更されたモードで開きます。

上級版ワークスペースを使う



ウィンドウ Sony - Network Video Management System Smart Client で、のライブ 『20ページ の"上級版ワークスペースを使う"参照』 タブで生の映像を閲覧し、再生 タブで録画された映像を 閲覧します。ライブ タブを選択すると、 Sony - Network Video Management System Smart Client が監視システムのサーバーへ接続し、選択されたビューのカメラの生の映像が表示されます。

お持ちのパソコンに、2台以上のディスプレイが搭載されている場合、個別のビューを別のウィンドウに 『110ページ の"マルチウィンドウ"参照』 に送り、一度に一つ以上のビューを閲覧することができます。

1	タスクボタン	さらに読む
2	アプリケーション・ツールバー	
3	ビュー	さらに読む
4	表示項目	さらに読む

5	タブ	さらに読む
6	ペイン	さらに読む
7	アプリケーション・ボタン	さらに読む
8	タイムライン	さらに読む
9	カメラ・ツールバー	さらに読む

パネル

ペインから、Sony - Network Video Management System Smart Client のほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している Sony - Network Video Management System Smart Client の設定やタスクに応じて異なります。

ペインを最小化することにより、スペースを節約し、使用しているペインの概要をより分かりやすく表示できます。ペインのタイトルバーにある**最小化/展開**のアイコンをクリックして、最小化または展開します。

タブ

Sony - Network Video Management System Smart Client には、以下の主要なエリアがあります。

- **ライブタブ** 『25ページ の"[ライブ]タブ"参照 』はライブビデオを再生します。
- **再生タブ** 『28ページ の"[再生]タブ"参照 』は、録画されたビデオを表示するエリアです。
- ビデオシーケンスをナビゲートする**シーケンスエクスプローラタブ** 『115ページ の"シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索"参照 』
- インシデントやアラームを調査する**アラームマネージャタブ**
- システム情報を表示する**システムモニタータブ** 『31ページ の"System Monitor タブ"参照 』

一部のタブが使用できない場合は、すべてのエリアにアクセスできる権限がないためです。

ビュー

Sony - Network Video Management System Smart Client でビデオを再生する方法をビューと呼びます。監視システムによって異なりますが、1つのビューには最高で100台のカメラからのビデオを含めることができます。Sony - Network Video Management System Smart Client では無制限の数のビューを処理することが可能であり、さまざまなグループのカメラからのビデオの間で切り替えることができます。各ビューのレイアウトは、内容に合わせてカスタイズできます。分かりやすい全体図を維持するため、すべてのビューは**グループ**と呼ばれるフォルダに分類されます。1つのグループには、無制限の数のビューと、必要に応じてサブグループを含めることができます。

ビューには、個人ビューと他のユーザーとの共有ビューがあります。

ビデオだけでなく、ビューでは Web ページや静止画像（顔写真など）を表示できます。監視システムによっては、他のアプリケーションからのデータ（レジからのレシートなど）をビデオと同時にビューに表示できる場合もあります。

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されているので、自分のユーザー名とパスワードを使ってログインすれば、Sony - Network Video Management System Smart Client がインストールされているどのコンピュータでも、個人ビューと共有ビューを使用できます。



例 : Sony - Network Video Management System Smart Client 4 台の異なるカメラ(2x2 ビュー)からのビューをビデオで表示している

タスクボタン

タスクボタンは Sony - Network Video Management System Smart Client ツールバーにあり、タイムラインの右にあります。使用できるタスクボタンは、ユーザーが使用中のタブに応じて異なります。たとえば、**設定**はすべてのタブでは使用できません。以下はタスクボタンです。

- **セットアップ**: クリックすると、セットアップモード 『47ページ の"設定モードに入る"参照』になります。
- **エクスポート**: クリックすると、ビデオをエクスポート 『134ページ の"ビデオクリップ、音声、Network Video Management System データ、静止画像をエクスポートする"参照』します。
- **取得**: あなたがクリックすると、エッジストレージをサポートし、カメラからの記録を取得します。
- **フル画面モードの切り替え** : クリックすると、フル画面 『48ページ の"フル画面表示"参照』と、ドラッグしてサイズを変更できる小さいウィンドウとの間で切り替わります。

アプリケーションボタン

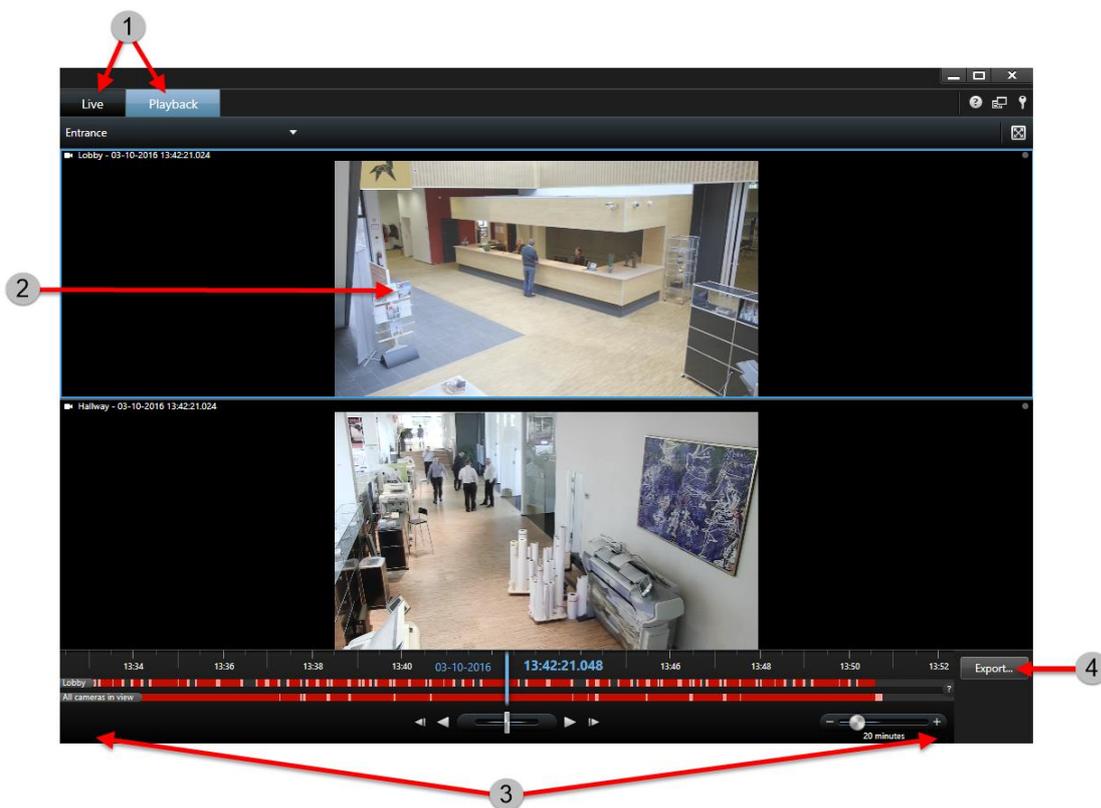


ツールバーにあるアプリケーションボタンを使用すると、Sony - Network Video Management System Smart Client の基本操作を選択できます。

- **テーマの切り替え**: Sony - Network Video Management System Smart Client のテーマを暗から明に切り替えます。
- **ステータス**: ステータスウィンドウにアクセスします。

- **ヘルプ:**ヘルプシステム 『13ページの"ヘルプの表示"参照』にアクセスし、オンラインビデオチュートリアルを再生するか、バージョン番号およびプラグイン情報を表示します。
- **オプション:**Sony - Network Video Management System Smart Client の設定と動作 『32ページの"Network Video Management System Smart Client の構成"参照』、ジョイスティック、キーボードのショートカット、および言語を設定します。
- **モードの切り替え:**簡易モードと詳細モードを切り替えることができます。 『19ページの"Network Video Management System Smart Client のモードについて"参照』
- **ログアウト:**Sony - Network Video Management System Smart Client からログアウト 『14ページの"ログインプロセス"参照』します。

簡易ワークスペースの使用



<p>1</p>	<p>ビデオの再生</p> <p>ライブビデオを表示するか、録画ビデオを再生し、インシデントを調査します。別のビューを選択し、別の領域または他のコンテンツからビデオを表示します。</p>	<p>もっと読む 『24ページの"簡易モードでのビューの変更"参照』</p>
----------	--	--

2	<p>詳細の表示</p> <p>ビデオをタップまたはダブルクリックすると、全画面モードで表示されます。もう一度タップまたはダブルクリックすると、全画面モードを終了します。</p>	
3	<p>録画の調査</p> <p>順方向または逆方向でビデオを再生するか、時間軸の順方向または逆方向でズームまたはスクロールして、タイムスパンを調整します。この操作は【再生】タブで行います。</p>	<p>もっと読む 『126ページの"再生ボタン"参照』</p>
4	<p>文書の作成</p> <p>発生した事象を示すビデオクリップまたは静止画像をエクスポートします。この操作は【再生】タブで行います。</p>	<p>もっと読む 『24ページの"簡易モードでのビデオのエクスポート"参照』</p>

簡易モードでのビューの変更

【ビューの選択】リストで既存のビューまたはカメラを選択または検索できます。ただし、ビューを追加または修正するには、 ボタンで詳細モードに切り替える必要があります。

 ボタンを使用できない場合は、詳細モードに切り替えることができません。その場合、システム管理者にご連絡ください。

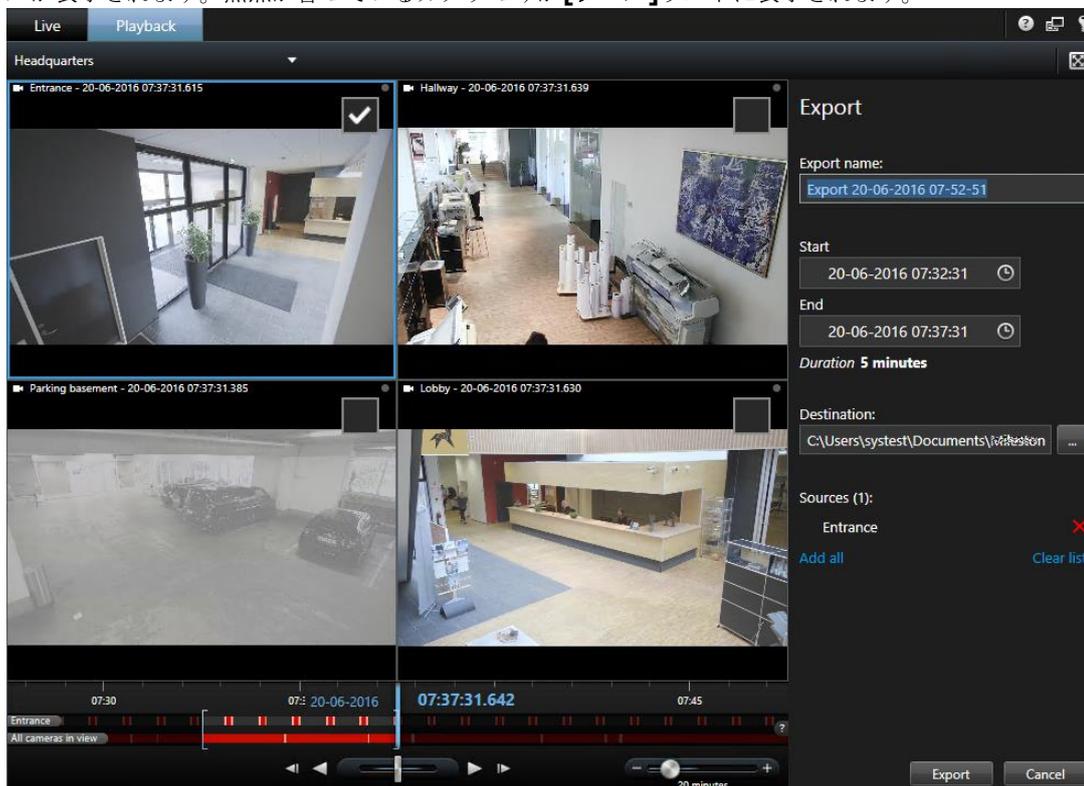
詳細については、「Network Video Management System Smart Client のモードについて 『19ページ』」を参照してください。

簡易モードでのビデオのエクスポート

簡易モードで、ビデオをエクスポートし、インシデントを文書化できます。

プライバシーマスク、メディアプレーヤー形式、および静止画像は、詳細モードでのみ使用できる機能です。 ボタンをクリックすると、詳細モードになります。

1. インシデントを取得したカメラを含むビューを選択します。
2. **【再生】**タブで、タイムラインの右にある**【エクスポート】**ボタンをクリックします。**【エクスポート】**パネルが表示されます。焦点が合っているカメラのみが**【ソース】**リストに表示されます。



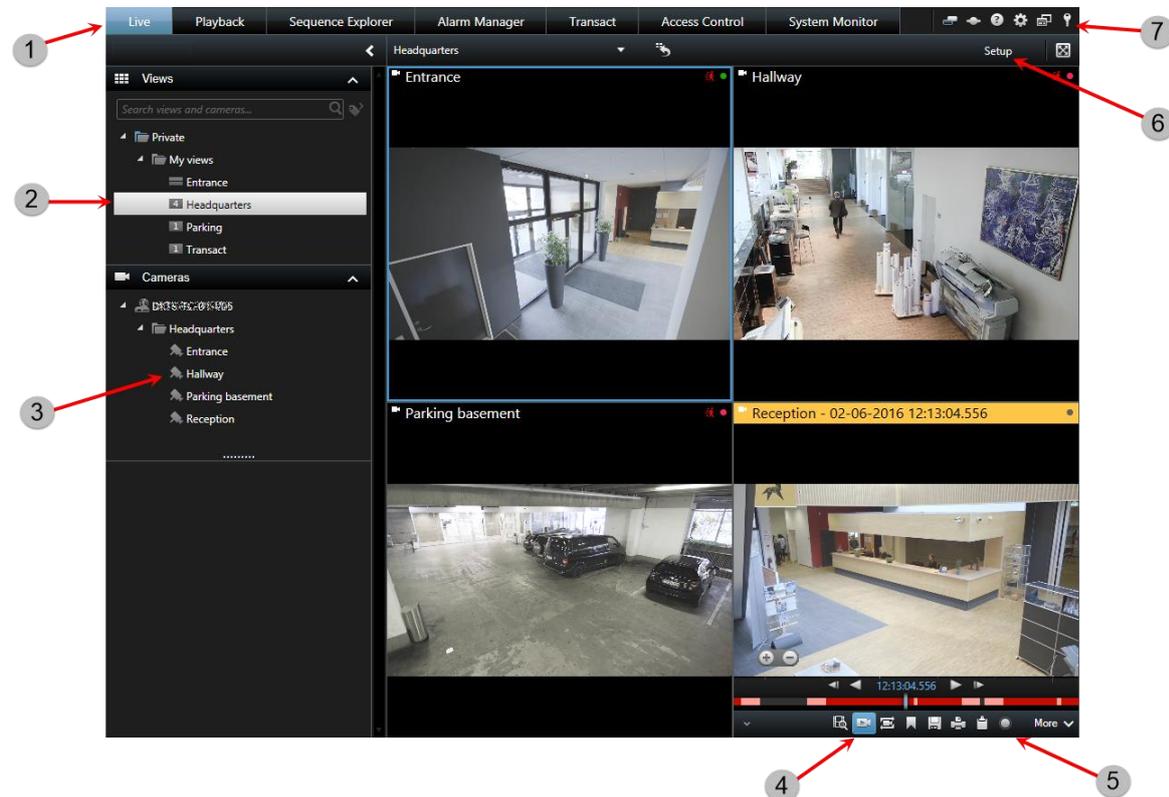
3. エクスポートに含めるカメラごとに、関連付けられているチェックボックスを選択します。ビューに同一のカメラが複数表示される場合は、該当するすべてのカメラが自動的に選択されます。
4. その他のビューのカメラを含めることもできます。ビューを変更しても、エクスポート設定は失われません。
5. 開始時刻と終了時刻を指定します。また、角括弧を左右にドラッグすると、タイムラインの時間間隔を設定することもできます。
6. **【エクスポート】**をクリックします。パネルが閉じ、右上端の緑のステータスバーがエクスポートの進行状況を示します。
7. エクスポートが完了すると、ステータスバーの**【詳細】**ボタンをクリックすれば、エクスポートされたビデオを表示できます。

それがサポートするプラグインは、輸出がエクスポート・リストに追加された場合、任意の関連カメラが自動的に含まれています。

【ライブ】タブ

【ライブ】タブには、音声 『92ページ の"音声設定"参照』、自動切替 『78ページ の"画面自動切替"参照』、ホットスポット 『79ページ』、Matrix、カメラのショートカットメニュー、パン/チルト/ズーム(PTZ 『52ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』)制御、デジタルズーム、イベント起動、出力起動、クイック再生など、ライブビデオフィードを操作するためのさまざまな機能があります。

注:Network Video Management System Smart Wallアドオンを使用している場合は、**[ライブ]**および**[再生]**タブでこれらの機能を使用できます。詳細については、Network Video Management System Smart Wall についてを参照してください。



1	さまざまな作業領域	もっと読む 『21ページ の"タブ"参照 』
2	ビューの選択	もっと読む 『47ページ の"ビューの選択"参照 』
3	ビューのカメラを変更	もっと読む 『72ページ の"ビューのカメラを変更"参照 』
4	独立再生を使用する録画済みビデオの表示	もっと読む 『113ページ の"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照 』
5	カメラツールバー	もっと読む 『31ページ の"カメラツールバー"参照 』

6	セットアップモードに入る	もっと読む 『47ページ』 の"設定モードに入る"参照』
7	アプリケーションボタン	もっと読む 『22ページ』 の"アプリケーションボタン"参照』

【ライブ】タブの一般的なタスク

ビュー間でビデオを送信する 『71ページ』

スナップショットの作成 『124ページ』

単一の画像のコピー 『48ページ』

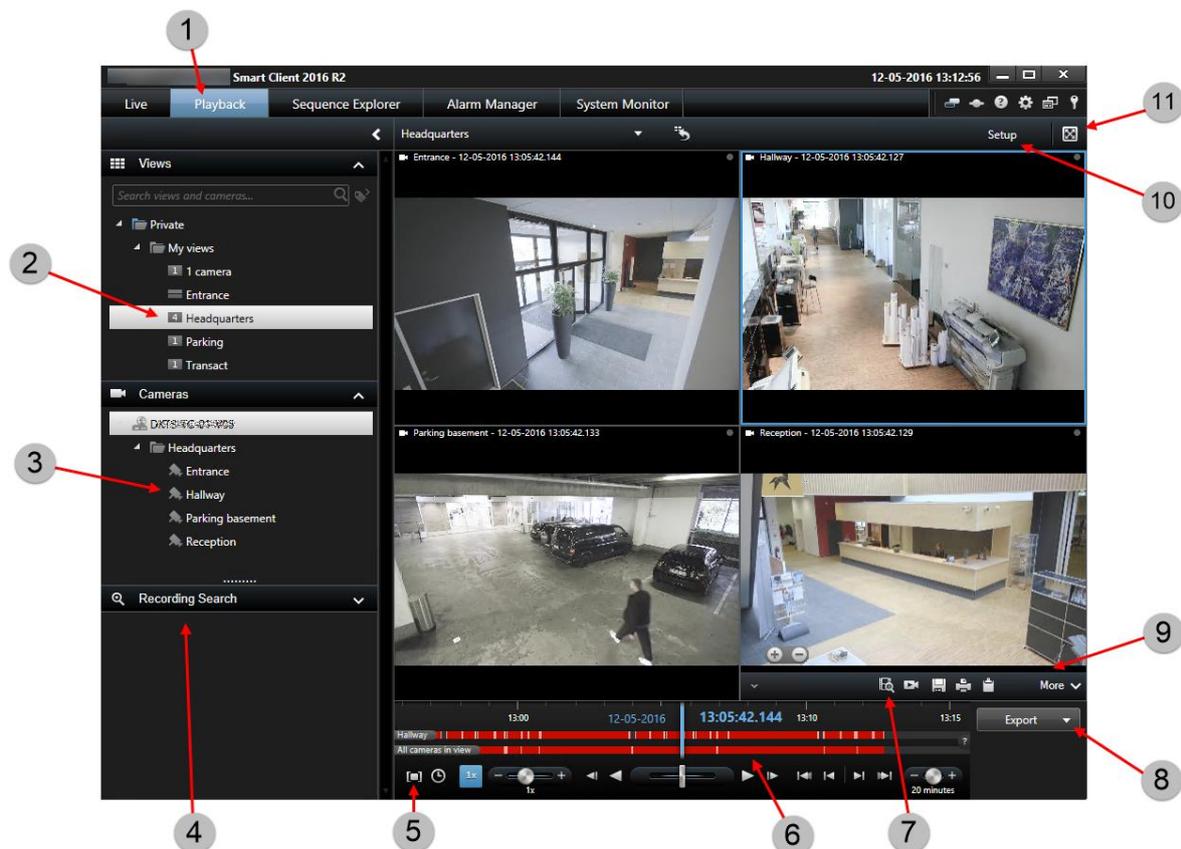
ビデオの録画 『45ページ』 の"ビデオの手動録画"参照』

デジタルズームの使用 『50ページ』

PTZ プリセットを作成 『54ページ』 の"PTZ プリセットの管理"参照』

【再生】タブ

注:Network Video Management System Smart Wallアドオンを使用している場合は、【ライブ】および【再生】タブでこれらの機能を使用できます。詳細については、Network Video Management System Smart Wallについて『140ページ』を参照してください。



1	【再生】タブ	録画ビデオについて『45ページ』
2	ビュー	ビューの選択『47ページ』
3	カメラ	ビューのカメラを変更『72ページ』
4	【録画の検索】ペイン	
5	時間選択	ビデオエクスポートのための時間選択

6	タイムライン	タイムライン 『125ページ』
7	スマートサーチ	スマートサーチペインを使用した検索 『122ページ』
8	エクスポート	ビデオクリップ、音声、データ、静止画像のエクスポート 『134ページ の"ビデオクリップ、音声、Network Video Management System データ、静止画像をエクスポートする"参照』
9	カメラツールバー	カメラツールバー 『31ページ』
10	設定	セットアップモードに入る 『47ページ の"設定モードに入る"参照』
11	フル画面の切り替え	フル画面表示 『48ページ』

参照

独立再生を使用する録画済みビデオの表示 『113ページ の"個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』

エビデンスを印刷する 『138ページ の"証拠を印刷する"参照』

録画済みビデオの検索 『113ページ』

スナップショットの作成 『124ページ』

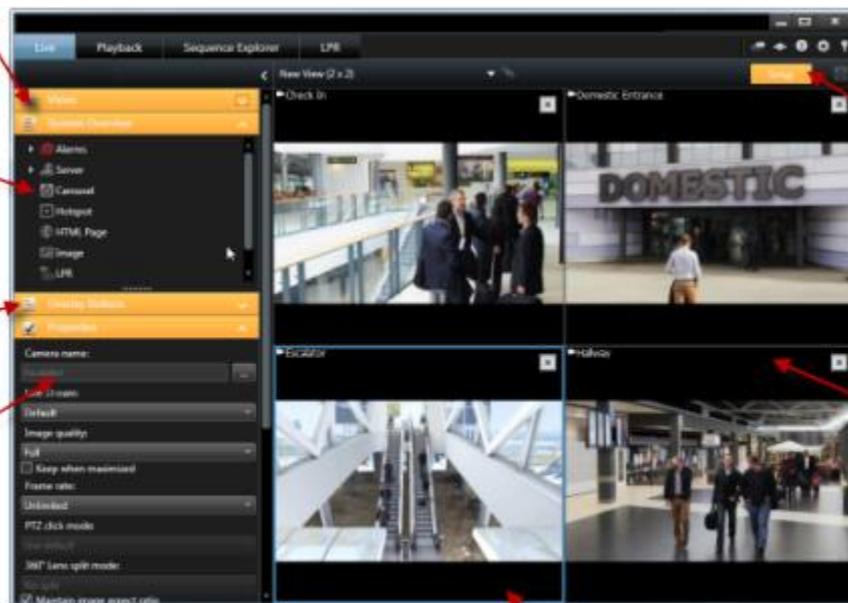
セットアップモード

ビューの作成
『63ページ』

ビューにコンテンツを追加する『65ページ』

キーボードショートカットおよびオーバーレイボタン『87ページ』

プロパティペイン『82ページ』の"カメラ設定"参照』



設定モードを終了する『47ページ』の"設定モードに入る"参照』

ビューにカメラを追加する『80ページ』

ビューの作成および管理『60ページ』

設定モードの一般的なタスク

ビューにマップを追加する

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント：[名前]フィールドを空欄にし、[参照...]をクリックすると、[名前]フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. [参照...]をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
6. [OK]をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

カメラナビゲータをビューに追加する 『91ページ の"ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する"参照』

ビューに Matrix のコンテンツを追加する 『109ページ』

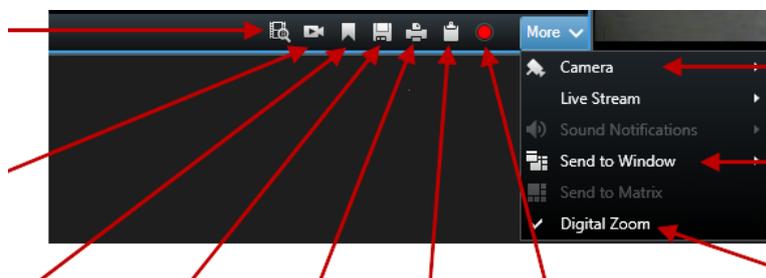
ビューに Smart Wall を追加する 『142ページ の"Smart Wall の操作を開始する"参照』

ビューにコンテンツを追加する 『65ページ』

カメラツールバー

スマートサーチ
『119ページ の
"録画されたビデオの
モーションを検索する"
参照』

個別再生を使用
する録画済みビデオ
の表示
『113ページ』



ビューのカメラを
変更 『72ページ』
ビュー間でビデオ
を送信する 『71
ページ』

スナップショットの作成 『124ページ』
証拠を印刷する 『138ページ』
単一の画像のコピー 『48ページ』
ビデオの手動録画 『45ページ』

デジタルズームの
使用 『50ページ』

System Monitor タブ

<、>およびホームアイコンを使用して、System Monitor をナビゲートできます。

System Monitor では、システムのサーバーとカメラの現在の状態の概要が、システムハードウェアを表す色付きのタイルによって視覚的に表示され、確認できます。既定では、Network Video Management System Smart Client では、すべてのレコーディングサーバー、すべてのサーバー、およびすべてのカメラを表すタイルを表示できます。システム管理者は Network Video Management System Smart Client に表示されるタイルと、各状態の値を指定します。

次の表は、タイルの色が示す意味を説明します。

緑	正常状態。すべてが正常に動作しています。
---	----------------------

黄色	警告状態。1 つ以上の監視パラメータが正常状態の定義済みの値を超えています。
赤	重大状態。1 つ以上の監視パラメータが正常と警告状態の定義済みの値を超えています。

タイルの色を変更し、色の変化につながるサーバー/パラメータを確認する場合は、タイルをクリックします。これにより、画面の下に概要が開き、タイルで有効にした各監視パラメータの色(赤、黄、緑)が表示されます。状態変化の理由を表示するには、**[詳細]**ボタンをクリックします。

タイルに警告記号が表示される場合は、監視対象のサーバーまたはカメラのいずれかのデータコレクタが実行されていない可能性があります。タイルの上にマウスを置くと、該当するタイルで最後にデータが収集された日時が表示されます。

Network Video Management System Smart Client の構成

オプションウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定などの Sony - Network Video Management System Smart Client のそれぞれのタブで使用する機能や要素を管理できます。通常、右から左へ読み書きする言語では、ここで表示を左から右へのインターフェースに変更できます。

アプリケーションツールバーで**オプション**ボタンをクリックして、**オプション**ウィンドウを開きます



アプリケーションのオプション

アプリケーションのオプションを使用すると、Sony - Network Video Management System Smart Client の全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

使用できる場合、**サーバーに従う**列で、Sony - Network Video Management System Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	詳細
アプリケーションの最大化	<p>アプリケーションのツールバーで最大化/元に戻すボタンをクリックして、最大化した場合に Sony - Network Video Management System Smart Client がどのように反応するか選択します。全画面に最大化を選択すると、Sony - Network Video Management System Smart Client を最大化したとき、スクリーン上にある Windows のタスクバーが覆われます。</p>  <p>最大化は、全画面表示 『48ページ の"フル画面表示"参照』と同じではありません。</p>

名前	詳細
カメラエラーメッセージ	Sony - Network Video Management System Smart Client が、どのようにカメラ関連のメッセージテキストを表示するか選択します。これらは、カメラからの画像の上へのオーバーレイとして、あるいは黒い背景上のオーバーレイとして表示できます。また、このようなメッセージを完全に非表示にするように選択することもできます。
サーバーエラーメッセージ	Sony - Network Video Management System Smart Client が、どのようにサーバー関連のメッセージテキストを表示するか選択します。これらは、オーバーレイとして表示することもできますし、完全に非表示にすることもできます。
ビデオインジケータのデフォルト	<p>緑色のインジケータをカメラのタイトルバーの上に表示するか、あるいは非表示にするかを選択します。カメラへの接続が確立されると、ライトが点灯します。</p> <p>セットアップモードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『82ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>
カメラのタイトルバーのデフォルト	<p>カメラのタイトルバーを表示するか、または非表示にするかを選択します。タイトルバーには、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータ 『81ページ の"カメラ名と色のインジケータ"参照』はイベント、検出されたモーションやビデオを意味します。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『82ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>
タイトルバーに現在の時刻を表示	タイトルバーに、(Sony - Network Video Management System Smart Client を実行しているコンピュータの)現在の時刻および日付を表示するか、または非表示にするかを選択します。
空のビュー位置に表示	ビューに空白のスペースがある場合に表示するものを選択します。たとえば、ロゴを選択したり、単に黒い背景だけを表示することができます。
グリッドスペーサーの表示	ビューのカメラ位置の間の境界線の太さを選択します。
デフォルトの画質	<p>Sony - Network Video Management System Smart Client で表示されるビデオ画質のデフォルトを選択します。画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。Sony - Network Video Management System Smart Client をインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『82ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>
デフォルトのフレームレート	<p>Sony - Network Video Management System Smart Client で表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。</p> <p>設定モードで、カメラに対してカメラプロパティを調整 『82ページ の"カメラ設定"参照』することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。</p>

名前	詳細
PTZ クリックモード	使用している PTZ カメラに対するデフォルトの PTZ クリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルト PTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
開始モード	ログインした後、Sony - Network Video Management System Smart Client がどのように開始するかを選択します。オプションは、全画面モード、ウィンドウモード、または最後に使用したモードです。
ビューを開始	ログインした直後に、Sony - Network Video Management System Smart Client がどのようにビューを表示するかを選択します。オプションは、最後に使用したビュー、ビューなし、またはログインした後に決定するビューです。
マウスポインタを非表示	アイドル状態の後、マウスポインタを非表示にするかどうかを選択できます。マウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは 5 秒後です。選択肢は以下のとおりです： <ul style="list-style-type: none"> • 設定しない • 5 秒後 • 10 秒後 • 20 秒後 • 30 秒後 アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。
スナップショット	スナップショット機能を使用するかどうかを指定します。スナップショットとは、特定の時点における、カメラからのビデオのフレームをその場でキャプチャしたものです。
スナップショットへのパス	スナップショットを保存する場所を示すパスを指定します。

ペインのオプション

ペインのオプションでは、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。

一部のペインには、使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続している監視システム『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』のどちらかが原因です。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、ペインの名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、サーバーに従う列で、Sony - Network Video Management System Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能のオプション

機能のオプションでは、Sony - Network Video Management System Smart Client の特定のタブに表示する機能（たとえば、**ライブ**タブに再生）を指定できます。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、機能列には、機能の名前が一覧表示されます。さらに、設定列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

使用できる場合、**サーバーに従う**列で、Sony - Network Video Management System Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能：

名前	詳細
ライブ > カメラ再生	ライブタブで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。
ライブ > オーバーレイボタン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZ カメラの移動、カメラからのインジケーターを消去する際に、ライブタブでオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブ & 再生 > 印刷	ライブおよび再生タブから印刷する機能。再生タブでこのオプションを有効/無効にすることで、シーケンスエクスプローラタブで対応するボタンが有効であるかどうか制御されます。
ライブ & 再生 > 境界ボックス	すべてのカメラで、境界ボックスをライブビデオで表示する機能はライブタブにあり、録画済みのビデオで表示する機能は再生タブにあります。境界ボックスは、たとえば対象物を追跡する場合などに便利です。 境界ボックス機能を使用できるのは、特定の監視システム『11ページの"監視システムの別の特徴"参照』およびメタデータをサポートしているカメラに接続されている場合だけです。お持ちのユーザー権限によっては、一部のカメラから境界ボックスへのアクセスが制限される場合があります。
再生 > 独立再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが時間内の同じ点（再生時刻）から録画を再生するのに対し、再生タブで個別のカメラの録画を独立して再生する機能です。
設定 > オーバーレイボタンの編集	設定モードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボタンを追加するには、設定タブのオーバーレイボタン ペインが利用できない点に注意してください（これは オプションダイアログの ペインタブで設定します）。
設定 > ビデオバッファの編集	設定モードで、カメラプロパティ『82ページの"カメラ設定"参照』の一部としてビデオバッファを編集する機能。ライブビデオバッファを編集するには、セットアップタブの プロパティペインが利用できるようになっていない点に注意してください（これは、オプションダイアログの ペインタブで設定します）。

タイムラインのオプション

タイムラインのオプションでは、一般的なタイムラインの設定を指定できます。

使用できる場合、サーバーに従う列で、Sony - Network Video Management System Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバー制御であり、この場合、サーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	詳細
受信音声	タイムラインに受信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
送信音声	タイムラインに送信音声を表示するか、または非表示にするかを選択します。
モーション表示	タイムラインにモーションインジケータを表示するか、非表示にするかを選択します。
すべてのカメラのタイムライン	すべてのカメラのタイムラインを表示するか、非表示にするかを選択します。
再生	再生中に空白をスキップするかどうかを選択します。

エクスポートのオプション

エクスポートのオプションでは、一般的なエクスポートの設定を指定できます。

使用できる場合、[サーバーに従う]列で、Sony - Network Video Management System Smart Client がサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	詳細
エクスポート先	エクスポート先のパスを選択します。
プライバシーマスク	エクスポートでプライバシーマスクを使用可能にするかどうかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオのテキスト	メディアプレーヤーのフォーマットでエクスポートする場合に、ビデオのテキストをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
Network Video Management System フォーマット	Network Video Management System フォーマットでエクスポートできるかどうかを選択します。
Network Video Management System フォーマット - プロジェクトのコメント	Network Video Management System フォーマットでエクスポートする場合に、プロジェクトのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
Network Video Management System フォーマット - デバイスのコメント	Network Video Management System フォーマットでエクスポートする場合に、デバイスのコメントをオプション、必須または使用不可のどれにするかを選択します。
静止画像エクスポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

キーボードのオプション

キーボードのオプションによって、Sony - Network Video Management System Smart Client の特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを割り当てることもできます。Sony - Network Video Management System Smart Client には、すぐに使用できる少数の標準のキーボードショートカット 『48ページの"キーボードのショートカット"参照』も用意されています。

名前	詳細
ショートカットキーを押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。
新しいショートカットを使用	<p>選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グローバル : Sony - Network Video Management System Smart Client のすべてのタブで。 • 再生モード : 再生タブでのみ。 • ライブモード : ライブタブでのみ。 • 設定モード : 設定モードでのみ。
カテゴリ	<p>コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを 1 つ選択します。リストされているすべてのビューについて、個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、すべてを表示 のカテゴリを選択します。</p> <p>コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用したときだけ動作するものがあります。たとえば、PTZ 関連のコマンドに割り当てたキーボードショートカットは、PTZ カメラを使用しているときにしか機能しません。</p>
パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカメラビュー項目をコピーする パラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、 2;1 を入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1 ）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2 ）にコピーされます。

ジョイスティックのオプション

PTZ カメラの多くはジョイスティックに対応していますが、中にはジョイスティックでコントロールできないカメラもあります。

Sony - Network Video Management System Smart Client が新しいジョイスティックを検知すると、そのジョイスティックに対するデフォルトのパン/チルト/ズーム (PTZ) 設定が自動的に追加されます。また、Sony - Network Video Management System Smart Client ジョイスティックのオプションによって、使用しているのすべてのジョイスティックの設定をカスタマイズできます。

名前	詳細
ジョイスティックの選択	使用可能なジョイスティックのリストから選択します。
軸のセットアップ：名前	次の 3 つの軸があります。 <ul style="list-style-type: none"> • X 軸（水平） • Y 軸（垂直） • Z 軸（奥行きまたはズームレベル）。
軸のセットアップ：反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更します。例えば、ジョイスティックを右へ動かすと PTZ カメラが左へ移動し、ジョイスティックを手前へ動かすと PTZ カメラは下へ移動するよう選択します。
軸のセットアップ：絶対値	選択すると、相対位置方式（ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動）ではなく、固定位置を使用します。
軸のセットアップ：アクション	軸の機能を選択します。カメラの PTZ パン、カメラの PTZ チルト、カメラの PTZ ズーム、またはアクションなし。
軸のセットアップ：プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティックを該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾーン設定：パン/チルト	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸のセットアッププレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
デッドゾーン設定：ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸のセットアッププレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタンセットアップ：名前	ボタンの名前。
ボタンセットアップ：アクション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを 1 つ選択します。
ボタンセットアップ：パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカメラビュー項目をコピーする パラメータのウィンドウとビュー位置を指定する場合、 2;1 を入力すると、最初のビュー位置（ビュー位置 1）で、カメラがフロートウィンドウ（ウィンドウ 2）にコピーされます。
ボタンセットアップ：プレビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押します。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

アラームのオプション

アラームで音声による通知を再生するかどうかを選択します。

詳細オプション

詳細オプションによって、Sony - Network Video Management System Smart Client の詳細オプションをカスタマイズできます。詳細オプションとその操作方法がよく分からない場合は、デフォルト設定のままにしてください。一部の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続する場合は、【サーバーに従う】列を確認できます。この列を使用して、Management Client の Smart Client プロファイルで設定された Network Video Management System Smart Client が監視システムサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。特定の設定がすでにサーバーによって制御されているという場合もあります。この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

詳細オプション：

名前	説明
マルチキャスト	<p>システムでは、レコーディングサーバーからクライアントへのライブストリームのマルチキャストをサポートしています。多数の Network Video Management System Smart Client ユーザーが同じカメラからのライブビデオを再生しようとする場合に、マルチキャストによってシステムリソースの消費量を大幅に低減できます。マルチキャストは、複数のクライアントが同じカメラからのライブビデオを頻繁に要求し、Matrix 機能を使用する場合に特に便利です。</p> <p>マルチキャストは、記録されたビデオ/音声ではなく、ライブストリームでのみ可能です。</p> <p>有効がデフォルトの設定です。Management Client では、サーバーからクライアントへのマルチキャストを使用可能にするには、レコーディングサーバーおよびカメラを有効にする必要があります。</p> <p>無効にすると、マルチキャストは行われません。</p>
ハードウェアアクセラレーション	<p>ハードウェアアクセラレーションデコードが使用されているかどうかを制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPU の負荷が高くなります。ハードウェアアクセラレーションは、一部の CPU 負荷をグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)に移動します。これにより、コンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。主に、高フレームレートおよび高解像度の複数の H.264/H.265 ビデオストリームを表示する場合に便利です。</p> <p>標準がデフォルトの設定です。コンピュータのデコードリソースをスキャンし、使用可能な場合は常にハードウェアアクセラレーションを有効にします。</p> <p>【オフ】はハードウェアアクセラレーションを無効にします。CPU のみがデコードを処理します。</p>

名前	説明
最大デコードスレッド	<p>ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプションによって、ライブおよび再生モードのマルチコアコンピュータのパフォーマンスが改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。このため、この設定は、H.264/H.265のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用している場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があります。たとえば、JPEGまたはMPEG-4などを使用している場合は効果が低くなります。マルチスレッドでのデコードには一般に大量のメモリが必要になることに注意してください。最善の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要のあるカメラの数、これらのカメラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。</p> <p>標準では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラ位置当たり1つのコアのみが使用されます。</p> <p>標準がデフォルトの設定です。自動では、コンピュータはコアと同じカメラ位置当たりの数のスレッドを使用します。ただし、最大スレッド数は8であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。</p> <p>上級ユーザーは、8スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。</p> <p>この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードでのすべてのカメラ位置に影響を与えます。カメラ位置またはビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべてのカメラ位置およびビューに対し同様に適しているとは限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善とメモリ使用量との最適なバランスを達成するように設定を再調節することをお勧めします。</p>

名前	説明
インターレースの解除	<p>インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をスキャンして画像を更新し、次にすべての行をスキャンしていきます。スキャン時に処理する情報が少なくなるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによってちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変わる場合があります。インターレースを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでインターレースビデオが生成されないため、このオプションがインターレースされていないビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。</p> <p>フィルターなしがデフォルト設定です。インターレースの無効化が適用され、プロジェクトを移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示されます。これは、画像全体の偶数および奇数の行を組み合わせることで完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時にカメラによってキャプチャされないため、物体が動いていると、2本の行間で調整されないため、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響:不要。</p> <p>トップフィールドの垂直伸張:このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前の行（偶数）から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響:ポスト処理が必要な行数が半分になるため、フィルターなしオプションに比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。</p> <p>ボトムフィールドの垂直伸張:このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前の行（奇数）から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響:ポスト処理が必要な行数が半分になるため、フィルターなしオプションに比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。</p> <p>コンテンツの適応:このオプションでは、端がギザギザに表示される画像部分にフィルターを適用します。端がギザギザに表示される領域が検知されなければ、画像は処理されず渡されます。端のギザギザがなくなり、端がギザギザになる傾向がない画像部分では完全垂直解像度が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響:デコードおよびレンダリングされるフレーム当たりの総CPU使用量がおおよそ10%上がるため、フィルターなしオプションに比べ影響が大きくなります。</p>
ビデオ診断オーバーレイ	<p>選択したビューでビデオストリームの設定とパフォーマンスレベルを表示します。設定の検証または問題の診断を行う必要がある場合に便利です。</p> <p>次のオプションから選択します。</p> <p>非表示: ビデオ診断オーバーレイはありません。デフォルト設定。</p> <p>レベル 1: フレーム数/秒、ビデオコーデック、およびビデオ解像度。</p> <p>レベル 2: フレーム数/秒、ビデオコーデック、ビデオ解像度、マルチキャスト、およびハードウェアアクセラレーション状態。</p> <p>レベル 3: デバッグレベル。主にシステム管理者がシステムパフォーマンスをトラブルシューティングまたは最適化するためのものです。</p>

名前	説明
時間ゾーン	<p>事前に定義された時間帯またはカスタム時間ゾーンを選択します。使用できるオプションは以下のとおりです。</p> <p>ローカル : Sony - Network Video Management System Smart Client を実行しているコンピュータの時間帯</p> <p>Master Server の時間帯 : サーバーの時間帯</p> <p>協定世界時</p> <p>カスタム時間ゾーン : 特定の時間帯が必要な場合、このオプションを選択してから、カスタム時間ゾーンフィールドの使用可能な時間帯のリストから選択します。</p>
カスタム時間ゾーン	<p>時間帯フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を選択できます。別の時間帯にいる 2 人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。</p>
PDF レポートのフォーマット	PDF レポートのフォーマットとして、A4 またはレターを選択します。
PDF レポートのフォント	PDF レポートで使用するフォントを選択します。

言語のオプション

Sony - Network Video Management System Smart Client の言語バージョンを指定します。使用できる言語のリストから選択し、Sony - Network Video Management System Smart Client を再起動して変更を反映します。

Sony - Network Video Management System Smart Client の操作

ユーザー権限によって、操作方法が決定されます

各ユーザーの権限は、監視システムの管理者によって一元的に指定され、これらの権限によって Sony - Network Video Management System Smart Client の特定の機能を使用できるかどうかが決まります。

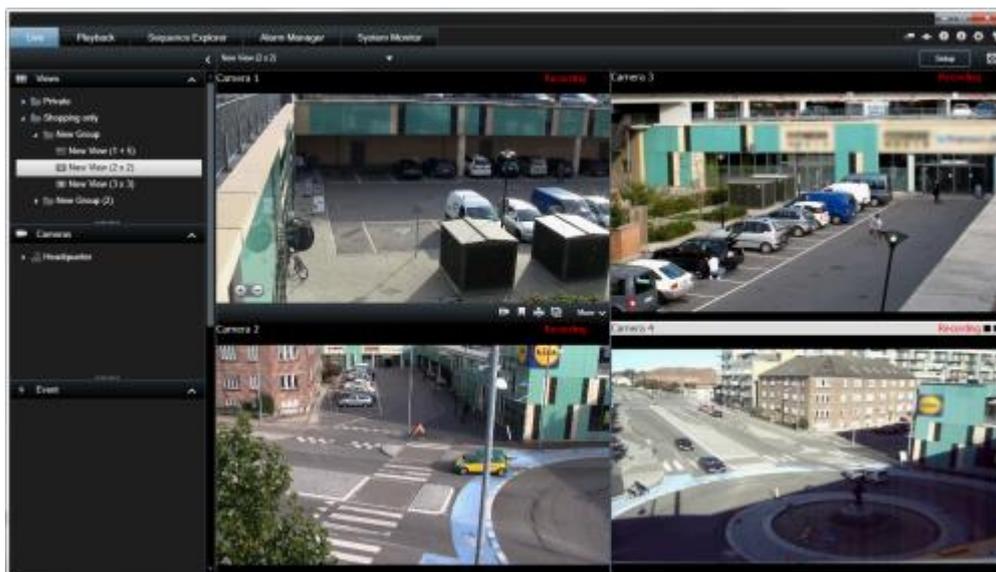
基本的に、システム管理者が制限できるユーザー権限には次のものがあります。

- Sony - Network Video Management System Smart Client へのアクセス
- それぞれのタブへのアクセス : ライブ、再生、アラームマネージャ、およびシーケンスエクスプローラ
- 特定の機能の使用
- ビューの作成 (ビューは 1 つまたは複数のカメラを表示する形態を決定します)
- 特定のカメラからのビデオの表示

Sony - Network Video Management System Smart Client の機能を使用する権限は、ユーザーによってかなり異なることがあります。特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合、ユーザー権限は、時刻、曜日などによっても異なります。たとえば、月曜から金曜の特定の時間内は特定のカメラからのビデオを再生できても、この時間外は再生できないことがあります。

ライブビデオについて

特定のユーザー権限がないと、**ライブタブ**にアクセスできないことがあります。Sony - Network Video Management System Smart Client でビデオを再生するには、監視システムのレコーディングサーバーが実行中である必要があります。ユーザー権限によっては、一部のカメラからのビデオを再生できない場合があります。



例：4台のカメラからのビデオを再生する**ライブタブ**

ライブタブには 『25ページの "[ライブ]タブ"参照』、音声 『92ページの "音声設定"参照』、自動切替 『78ページの "画面自動切替"参照』、ホットスポット 『79ページ』、**Matrix**、カメラのショートカットメニュー、パン/チルト/ズーム (PTZ) 『52ページの "PTZ および魚眼レンズ画像"参照』制御、デジタルズーム、イベント起動、出力起動、クイック再生など、さまざまな機能があります。

ライブタブに、カメラからのライブビデオが再生されていても、そのカメラからのビデオストリームが録画中であるとは限りません。通常、ビデオは監視システムサーバーの設定に従って録画されます。一般に、録画は、スケジュール(毎朝 10:00~11:30 など)に従って、および/または監視システムが特別なイベント(誰かが部屋に入ってきたことによってモーションが発生した、窓が開いたことをセンサーが認識した、Sony - Network Video Management System Smart Client で手動イベントが起動された)を検知したときに行われます。通常は、録画ビデオは**再生タブ**で表示しますが、**ライブタブ**で再生 『113ページの "個別再生を使用する録画済みビデオの表示"参照』することも可能です。

設定モードで、カメラのプロパティ 『82ページの "カメラ設定"参照』のタイトルバーが有効になっている場合は、ビデオの録画中に、カメラ画像の上にあるタイトルバーに「録画中」と表示されます。

ヒント： 特定のビューアイテムのカメラ位置からビデオを最大化するには、そのカメラ位置をダブルクリックします。通常のビューに戻すには、カメラ位置をもう 1 度ダブルクリックするだけです。

カメラが短時間しか録画していない場合があります。これは、ドアが開いた場合など、モーションが発生したときのみカメラからのビデオストリームを録画するよう監視システムサーバーが設定されているために、録画時間が短くなっている場合です。

したがって、カメラからのビデオストリームがすでに録画中であっても、**#分の記録開始**を選択できます。そうすれば、指定の分数が経過するまで、中断されることなく確実にカメラからのビデオストリームを録画できます。

サーバーで複数のストリームが設定されている場合、カメラツールバーから選択すると、一時的に別のストリームを表示できます。カメラのツールバーで、**詳細**をクリックして、使用可能なリストからストリームを選択します。

ビデオの手動録画

手動録画の機能は、接続している監視システムとユーザー権限によります。ライブビデオを見ながらの録画は、何かを発見した場合に便利です。録画するビューの位置のカメラのツールバーで、以下を選択します。

-  #分の記録開始

いったん開始されると、監視システムの管理者によって指定された分数だけ録画が行われます。ユーザーが分数を変更することや、指定の分数が経過する前に録画を停止することはできません。

-  手動録画を開始

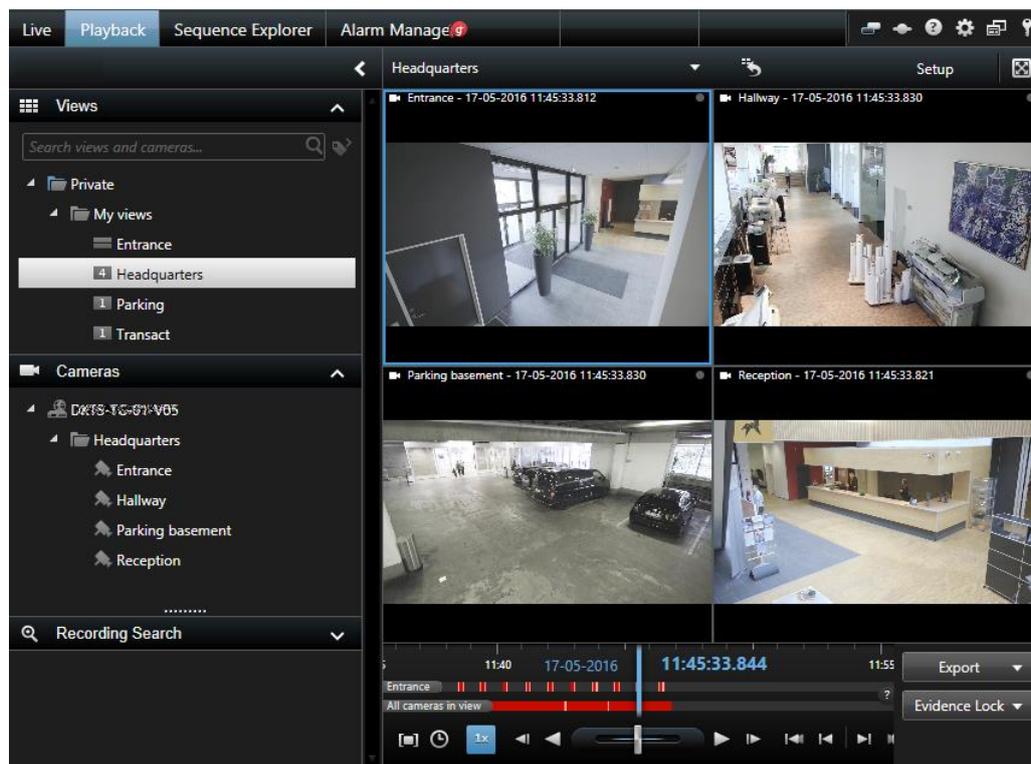
いったん開始されると、監視システムの管理者によって決められた分数だけ録画が継続します。または、アイコンを再度クリックして  手動で録画を停止することができます。

ヒント：複数のカメラからのビデオストリームを同時に録画することもできますが、その場合は1つずつ選択する必要があります。

録画ビデオについて

録画ビデオは、Sony - Network Video Management System Smart Client の【再生】タブで表示します。【再生】タブを選択すると、Sony - Network Video Management System Smart Client は、監視システムサーバーに接続し、カメラで録画されたビデオを選択したビューで再生します。この方法で、録画されたビデオを再生できます。

【再生】タブを使用するには特定のユーザー権限が必要となる場合があります、ユーザー権限によっては一部のカメラからのビデオの参照が制限されている場合があります。



【再生】タブには、タイムライン 『124ページ の"時間ナビ制御"参照』、スマートサーチ(特定のカメラからの録画内の指定範囲におけるモーションを検索)、および 2 種類のシーケンスブラウズ機能(プレビューオプション付き簡易リストまたはシーケンスエクスプローラ 『115ページ の"シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索"参照』の複数シーケンスのサムネイルビューを使用)など、録画済みのビデオを参照するための高度な機能が数多くあります。

ビデオを参照する機能以外にも、**【再生】**タブでは、音声を聴く(選択した Sony 監視システムに接続して(いる場合のみ)、ホットスポットの使用、デジタルズームの使用 『50ページ』、魚眼レンズ画像内のナビゲート 『52ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』、画像の印刷 『138ページ の"証拠を印刷する"参照』、AVI(ムービークリップ)、JPEG(静止画像)や Network Video Management System フォーマットでのエビデンスビデオのエクスポート 『132ページ の"Network Video Management System フォーマットの設定"参照』なども実行できます。

ヒント:ビュー内の特定のカメラ位置からのビデオを最大化するには、そのカメラ位置をダブルクリックします。通常のビューに戻すには、カメラ位置をもう 1 度ダブルクリックします。

【再生】タブでは、デフォルトでは、ビューにあるすべてのカメラが同じ時刻のポイント(マスター時刻)での録画が表示されます。ただし、マスター時刻とは無関係に各カメラの録画を再生、ナビゲートすることができます(**【オプション】** 『35ページ の"機能のオプション"参照』 ウィンドウで有効に設定されている場合)。

独立再生を使用して、**【ライブ】**タブから録画済みビデオを再生することもできますし、マスター時刻とは無関係にビデオを再生することもできます。

独立再生を使用する録画済みビデオの表示

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、または Matrix 位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

1. 録画ビデオを再生するカメラをマウスで横切ります。表示されるツールバーで、**独立再生**ボタンをクリックします。



独立再生のタイムラインが表示されます：



2. タイムライン 『125ページ』をドラッグして、再生するビデオが含まれる時間を選択します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、**再生タブで選択された時間の録画を表示**をクリックします。 。この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて再生タブで再生されます。

設定モードに入る

- 設定モードに入るには、Sony - Network Video Management System Smart Client のツールバーで、**設定**をクリックします。

設定モードでは、**設定**のボタンやペイン（プロパティ 『82ページ の"カメラ設定"参照』ペインなど）は、左側のペインにオレンジ色で表示されます。



デフォルトビューへ戻るには、**設定**ボタンを再度クリックします。

ビューの選択

ライブおよび再生タブのビューペインで、ビューを選択できます。

- ビューペインで**個人**ビューまたは**共有**ビューを選択し、該当するビューグループで使用可能なビューのいずれかを選択します。

ペインもショートカットも表示されていない場合は、オプション 『34ページ の"ペインのオプション"参照』 ウィンドウでペインが使用可能かどうかを確認してください。

ビューにショートカット番号が割り当てられている 『64ページ の"ビューへショートカット番号を割り当てる"参照』場合は、キーボードショートカットを使用して 『48ページ の"キーボードのショートカット"参照』 ビューを選択することもできます。

フル画面表示

- 使用している Sony - Network Video Management System Smart Client をフル画面モードで表示するには、Sony - Network Video Management System Smart Client のツールバーで、フル画面表示  ボタンをクリックします(またはキーボードの F11 を押します)。

フル画面モードに変更すると、ツールバーやペインは非表示になります。ツールバーやペインを再度表示するには、マウスを画面の最上部へ移動させます。

デフォルトビューへ戻るには、ESC キーまたは F11 キーを押します。

単一の画像のコピー

選択したカメラから 1 つの静止画像をコピーできます。コピーした画像はその後、ワープロソフトや E メールクライアントなど、他のアプリケーションに (ビットマップ画像として) 貼り付けることができます。1 台のカメラからコピーできる画像は 1 度に 1 つだけです。

- カメラのツールバーで、クリップボードへコピーアイコンをクリックして画像をコピーします。



キーボードのショートカット

ライブタブや再生タブで作業する場合、簡単なキーボードのショートカットを多数使用できます。

以下のショートカットのプラス記号は、キーを示しているのではなく、2 つ以上のキーを押すことを意味していません。たとえば、「/+ENTER」というキーボードショートカットは、スラッシュ(/)キーを押してから ENTER キーを押すことを示します。

こうしたショートカットは、Matrix コンテンツや静止画像を含んでいるビュー位置では使用できません。

押すキー	実行される操作
ENTER	選択されたビュー位置の最大表示と標準表示を切り替えます。
ALT	特定のビューアイテムを選択します。ALT を使用すると、画面に表示される数字を入力して、ビューアイテムに移動できます。ビューアイテムがフォーカスされている場合には、青色のフレームでマークされています。 PTZ カメラやホットスポット 『79ページ』を使用している場合、ジョイスティックでカメラをコントロールしたり、マウスを使用せずにホットスポットに直接ビューアイテムを送信できます。
/+<カメラのショートカット番号>+ENTER	選択されたビューアイテムに表示されているカメラを、押したショートカット番号のカメラと置き換えます。例：表示するカメラのショートカット番号が 6 の場合、 /+6+ENTER を押します。 監視システムによってはカメラのショートカット番号を使用していない場合があります。カメラのショートカット番号はサーバーで定義されます。

押すキー	実行される操作
/+ENTER	選択されたビューアイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。
/+ /+ENTER	すべてのビューアイテムに表示されているカメラを、デフォルトのカメラと置き換えます。
+<view shortcut number>+ENTER	<p>選択されたビューを、ショートカット番号が一致するビューに変更します。例：表示するカメラのショートカット番号が 8 の場合、+ 8+ENTER を押します。</p> <p>ビューのショートカット番号を使用していない場合があります。ビューのショートカット番号を使用している場合は、ビューペインのライブタブで、ビュー名の前に括弧で囲まれて表示されます。ビューのショートカット番号は、設定モードで、ライブタブで定義します。</p>
6 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ右へ移動させます。
4 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ左へ移動させます。
8 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ上へ移動させます。
2 (数字キーパッドのみ)	ビュー位置の選択を 1 つ下へ移動させます。

また、Sony - Network Video Management System Smart Client の特定の操作に対してカスタムのショートカットキーの組み合わせを割り当てる 『37ページ の"キーボードのオプション"参照』 こともできます。

デジタルズーム、パンチルトズーム、360°レンズ画像

デジタルズーム

デジタルズームについて

デジタルズームを使って画像の一部だけを拡大表示できるため、その部分を詳しく見ることができます。デジタルズームは、カメラ自体に光学ズーム機能が搭載されていない場合に便利な機能です。デジタルズームを使用してもビデオの録画には影響はありません。カメラの標準フォーマットで録画されます。後で録画を再生する場合、再生タブで同じようにデジタルズームを使用することができます。

PTZ ではないカメラでは、デジタルズームはデフォルトで有効になっています。1 台のカメラでデジタルズームを有効または無効にすると、ビューにあるすべてのカメラに影響します。PTZ カメラでは、この設定は一度に 1 台のカメラにだけ適用されます。

証拠をエクスポート 『132ページ の"Network Video Management System フォーマットの設定"参照』する場合、AVI または JPEG フォーマットであれば、標準の画像またはデジタルズームした画像のどちらをエクスポートするか選択できます。データベースフォーマットでエクスポートする場合は、受信者が、エクスポートされた記録をデジタルズームできるため、この選択はできません。デジタルズームを使用した画像を印刷 『138ページ の"証拠を印刷する"参照』する場合は、その画像のデジタルズームされた部分が印刷されます。

デジタルズームの使用

1. 画面自動切替またはマッププレビューのカメラのツールバーのライブまたは再生タブで、詳細 > デジタルズームをクリックして有効にします。

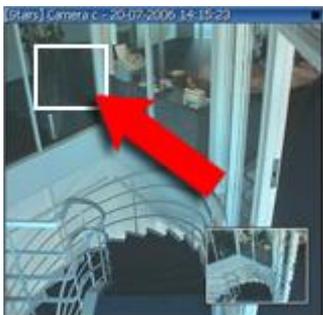


ヒント：マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、CTRL キーを押したまま、マウスを動かします。

ビューの右下隅に小さな概要フレーム（ズームインジケータ）が表示され、エリアにズームインした場合に画像全体の概要を表示します。



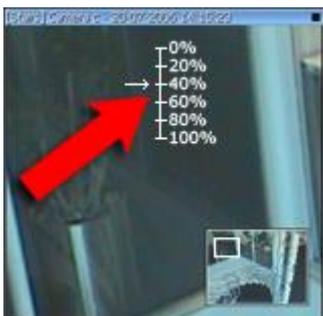
2. ズームする画像の内側で、マウスボタンを押したままにします。選択されたエリアは、白い枠線で強調表示されます。マウスボタンを離すと、ズームが適用されます。



3. ズームレベルを維持したままその画像の他のエリアへ移動する場合は、全体図フレーム内で、強調表示されているエリアをドラッグして必要な位置へ移動させてください。



4. ズームレベルスライダーを使用してズームレベルを調整するには、**SHIF** キーを押したまま画像の内側をクリックし、両方とも押したまま、マウスを動かしてズームレベルスライダーを上下させます。



5. **0%**のズームレベルを選択すると、画像全体が再表示されます。

ヒント： マウスにスクロールホイールが付いている場合は、それを使ってズームレベルを調整できます。多くのマウスで、スクロールホイールまたは中央ボタンをクリックすると画像全体の表示に簡単に戻れます。

よくある質問：デジタルズーム

光学ズームとデジタルズームの違いは何ですか？

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提供します。デジタルズームの場合、画像を一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズへ戻すことができます。これは補間と呼ばれるプロセスです。そのため、デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質が低くなります。

デジタルズームは PTZ カメラに関係がありますか?

パン/チルト/ズーム (PTZ) カメラのライブビデオを見る場合、PTZ カメラの光学ズームを使用できるため、デジタルズームは PTZ カメラにはあまり関係がありません。ただしデジタルズーム機能は、たとえば、PTZ カメラの光学ズーム機能を使用するユーザー権限がない場合に使用できます。

ナビゲーションボタンが表示されないのはなぜですか?

ビデオを再生しているカメラが PTZ カメラでなければ、ズームインできるエリアは 1 つだけであり、ズームボタンは 1 つしかありません。画像のあるエリアにズームインすると、PTZ ナビゲーションボタンへのアクセスが可能となり、このズームエリア内で移動できます。

PTZ および魚眼レンズ画像

監視システムによっては、魚眼カメラの使用がサポートされていない場合があります。また、魚眼カメラによっては、Microsoft Windows の 64 ビットバージョンでサポートされていない場合があります。

ユーザー権限によっては、一部のカメラからパン/チルト/ズーム(PTZ)管理へアクセスできない場合があります。PTZ 機能は、特定の監視システムに接続している場合に制限されることがあります。

特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。 <http://www.sony.net/CameraSystem>。

魚眼レンズ画像

魚眼カメラや魚眼レンズがビューに含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示される PTZ ナビゲーションボタン(魚眼カメラの種類によっては、独自のズームボタンがあります)をクリックして、魚眼カメラ画像をナビゲートすることができます。PTZ の丸いボタンを使うと、カメラをすばやくデフォルト位置へ移動できます。ズームインやズームアウトは、**プラス (+)**および**マイナス (-)**ボタンを使用します。マウスにスクロールホイールが付いている場合は、スクロールさせてズームインやズームアウトを行うことができます。スクロールホイールまたは中央ボタンをクリックするとデフォルトビューに戻ります。



PTZ ナビゲーションボタンおよび仮想ジョイスティックのマウスポインタ

マウスによっては、スクロールホイールが特定の操作に割り当てられている場合があります、その場合はズームできません。マウスの設定マニュアルを参照してください。

魚眼レンズ画像のナビゲーションでプリセット 『53ページ の"定義済みの PTZ プリセット位置までカメラを移動する"参照』を使用することはできませんが、お気に入りの位置を保存することができます。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義

魚眼レンズカメラの位置のみを保存できます。

1. 保存する魚眼レンズ画像内の位置に移動します。
2. カメラのツールバーで、**詳細 > 魚眼レンズの位置の保存**をクリックして、位置を保存します。



3. 魚眼レンズの位置に戻るには、カメラのツールバーで**詳細 > 魚眼レンズの位置のロード**をクリックします。

PTZ 画像

ビュー (画面自動切替またはマッププレビューのビューを含む) に PTZ カメラ画像がある場合、オーバーレイ PTZ ナビゲーションボタンを使用して PTZ カメラを制御することができます。セットアップモードでは、【プロパティ】ペインでビューアイテムの PTZ クリックモードを定義できます。既定のクリックして中央揃えおよび仮想ジョイスティックから選択できます。Sony - Network Video Management System Smart Client オプション『32ページ の"Network Video Management System Smart Client の構成"参照』によって既定値が定義されます。

ヒント: ほとんどの PTZ カメラはジョイスティックとポイントアンドクリックコントロールをサポートします。ジョイスティックコントロールはカスタマイズ『37ページ の"ジョイスティックのオプション"参照』できます。ほとんどの PTZ カメラは、カメラ画像内をポイントアンドクリックするだけで、制御することができます。PTZ カメラからの画像にマウスポインタを移動させたときに、次のような十字カーソルに変わる場合は、カメラがポイントアンドクリックコントロールをサポートしています。



十字カーソルはポイントアンドクリックコントロールを意味します。カメラによって、この十字カーソルの外観が異なります。

一部のカメラでは長方形で囲まれたクロスヘアが表示されます。この場合、拡大する画像の周囲の四角形をドラッグして、特定のエリアをズームすることができます。このタイプのカメラは、キーボードの **Shift** キーを押したままマウスを上下に動かすと画像内にズームレベルスライダーが表示され、ズームレベルを調整できます。

定義済みの PTZ プリセット位置までカメラを移動する

PTZ カメラをあらかじめ定義された位置に移動するには、PTZ カメラに定義された使用可能なプリセットのリストから PTZ プリセット位置を選択します。

1. ライブタブでのカメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックして、PTZ プリセット位置メニューを開きます。
2. メニューの PTZ プリセット位置を選択して、カメラを必要な位置へ移動させます。

アイコンが緑色になります。

プリセット **ホーム** を選択した場合、カメラが既定の位置まで移動します。

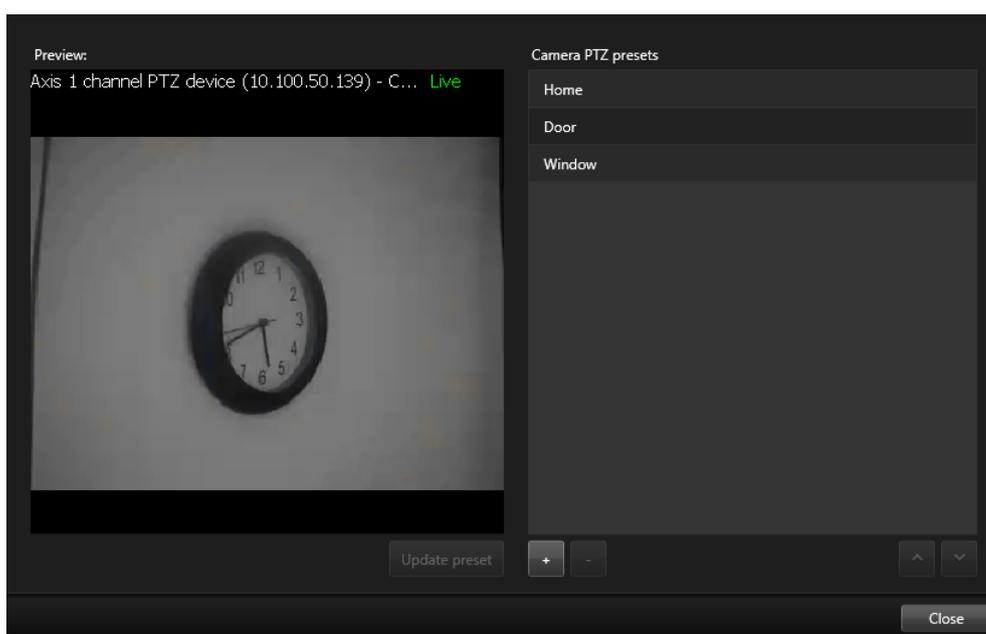
PTZ プリセットの管理

監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』によっては、PTZ プリセットの作成、編集、および削除ができます。

PTZ プリセットの追加

追加の PTZ プリセットを定義できます。

1. ビューで、新しい PTZ プリセット位置を追加する対象の PTZ カメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **[PTZ プリセットの管理]** をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



4.  をクリックして、新しいプリセットエントリを追加します。
5. PTZ プリセット位置名を選択し、PTZ プリセット位置の名前を入力します。
6. PTZ ボタンを使用して、必要な位置に移動し、**[プリセットの更新]** をクリックして保存します。
7. 矢印を使用して、リスト内で PTZ プリセット位置を上下に移動します。リストに含まれるプリセットが多い場合は、この操作が便利です。

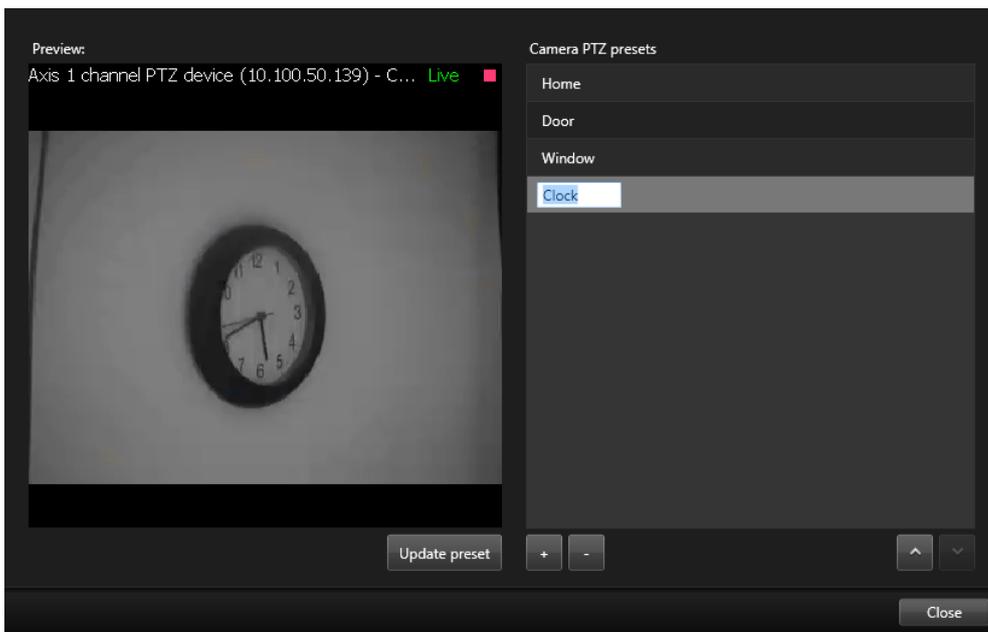
PTZ プリセットの削除

既存のプリセットを削除するには、プリセットを選択し、 をクリックします。

PTZ プリセットの編集

1. PTZ プリセット位置の名前を編集するには、PTZ プリセット位置名を選択します。

2. テキストをダブルクリックし、既存の名前を上書きします。



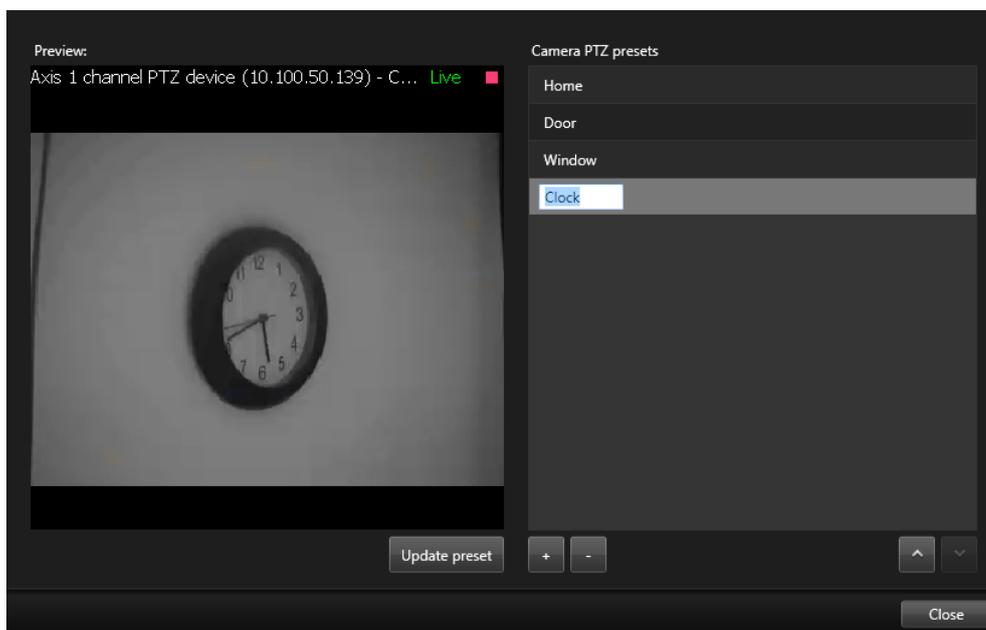
3. PTZ ボタンを使用して、必要な位置に移動し、**【プリセットの更新】**をクリックして保存します。
4. 閉じるをクリックします。

PTZ プリセットの編集

プリセットの名前変更やプリセット位置の変更など、既存の PTZ プリセットを変更できます。

1. ビューで、PTZ プリセット位置を修正したい PTZ カメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **PTZ プリセット位置の管理**をクリックし、ダイアログボックスで PTZ プリセット位置を選択します。

4. プリセット名を編集するには、PTZ プリセット位置名が強調表示されているのを確認します。テキストをクリックし、既存の名前を上書きします。

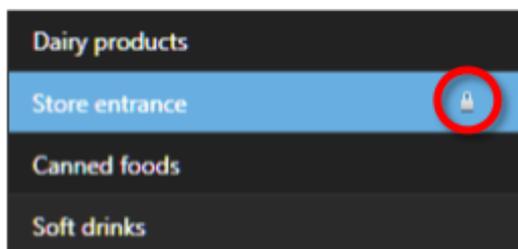


5. カメラが正しい位置にない場合は、PTZ ボタンを使用して目的の位置に移動してから、プリセットの更新をクリックして保存します。
6. 上下矢印を使用して、リスト内で PTZ プリセット位置を移動します。
7. 閉じるをクリックします。

ロックされた PTZ プリセット

お持ちの監視システム『11ページの"監視システムの別の特徴"参照』により、PTZ プリセットがロックされている場合があります。

システム管理者は、PTZ プリセットをロックして、名前の変更や削除から保護し、第三者によるポジションの変更を防止することができます。



システム管理者は、PTZ プリセットがロックされているか否かを決定します。

PTZ パトロールの停止

PTZ カメラは、スケジュールに従い、複数の PTZ プリセット間を継続的に移動できます。継続するシステムパトロールを停止できます。

重要な理由がある場合にのみ、システムパトロールを停止してください。通常、システム管理者はパトロールを綿密に計画し、組織の監視ニーズに対応させています。

1. ライブタブで、目的のビューを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **[PTZ パトロールの停止]**を選択すると、手動でパトロールを停止できます。
4. システムパトロールを再開するには、もう一度 **PTZ パトロールの停止** コマンドを選択します。

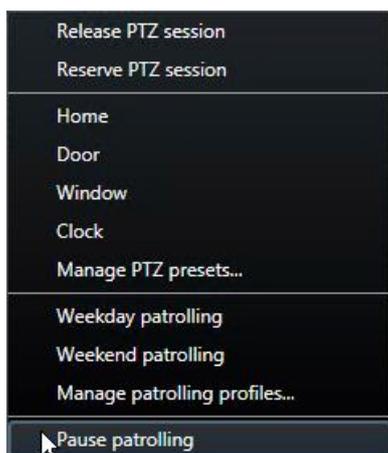
パトロールの一時停止

監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』によっては、パトロールを一時停止できます。

必要な PTZ 優先度がある場合は、システムパトロールをまたは他のユーザーが開始した手動パトロールを一時停止できます。自分の手動パトロールはいつでも一時停止できます。これは、カメラを制御するのにタイムアウトを長くする必要がある場合に有効です。

デフォルトではパトロールは 10 分間一時停止しますが、システム管理者がこの値を変更している場合があります。

1. ビューで、パトロールを一時停止する PTZ カメラを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ アイコン  をクリックし、PTZ メニューを開きます。
3. **[パトロールの一時停止]**をクリックします。



パトロールの一時停止中は、すべてのユーザーの**[パトロールの一時停止]**メニュー項目の前にチェックマーク  が表示されます。自分の PTZ アイコンが緑色になり、他のすべてのユーザーの PTZ アイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

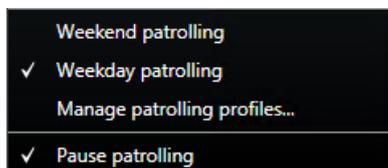
カメラを定義済みの PTZ プリセット位置まで移動するか、手動で移動した場合は、パトロールの一時停止によりタイムアウトがリセットされます。手動パトロール設定を選択すると、パトロールの一時停止セッションが失われます。

4. 一時停止を解除するには、**[パトロールの一時停止]**をもう一度選択します。

前のパトロールが再開されるか、他のユーザーがカメラを使用できるようになります。

自分よりも低い PTZ 優先度のユーザーが平日などの手動パトロールを開始した場合は、それを一時停止し、カメラを制御できます。

1. **【パトロールの一時停止】**をクリックします。



別のユーザーの手動パトロールを一時停止すると、すべてのユーザーの**【パトロールの一時停止】**メニュー項目とパトロール設定の前にチェックマーク  が表示されます。自分の PTZ アイコンが緑色になり、他のユーザーの PTZ アイコンは赤色になります。このように、他のユーザーは別のユーザーがカメラを制御していることがわかります。

2. 一時停止を解除するには、**【パトロールの一時停止】**をもう一度選択します。

手動パトロールが再開されます（この例では平日）。

手動での出力のアクティブ化

照明の点灯やサイレンの始動など、監視システムで外部出力が定義されている場合は、**ライブタブ**からこれらの外部出力をアクティブ化できます。ユーザー権限によっては、出力の開始が制限される場合があることに注意してください。

手動で出力を開始するには、2つの方法があります。**出力ペイン**を使用するか、使用可能である場合、**オーバーレイボタン**を使用します(オーバーレイボタンが使用可能である場合は、ビューの上にマウスを移動させると表示されます)。

- **ライブの出力ペイン**で、必要な出力を選択してから、**アクティブ化**をクリックします。一部の監視システムでは、選択可能な出力のリストはサーバー別にグループ化され、その他のシステムでは、カメラ別にグループ化されます。サーバーが赤色のアイコン  で表示されている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーでは出力をアクティブ化できません。

アクティブ化が失敗すると、メッセージが表示されます。

監視と通信

ワンルームの店舗か大規模な産業施設を警備しているかどうかに関係なく、Network Video Management System システムでは、環境内で発生している事象を常に監視できます。このセクションのトピックでは、Network Video Management System Smart Client のコンテンツを表示して操作する方法について説明します。

ビューについて

Network Video Management System Smart Client は、**ライブ** と **再生** モードで異なる機能を表示することができます。この設定を始める前に、あなたの条件に合致するワーキングエリアを生成するために設定できる内容や、閲覧できる対象を示す用語を知っておくと便利です。

	<p>ビュー</p> <p>コンテンツを表示する地理的レイアウトのことを、ビューと呼びます。</p> <p>表示したい内容により、ビューには、100 台以上のカメラからのコンテンツ、ウェブページ、静止画像、テキストなどを含めることができます。</p> <p>Sony - Network Video Management System Smart Client が扱うことのできるビューの数は無制限で、様々なグループのコンテンツとその他のコンテンツ間を切り替えることができます。</p> <p>各ビューのレイアウトは、コンテンツに合わせてカスタマイズすることができます。</p>
	<p>VIEW ITEM (表示項目)</p> <p>図中の赤い四角は、このビューにある 4 つの表示項目のうちの 1 つを示しています。</p> <p>ビューには、いくつもの表示項目、つまりあなたが追加するコンテンツを含むセルが含まれています。</p> <p>コンテンツは、表示項目に個別に追加されます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> • 配信映像 (生のカメラまたは再生したビデオファイルからのもの) • アクセスモニター • カメラ・ナビゲーター • カラーセル • ホットスポット • HTML ページ • 地図 • Matrix • Smart Wall (システムへのアドオンである場合があります) • テキスト 	<p>コンテンツ</p> <p>希望のレイアウトのビューを設定したら、機能やコンテンツを表示項目に追加することができます。</p> <p>の左柄のペインにあるシステム概要ウィンドウから関連するコンテンツをドラッグして、表示項目にコンテンツを追加します Network Video Management System Smart Client。</p>
--	--

概要の維持がしやすいように、全てのビューは、グループと呼ばれるフォルダに保管されています。グループには、無制限の数のビューを保管することができ、必要であれば、サブグループも入れることができます。ビューは、プライベートにすることも他のユーザーと共有することもできます。

ビューに関する情報を含めたユーザー設定は、監視システムサーバーの中心に保管されているので、をインストールしているパソコンなら、プライベートでも共有でもビューを使うことができます。ただし、自分のユーザー名とパスワードでログインした場合に限ります。

ビューの作成および管理

ビューを作成するには、特定のユーザー権限が必要です。

セットアップモードでは、グループやビューを作成し、どのカメラがそれぞれのビューに含まれるかを指定することができます。第 1 階層フォルダの背景が赤色であれば、保護されていることを意味します。



保護されている第 1 階層フォルダでビューにアクセスすることはできますが、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューとグループを編集できるかどうかは、割り当てられたユーザー権限によって異なります。基本的に、ビューまたはグループを作成できる場合は編集する権限もあります。詳しくは、監視システム管理者にお問い合わせください。

ビューを作成するには、まず追加先のグループがなければなりません。既存のグループ内に新しいビューを作成するか、ビューのための新しいグループを作成することができます。第 1 階層の共有フォルダの下にビューを作成するには、まずその共有フォルダでグループを作成する必要があります。

1 つのグループで作成できるビューの数に制限はありません。必要に応じて、任意の数のサブグループも作成できます。

個人ビューと共有ビューの作成

ビューには、個人ビューと共有ビューがあります。

- **個人ビュー**は、そのビューを作成したユーザーだけがアクセスできます。
- **共有ビュー**は、同じビューを多数の Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーと共有できます。共有するには、すべてのビューを監視システムサーバーに保存しておく必要があります。使用している監視システムの種類『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』によって、共有ビューをすべての Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーで共有できる場合と、特定の Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーが選択された共有ビューにアクセスできる場合があります。

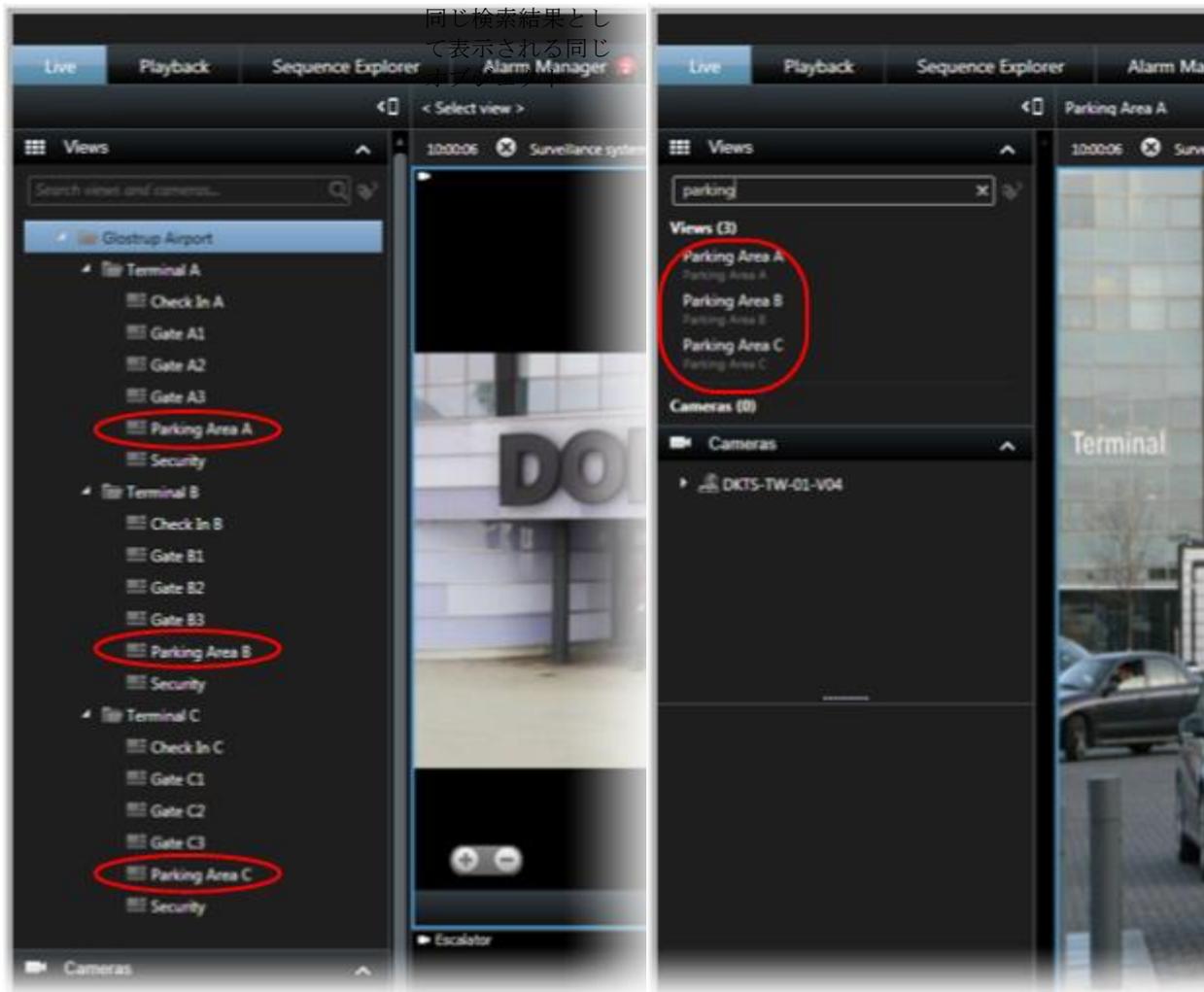
通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。たとえば、ユーザーが独自のビューを作成する必要がないよう、監視システム管理者は多数の共有ビューを作成して保持します。

ビューおよびビューのグループ

ビューのグループのより大きい、あるいはより複雑な階層構造があると、検索機能はナビゲーションを容易にするだけではありません。既存の構造にわたる検索機能も追加されています。この機能がどのように機能するかは、組織がビューやカメラに対してよく検討されて一貫性のある名前付け規則を持つかどうかによります。

下の例は、関連するビューの概要が必要な場合に、複雑な階層構造をナビゲートする代わりに検索のメリットを示しています。

ビューグループの階層に表示されるオブジェクト。



特定のカメラまたはビュー項目のタイプを含んでいるビューを検索することができます。たとえば、PTZ カメラ、特定のメーカーのカメラを含んでいるすべてのビュー、あるいはこれらのビュー項目タイプを含んでいるビューなどを表示したい場合：

- マップ
- アラーム
- Matrix
- HTML
- ビューでのカメラの名前

最後に、キーワードを検索することもできます。

ビューグループの作成

1. 設定モードのビューペインで、グループを追加する個人または共有の第 1 階層フォルダを選択します。

2. グループの**新規作成**をクリックします。



新グループという名前の新しいグループが作成されます。

3. 選択して、**新グループ**をクリックして、名前を上書きします。
4. これで、このグループ内でビューを作成できるようになりました。

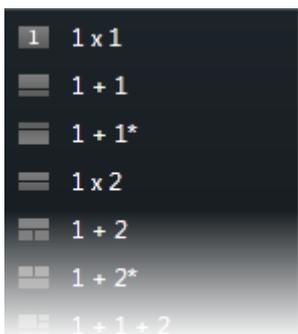
ビューの作成

すべてのユーザーが監視システムのすべてのカメラへアクセスできるわけではないので、共有ビューに含める機能のうち、一部の機能は旧バージョンの **Sony - Network Video Management System Smart Client** ではサポートされていない場合があります。したがって、共有するユーザーに必要な権限があり、同じバージョンの **Sony - Network Video Management System Smart Client** を実行していることを必ず確認してください。Sony - Network Video Management System Smart Client のバージョンを確認するには、Sony - Network Video Management System Smart Client ウィンドウの右上隅の ⓘ をクリックします。

1. 設定モードの**ビュー**ペインで、ビューを作成するグループを選択します。
2. **新規ビューを作成**ボタンをクリックします。



3. 新しいビューのレイアウトを選択します。1つのビューでは、最高で **100 個 (10×10)** のカメラを表示するレイアウトを選択できます。使用可能なレイアウトは縦横比(高さとの関係、**4:3** または **16:9**)、通常のコンテンツまたは縦長のコンテンツ(高さが幅より大きい場合)に対して最適化されているかどうかに基づいてグループ化されます。



4. デフォルトの**新しいビュー**の名前を上書きして、ビューの名前を入力します。

ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する

重要: ビューは、同一のセッション内でコピーできます。ビューを **Sony - Network Video Management System Smart Client** から別のクライアントへコピーすることはできません。

ビューがあり、それを再利用する場合、コピーすることができます。また、ビューのグループや個人ビューを共有ビューにコピーすることもできます。

1. 設定モードのナビゲーションペインで、ビューを選択します。

2. コピーをクリックします。



あるいは、CTRL+C を押します。

3. ビューをコピーする場所に移動して、貼り付けを選択します。



あるいは、CTRL+V を押します。

ヒント：代わりに、ビューを選択して、別のフォルダへドラッグすることも可能です。

4. コピーしたビューの名前は、デフォルトで、元の名前に (2) が付きます。名前を変更するには、**名前の変更**をクリックします。



あるいは、右クリックして、**名前変更**を選択します。

- ビューを削除するには、関連するビューを選択し、**削除**をクリックするか、



右クリックして、**削除**を選択します。

重要：グループを削除すると、そのグループ内のすべてのビューとサブグループも削除されます。

ビューへショートカット番号を割り当てる

設定モードで、ビューにショートカット番号を割り当てて、ユーザーが標準のキーボードショートカット『48ページ』の"キーボードのショートカット"参照』を使用してビューを選択できるようにすることが可能です。

1. 設定モードで、**ビュー**で、ショートカットを割り当てたいビューを選択します。
2. **ショートカット**フィールドに指定するショートカット番号を入力し、ENTER キーを押します。指定されたショートカット番号が、ビューの名前の前に括弧付きで表示されます。
3. 必要に応じて、他のビューにも同じ操作を繰り返します。

プライバシーマスク

プライバシーマスクは、選択した監視システム『11ページ』の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。

プライバシーマスクを使用して、録画されたビデオの機密情報を保護するには、カメラの視野の特定の領域を遮断します。たとえば、個人の住宅の窓がカメラに写っている場合は、プライバシーマスクをウィンドウに適用できます。

次の例では、プライバシーマスクが隣接する建物の5つの窓に適用されています。



プライバシーマスクはシステム管理者によってカメラに適用されます。Network Video Management System Smart Client のビューではマスクの追加または削除はできません。ただし、ビデオをエクスポート 『132ページ』の"Network Video Management System フォーマットの設定"参照』するときには、プライバシーマスクを追加できます。詳細については、「エクスポート中に録画の領域をマスクする 『136ページ』」を参照してください。

注意: プライバシーマスクを含むビデオをエクスポートすると、特に Network Video Management System フォーマットでエクスポートする場合に、エクスポートプロセスにかかる時間がかなり長くなり、エクスポートファイルのサイズが大きくなる場合があります。

ビューにコンテンツを追加する

ビューおよびカメラの検索

ビューおよびカメラに関する検索機能で、使用可能なビューおよびカメラを直接検索できます。名前での検索だけでなく、説明、タイプ、キーワードによる検索も可能です。

検索フィールドの横にある  をクリックすると、共通キーワードの概要を検索できます。

入力中に、ビューやカメラの一致結果を表示できます。

カメラの検索

ライブおよび再生モードでカメラを検索すると、選択したカメラの量に最適化された一時的ビューでカメラを表示できます。

単一のカメラをクリックして 1:1 ビューで表示したり、カメラの結果の見出しをクリックして、検出されたカメラをすべて(あるいは最初の 25)表示することもできます。また、1 つまたは複数のカメラをクリックしながら、**CTRL** または **Shift** を押すと、手動でカメラを選択することもできます。**Enter** を押して、カメラを表示します。

一時的ビューに基づいて新しいビューを作成することはできません。

以下のカメラの特性を検索することができます：

- 名前
- 説明

- 機能：
 - PTZ
 - 音声
 - 入力
 - 出力
- 特定のカメラを含んでいるビュー
- レコーディングサーバーの名前またはアドレス(接続されているカメラの表示)

ヒント：システム管理者は、監視サーバーのカメラの説明フィールドに自由なテキストタグを追加して、カメラのグループ化やこうしたタグの検索を可能にすることができます。例としては、説明フィールドに「アウトドア」というタグを使用するすべてのアウトドアカメラなどがあります。こうした場合、このタイプのカメラがすべて簡単に検索できます。

ビューにカメラを追加する

- 設定モードで、カメラを追加するビューを選択します。
- 概要**ペインで、該当するサーバー  を展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。

多くの場合、一つのサーバーしか表示されませんが、大規模な監視システムと接続されている場合は、複数のサーバーの階層構造が表示されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。

- リストからカメラを選択し、ビューで追加する位置までドラッグします。接続が確立されていれば、カメラからの画像が選択した位置に表示されます。接続が確立されていなければ、カメラの名前だけが表示されます。画像の一部が黒く表示されるのは、プライバシーマスク 『64ページ』が使用されているからです。

プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます 『82ページ の"カメラ設定"参照』。ビューで使用するすべてのカメラについて同様に設定します。

複数のカメラを一度にビューに追加する場合は(たとえば、サーバーのカメラフォルダにあるすべてのカメラ)、フォルダをビューにドラッグするだけです。この場合、選択した位置から自動的にすべてのカメラがビューに追加されます。すべてを表示するのに十分な数の位置がビューにあることを確認してください。

別のカメラを位置にドラッグすることで、使用するビューに含まれるカメラを簡単に変更できます。

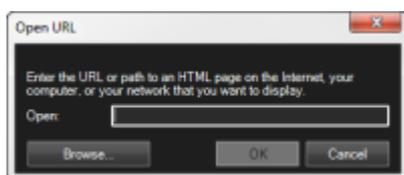
ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する

ビューおよび Smart Wall には HTML ページを追加できます。たとえば、これは、企業の Web ページ、インターネット地図サービス、リンクのコレクション、E ラーニングページなどで手順を表示する場合に有用です。



例：ビューに挿入された会社のホームページ

1. セットアップモードで、システム概要ペインで、ビューへ HTML ページのアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. URL を開くウィンドウが開きます。



3. URL を開くウィンドウの開くフィールドに、表示する HTML ページの場所を入力します（例：<http://www.mywebsite.com/mywebpage.htm>）。

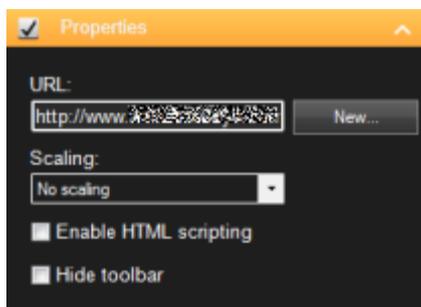
- または -

HTML ページが使用しているコンピュータにローカルに保存されている場合は、コンピュータ上のその場所を指定するか(例：<C:\myfiles\mywebpage.htm>)、または参照...をクリックして、必要な HTML ページを参照します。

4. [OK]をクリックします。

ビューに HTML ページを追加した後に、ページのプロパティを指定できます。

1. セットアップモードで、ビューへインポートした HTML ページを選択します。プロパティペインで、必要なプロパティを変更します。



- **URL** : **新規**をクリックして、新しい URL または HTML ページの場所を指定します。
- **スケーリング** : HTML ページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされた HTML ページのコンテンツとその表示法によってまったく異なります。

原則として、1280×1024 のような高スケーリング値の場合は HTML ページのテキストが比較的小さく表示され、スクロールしなくても多くのコンテンツを見ることができます。反対に、320×200 のような低スケーリング値では、HTML ページのテキストが比較的大きく表示されるため、スクロールせずに表示できるコンテンツ量が比較的小さくなります。

- **HTML スクリプトを有効化** : この機能は、HTML ページが Sony - Network Video Management System Smart Client 内でナビゲートしたり機能をトリガするためにカスタマイズされている HTML ページである場合にのみ、使用してください(HTML ページを使ってナビゲートする『72ページ の"HTML ページを使ったナビゲーション"参照』にあるカスタム HTML ページの例を参照)。

この機能を選択すると、Sony - Network Video Management System Smart Client 内でのナビゲーションや多数の機能のコントロールに必要なクライアントスクリプトが、HTML ページに追加されます。このような目的に使用しない HTML ページの場合は、クライアントスクリプトを使用できないだけでなく、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

- **ツールバーを隠す** : デフォルトで、インポートされた各 HTML ページに、単純なナビゲーションバーが挿入されます。ナビゲーションバーには、以下の 5 つのボタンがあります。巻き戻し、早送り、更新、ホーム、印刷。



ナビゲーションバーが必要ない場合は、**ツールバーを隠す**を使って非表示にできます。

インポートした HTML ページにリンクが含まれている場合は、それらのリンクに target='blank' 属性を含めることをお勧めします(例 : Link)。これにより、リンクをクリックすると新しいウィンドウで開くようになり、Sony - Network Video Management System Smart Client と同じブラウザウィンドウにリンク先の Web ページが表示されて現在の Sony - Network Video Management System Smart Client のビューが失われることはありません。

Smart Wall に HTML ページを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、HTML ページを表示できます。

1. ビューに HTML ページを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

Smart Wall に画像を表示する

Smart Wall には静的な画像を表示できます。たとえば、不審者のスナップショットまたは緊急避難用出口の図を共有する場合に有用です。

画像ファイルのネットワークロケーションにアクセスできないユーザーまたは Smart Wall と画像を共有している場合は、**[プロパティ]**の**[埋め込む]**をクリックして、画像を埋め込むことができます。画像を埋め込むと、Smart Client に保存され、元のファイルの場所への接続は削除されます。埋め込まれた画像を Smart Wall から削除するか置換して、再表示する場合は、もう一度 Smart Wall に画像ファイルを追加する必要があります。

ヒント：フロアプランまたはマップを共有する場合は、マップ機能 『95ページ の"マップ"参照』の使用を検討してください。マップ機能は、特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。

このトピックの手順は、Smart Wall 概要が既にビューに追加されていることを前提としています。詳細については、「Smart Wall の操作を開始する 『142ページ』」を参照してください。

Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. コンピュータで、画像ファイルの場所に移動します。
2. Smart Client のナビゲーションペインで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。
3. 画像を表示する概要のタイトルまで画像ファイルをドラッグします。

注意：画像を Smart Wall 概要までドラッグすると、画像が自動的に埋め込まれ、[プロパティ]ペインは使用できません。

複数の Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. Smart Wall 概要を含むビューを選択し、**[設定]**をクリックします。
2. システム概要ペインで、ビューの特定の位置まで**画像**項目をドラッグします。
3. 追加する画像ファイルを選択し、**[開く]**をクリックします。

注意：ビューに画像を追加すると、位置に合わせて、画像のサイズが変更されます。これにより、画像がゆがむ場合があります。ゆがみを回避するには、画像の**[プロパティ]**ペインで、**[画像のアスペクト比を維持]**チェックボックスを選択します。

4. **[プロパティ]**ペインで**[埋め込む]**をクリックします。
5. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイトルを選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall に画像を送信します。

スナップショットを作成し、Smart Wall に表示します。

次の方法で、インシデントのスナップショットを共有できます。

1. **[ライブ]**または**[再生]**タブで、映像を表示するビューアイテムの上にマウスイカーソルを置きます。
2. ビューアイテムツールバーで、**スナップショットの作成**アイコンをクリックします。画像は、[アプリケーションオプション]で指定された場所に保存されます。
3. スナップショットを表示するには、Smart Wall 概要でフォルダからタイトルにスナップショットをドラッグします。

ビューにオーバーレイボタンを追加する

ライブタブのビュー内の個別のカメラ位置にマウスを移動させた時に表示されるオーバーレイボタンで、スピーカー、イベント、出力などをアクティブ化することができます。

必要な数のボタンを追加できます。

1. セットアップモードで、**オーバーレイボタン**ペインで、アクションを選択してカメラ位置にドラッグします。
2. マウスを離すと、オーバーレイボタンが表示されます。ボタンのサイズを変更する場合は、表示されるハンドルをドラッグします。



3. オーバーレイボタンのテキストを変更する場合は、テキストをダブルクリックしてから、チェックマークボタン をクリックして保存します。元に戻すには、キャンセルボタン をクリックします。保存するときには、テキストはボタンで最大限のサイズになります。

ビューアイテムまたは Smart Wall へのテキストの追加

ビューの位置にテキストを追加できます。たとえば、メッセージまたは手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿する場合に有用です。最大 1000 文字まで使用できます。

ビューアイテムにテキストを追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
2. **【システム概要】**ペインで、**テキストコンテンツ**をビューにドラッグします。
3. **【テキストエディタ】**ウィンドウでは次の操作ができます。
 - 表示するテキストを入力する
 - **【貼り付け】**を右クリックして選択し、Microsoft Word や WordPad などの外部テキストエディタからコピーしたテキストを貼り付ける。
 - フォントタイプ、サイズ、色などの基本書式設定をテキストに適用する。
4. テキストを保存し、表示するには、**【保存】**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**【編集】**をクリックして、**【プロパティ】**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

注意：

[テキストエディタ]ウィンドウのサイズを変更すると、テキストのサイズが変わります。表示されるときには、ビューアイテムに追加されたコンテンツのサイズがビューに合わせて変更されます。

Microsoft Word や Microsoft Excel などの製品から表を挿入することはできますが、表の変更はできません。たとえば、行のサイズ変更、行の追加と削除はできません。また、Network Video Management System Smart Client の暗いテーマと明るいテーマに対応するために、明るいテキストまたは暗いテキストの色が変更されます。テキストが表示されない場合は、テキストに別の色を適用してください。

Smart Wall でのテキストの表示

Network Video Management System Smart Wall アドオンを使用している場合は、ビデオウォールでテキストを表示することもできます。たとえば、ビデオウォールを表示できるユーザー全員に情報を提供する場合に有効です。テキストを共有する最適な方法は、1 つの Smart Wall にテキストを表示するか、複数の Smart Wall に送信するかどうかによって異なります。

注意：テキストを Smart Wall に表示するときには、元のテキストのみが表示されます。つまり、ビューのテキストを編集する場合は、Smart Wall に変更が表示されません。

複数の Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューアイテムにテキストを追加するトピックで説明している手順を実行します。
2. 保存した後に、**[詳細]**、**[Smart Wall へ送信する]**をクリックし、Smart Wall 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall にテキストを送信します。

1 つの Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

注意：この手順では、テキストエディタがドラッグアンドドロップ操作をサポートする必要があります。サポートされていない場合は、このセクションの前の手順でテキストを Smart Wall に送信してください。

1. Network Video Management System Smart Client のナビゲーションペインで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。
2. テキストエディタで、表示するテキストを入力し、選択します。テキストが既に存在する場合は、選択します。
3. テキストを表示する概要のタイルまでテキストをドラッグします。
4. テキストエディタで、テキストを確認し、必要に応じて変更を行います。
5. テキストを保存し、表示するには、**[保存]**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**[編集]**をクリックして、**[プロパティ]**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

ビュー間でビデオを送信する

フロントウィンドウやセカンダリディスプレイ内のビューを含め、1 つのビュー内で、選択したカメラ位置から別のカメラ位置にビデオを送信できます。この機能は、ホットスポット 『79ページ』、自動切替 『78ページ』の"画面自動切替"参照』、または Matrix 『108ページ』位置では使用できません。

- カメラのツールバーで、**詳細 > カメラを送る**をクリックし、送信先のビューの位置を選択してから、そのカメラのビデオを再生する位置を選択します。

カメラ位置の一部が選択できない場合、それらの位置は使用不能であるか、ホットスポット、画面自動切替、Matrix のコンテンツが使用している可能性があります。

また、ビデオのコンテンツを個別のウィンドウ 『110ページ の"マルチウィンドウ"参照』 またはディスプレイに送ることもできます。

ビューのカメラを変更

ビューに表示されるカメラを一時的に変更することができます。ただし、この機能はカメラの一時的な切り替えを目的としており、ビューを恒久的に変更するものではありません。元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーのビューの読み込みボタンをクリックします。  ビューの内容を恒久的に変更 『66ページ の"ビューにカメラを追加する"参照』 するには、設定モードに入る必要があります。

ビューがホットスポット 『79ページ』、自動切替 『78ページ の"画面自動切替"参照』、または Matrix 『108ページ』コンテンツを含む場合は、カメラを変更できません。カメラペインから使用した場合、この機能は Smart Wall 『140ページ の"Network Video Management System Smart Wall"参照』位置でも機能します。

この方法は、カメラを Smart Wall の位置にドラッグする代わりに使用できますが、ライブタブで使用された場合にのみ有効です。

1. 関連するカメラをビューで選択します。
2. カメラペインで、関連するカメラをビューの位置へドラッグします。

あるいは、カメラのツールバーで、**詳細 > カメラ**をクリックして、関連するサーバーとカメラを選択します。

元のカメラが、右クリックサブメニューの一番上に(デフォルト)と名前が表示されます。これにより、元のビューにすばやく戻すことができます。

カメラペインで、カメラのリストはサーバー  別にグループ化されます。サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は利用できません。この場合、そのサーバーからのカメラは選択できません。

ヒント: カメラのショートカット番号が定義されている場合は、キーボードショートカット 『48ページ の"キーボードのショートカット"参照』を使用してカメラを切り替えることができます。カメラのショートカット番号が割り当てられている場合は、カメラの名前の前に括弧付きで表示されます。

カメラの切り替え 『72ページ』

カメラの切り替え

いずれかのカメラを別の位置にドラッグすることで、ビューの2つのカメラを一時的に切り替えることができます。その位置のカメラは、交換するカメラの場所と入れ替わります。あるカメラと、他のカメラを切り替えることだけができます。これは、最も重要なカメラすべてをビューの特定の位置に表示したい場合などに便利です。ビューを恒久的に変更するには、まず設定モードに入る必要があります。

- カメラを切り替えるには、該当するカメラのタイトルバーをクリックし、目的の位置にドラッグします。
- 元のビューを復元するには、ワークスペースツールバーのビューを読み込むボタンをクリックします。



ビューでカメラを切り替える 『72ページ の"ビューのカメラを変更"参照』

HTML ページを使ったナビゲーション

Sony - Network Video Management System Smart Client では、ビデオだけでなく、静止画像や HTML ページも表示できます。このような HTML ページを使って、Sony - Network Video Management System Smart Client のビューを直感的に切り替えることができます。

たとえば、クリックできる建物の見取り図を挿入すると、その見取り図の一部をクリックするだけでそのビルに必要な部分のビデオを表示するビューに簡単に切り替えることができます。

以下は、Sony - Network Video Management System Smart Client ナビゲーションのための HTML ページの例です。ボタンの付いた単純な HTML ページと、クリック可能な画像マップ付きのより高度な HTML ページです。監視システムの管理者が Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーに対してこのような HTML ページを作成して配信する際に実行しなければならない手順を説明したチェックリストも提供されています。

ヒント： Sony - Network Video Management System Smart Client では、ナビゲーションやその他の機能を非常に柔軟にカスタマイズできます。上級ユーザーの場合、Sony - Network Video Management System Smart Client で約 100 種類の関数呼び出しを作成できます。

ボタンを使った HTML ページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのある HTML ページを作成する方法があります。HTML ページでは、さまざまなボタンを作成できます。この例では、2 種類のボタンを作成しています。

Sony - Network Video Management System Smart Client のビューを切り替えるボタン使用する HTML 構文：

```
<input type="button" value=" Buttontext"
onclick="SCS.Views.SelectView('Viewstatus.Groupname.Viewname');">
```

ここで、**Viewstatus** はビューが共有ビューか個人ビューかを示します（HTML ページを複数のユーザーへ配信する場合は、ビューが共有である**必要があります**）。

実際のボタン例：

```
<input type="button" value="Go to Shared Group1 View2"
onclick="SCS.Views.SelectView('Shared.Group1.View2');">
```

このボタンを使って、ユーザーは **Group1** という名前の共有グループにある **View2** というビューへ移動することができます。

- **タブを切り替えるボタン：ライブおよび再生**

ユーザー権限によって、この 3 つのタブすべてにアクセスできない場合があります。

使用する HTML 構文：

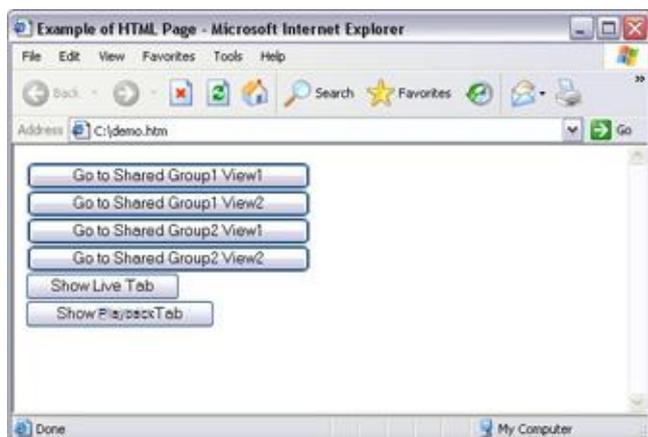
ライブタブ： <input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS.Application.ShowLive();">

再生タブ： <input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS.Application.ShowPlayback();">

ヒント： 上級ユーザーの場合、Sony - Network Video Management System Smart Client で提供されているおよそ 100 種類の関数呼び出しを使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。詳細については、スクリーンショットを参照してください。

ここでは、Sony - Network Video Management System Smart Client で 2 つの共有グループを作成します。この 2 つのグループを **Group1** と **Group2** とします。各グループには、**View1** と **View2** という 2 つのビューがあります。

4つの異なるビューの間、Sony - Network Video Management System Smart Client のライブタブと再生タブの2つのタブ間で切り替えられるボタンが付いた HTML ページも作成しました。ブラウザで開くと、作成した HTML ページは次のようになります。

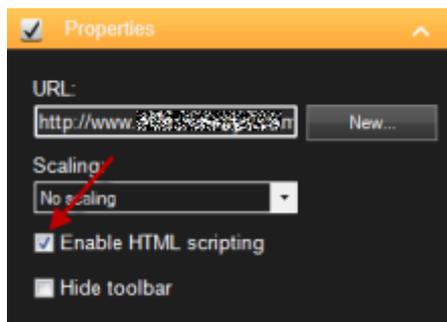


ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いた HTML ページ

HTML ページをローカル（ここではユーザーの C ドライブ）に保存します。HTML ページを使ってナビゲートする場合、Internet Explorer のセキュリティ機能を有効にするため HTML ページをローカルに保存する必要があります。

HTML ページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。たとえば、ユーザーの C: ドライブにあるフォルダ（例：C:\myfolder\file.htm）などです。ユーザーのデスクトップや **My Documents** フォルダなどに HTML ページを保存すると、これらの場所に Windows がパスを構築する方法が原因で、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

次に、必要な Sony - Network Video Management System Smart Client ビューへ HTML ページをインポートします。HTML ページをインポートする際、設定モードで、HTML ページのプロパティで **HTML スクリプトを有効化**が選択されていることを確認します。

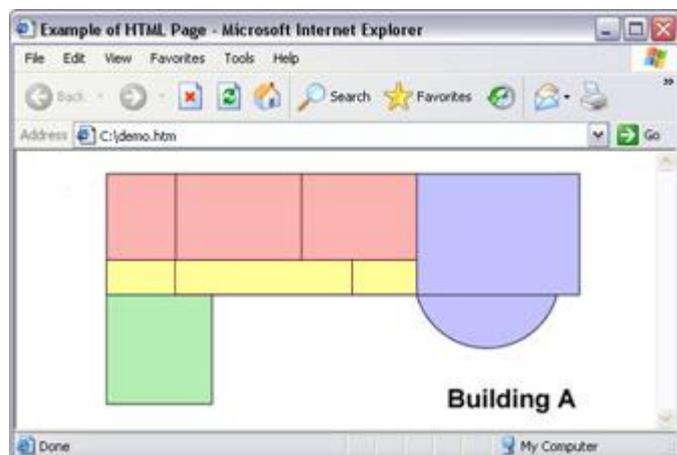


HTML スクリプトを有効化を選択すると、ボタンの動作に必要なスクリプトが自動的に HTML ページへ挿入されます。

画像マップ付きの HTML ページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含む HTML ページを作成することもできます。

次の例では、前述の例で使用した 2 つのグループと 2 つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、間取り図の画像のある HTML ページを作成し、その間取り図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成した HTML ページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含む HTML ページ

この例では、間取り図を 4 つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをクリックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の共有 **Group2** の **View2** へ移動ボタンに該当します。この赤いゾーンをクリックすると、ユーザーは **Group2** の **View2** へ移動します。

HTML ページのインポート

ナビゲーション HTML ページのビューへのインポートは、他の種類の HTML ページの Sony - Network Video Management System Smart Client にあるビューへのインポートと基本的に同じです。インポートする際に重要な点は次の 2 つです。

- HTML ページは使用している PC にローカルに保存する必要があります
- インポートする際に、HTML のスクリプトが HTML ページで有効になっていることを確認してください。

HTML ページをインポートするには：

1. 設定モードで、**システム概要** ペインで、必要なビューの位置へ **HTML ページ** のアイテムをドラッグします。
2. **URL** を開く ウィンドウで、HTML ページを指定します。
3. ビューで位置を選択し、**プロパティ** ペインで、**HTML スクリプトの有効化** を選択します。

HTML スクリプトの有効化 を選択すると、ボタンやその他のナビゲーション機能が動作するために必要なスクリプトが自動的に HTML ページへ挿入されます。

4. HTML ページへ挿入したナビゲーション機能によっては、ナビゲーションを完全に機能させるために HTML ページを複数のビューへインポートしなければならない場合があります。

システム管理者のためのチェックリスト

監視システムの管理者がナビゲーション HTML ページを作成して Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーへ配信するには、次の手順を実行してください。

1. 必要な HTML ページを**作成**します。HTML ページに含まれているナビゲーションコントロールは、Sony - Network Video Management System Smart Client でユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。たとえば、View1 につながるボタンを作動させるには、View1 と呼ばれるビューがユーザーの Sony - Network Video Management System Smart Client にある必要があります。ユーザーのグループに HTML ページを配布する場合は、HTML ページによって使用されるビューが共有グループに配置されている必要があります。
2. HTML ページを使用するコンピュータに、HTML ページをローカルに**保存**します。HTML ページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。たとえば、ユーザーの C: ドライブにあるフォルダ（例：C:\myfolder\file.htm）などです。ユーザーのデスクトップや **My Documents** フォルダなどに HTML ページを保存すると、これらの場所に Windows がパスを構築する方法が原因で、HTML ページが正しく動作しない場合があります。
3. HTML ページを、それが使用される Sony - Network Video Management System Smart Client ビューへ**インポート**します。HTML ページをインポートし、ビューでそのポジションを選択したら、**設定**タブの**プロパティ**ペインで **HTML スクリプトの有効化**が選択されていることを確認します。
4. インポートされた HTML ページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうか**テスト**します。
5. 組織のニーズに合ったシンプルで直感的な Sony - Network Video Management System Smart Client ナビゲーションが作成できます。

トラブルシューティング

HTML ページのナビゲーションコントロールが正しく動作しない場合は、次の点を確認してください。

- HTML で正しい構文が使用されているか。
- HTML ページをインポートしてから、**HTML スクリプトの有効化**を選択したか。
- 対象ユーザーに、HTML ナビゲーションページを使用できる権限があるか。ユーザー権限によって、Sony - Network Video Management System Smart Client の特定のカメラやビュー、機能、タブなどにアクセスできない場合があります。

よくある質問：ビュー

ビューを設定せずにすぐにビデオを再生することはできますか？

可能です。多くの Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーが、まずビューを設定することなく、Sony - Network Video Management System Smart Client ですぐにビデオを再生することができます。

個人ビュー：特定の種類の監視システム『11ページの"監視システムの別の特徴"参照』（主として数台のカメラが付いた小規模の監視システム）に接続されている場合、監視システムサーバーは、システムのすべてのカメラを使用して、単一のプライベートビューを自動的に生成できます。そのようなビューは**デフォルトビュー**と呼ばれます。デフォルトビューへのアクセス権がある場合、Sony - Network Video Management System Smart Client に初めてログインしたときにデフォルトビューが自動的に表示されるため、ビデオの再生をすぐに Sony - Network Video Management System Smart Client で開始できます。

共有ビュー：共有ビューは、監視システムの管理者または同僚によって、すでに作成されていることがあります。共有ビューがすでに存在し、共有ビューおよび、それに含まれているカメラへのアクセス権がある場合は、Sony - Network Video Management System Smart Client でビデオの再生をすぐに開始できます。

ビューを再作成する必要がある理由は何ですか？

監視システムの管理者が、監視システム側でカメラやユーザープロパティを変更する場合があります。こうした変更が **Sony - Network Video Management System Smart Client** で有効になるのは、変更後に初めてログインしたときであり、ビューを作り直さなければならなくなる場合があります。

個人ビューや共有できる共有ビューを作成できないと、何が起こりますか？

通常、組織内で、共有ビューを作成して編集できる権限を持つユーザーは限られています。監視システムの管理者は、共有ビューを多数作成して保持できます。ユーザーがログインすると、共有ビューが自動的に使用可能になり、それ以上ビューを作成する必要はありません。

どのビューにアクセスできるか確認する方法は？

通常、ユーザーが共有ビューへアクセスできるかどうかは監視システムの管理者によって通知されます。まだ通知されていない場合でも、共有ビューが使用できる場合は、簡単に確認できます。

ライブまたは**再生**タブのビューペインには必ず個人フォルダという名前の第1階層フォルダが表示されています。この個人フォルダはプライベートビューへアクセスするための第1階層フォルダであり、内容は作成したビューによって(作成した場合)異なります。

ビューペインにある他の第1階層フォルダは、共有ビューへアクセスするためのフォルダです。これらの第1階層フォルダの名前は、設定によって異なります。

ビューペインに共有ビューへアクセスするための第1階層フォルダが1つまたは複数あっても、実際にそれらの共有ビューを見ることができるとは限りません。第1階層フォルダの下にある共有ビューへアクセスできるかどうか確認するには、フォルダを展開します。

どのビューを編集できるか確認する方法は？

フォルダに錠前アイコンが付いている場合は、保護されているため、新しいビューを作成したり、既存のビューを編集することはできません。

ビューを別のコンピュータで表示できますか？

ビューに関する情報を含むユーザー設定は、監視システムサーバー上で中央管理されています。これは、ユーザー名とパスワードを使って **Sony - Network Video Management System Smart Client** へログインすれば、個人ビューと共有ビューのどちらも **Sony - Network Video Management System Smart Client** がインストールされているコンピュータで使用できることを意味しています。

アクションを実行する権限を持っていない場合でも、そのアクションに対するオーバーレイボタンを追加できますか？

可能です。これによって、ボタンを共有ビューで表示することが可能になり、自分は使用する権限がなくても、必要な権限を持っている同僚はボタンを使用できます。

権限を持っていないアクションのボタンを追加すると、設定モードではボタンは灰色表示され、**ライブ**タブを使用する場合は表示されません。必要な権限を持っている同僚は、**ライブ**タブのボタンを使用できます。

オーバーレイボタンを追加した後に、自分の権限を変更するとどうなりますか？

権限を変更すると、ボタンをどのように使用できるかが変わり、アクションに対する権限があるかないかによって、灰色表示されるか、使用可能になります。たとえば、自分自身が実行する権限を持っていないアクションのボタンを追加した後、必要な権限を持てるようにユーザー権限が変更されると、ボタンも使用可能に変わります。

オーバーレイボタンはどうやって削除できますか？

設定モードで、ボタンを右クリックして、**削除**を選択します。

オーバーレイボタンは、エクスポートしたビデオでも表示されますか？

いいえ。ビデオをエクスポート『**20**ページの"上級版ワークスペースを使う"参照』する場合、オーバーレイボタンはエクスポートには含まれません。

画面自動切替

画面自動切替について

画面自動切替を使用すると、ビューの1つの位置で複数のカメラからのビデオを次々に再生することができます。画面自動切替に含めるカメラと、カメラ間で切り替える間隔を指定できます。画面自動切替はツールバーの画面自動切替アイコンとともに表示されます。 .

魚眼レンズカメラは画面自動切替には含められません。

画面自動切替位置をダブルクリックすると、画面自動切替を最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、画面自動切替に含まれているカメラのビデオは、デフォルトで最高の画質で表示されます。この自動切替のデフォルト設定を上書きすることはできません。

画面自動切替ツールバーの上にマウスを置くと、現在の画面自動切替の画像のコピーをクリップボードにコピーできる画面自動切替ボタンにアクセスすることができます。また、スナップショットを作成したり、画面自動切替を一時停止または再生したり、あるいはカメラシーケンスの前後に移動できます。



カメラがサポートしている場合は、画面自動切替でデジタルズームと PTZ コントロールを使用できます。表示される PTZ 『53ページ の"PTZ 画像"参照 』またはデジタルズームを使用すると、画面自動切替が自動的に一時停止します。

ビューまたは Smart Wall に画面自動切替を追加する

1. セットアップモードのシステム概要ペインで、ビュー内の位置へ画面自動切替のアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. 画面自動切替設定ウィンドウの左側で、サーバー  をクリックして展開してから、自動切替に含めるカメラを選択します。追加をクリックします。画面自動切替に含める各カメラについて、同じ操作を繰り返します。

サーバーが赤いアイコン  で表示されている場合は使用できない状態であり、この場合そのサーバーのカメラは一覧表示できません。

3. 画面自動切替でカメラが表示される順序を指定するには、**選択したカメラ**のリストで、カメラを選択して、上下に移動させます。
4. 各カメラが画面自動切替に表示される秒数を入力します。すべてのカメラで同じ値を指定するか、カメラごとに異なる値を指定することができます。
5. **[OK]**をクリックして画面自動切替設定ウィンドウを閉じます。

画面自動切替の設定を変更するには、**[設定]**をクリックし、**[プロパティ]**ペインで**[画面自動切替設定]**をクリックして、**[画面自動切替設定]**ウィンドウを開きます。

Smart Wall で画面自動切替を表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、画面自動切替を表示できます。

1. ビューに画面自動切替を追加する手順に従います。

2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント：ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、画面自動切替を概要のタイルまでドラッグできます。

自動切替設定

プロパティ 『82ページ の"カメラ設定"参照』ペインで、画面自動切替の設定を指定できます。ライブストリーム、画質、フレームレート、および画像の縦横比を維持などの設定が、画面自動切替のすべてのカメラに適用されます。

ホットスポット

ホットスポットについて

ホットスポットでは、ビューの専用の位置で選択したカメラからの拡大表示/高画質ビデオを表示できます。ホットスポットは、ビューの通常位置にあるカメラで低画質や低フレームレートを使用でき、ホットスポットで高画質や高フレームレートを使用できるので便利です。これによって、リモート接続の帯域幅を節減できます。

以下の2種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット。カメラがメインウィンドウかセカンダリディスプレイかに関係なく、選択されたカメラを表示します。
- ローカルホットスポット。ローカルディスプレイの選択されたカメラのみを表示します。

1+7 ビュー内の大きなカメラ位置などビュー内の広い方の位置にホットスポットを配置することをお勧めします。 

ビュー内の位置にホットスポットがあると、以下のようになります。

- ビュー内のカメラをクリックすると、ホットスポットの位置がカメラからのフィードで更新されます。
- タイトルバーにはホットスポットアイコンが表示されます。 

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、ホットスポット(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質に関係なく、ホットスポットのビデオが最高の画質で表示されます。最大化した場合でも、選択している画質が適用されることを確認するには、設定モードのプロパティペインで、**最大画面で画質を保持**を選択します。

ビューまたは Smart Wall にホットスポットを追加する

1. セットアップモードの**システム概要**ペインで、ビュー内の位置へホットスポットのアイテムをクリックして、ドラッグします。

ヒント：位置にはホットスポットアイコンが表示され 、ホットスポットであることを示します。

2. **プロパティ**ペインで、ホットスポットのプロパティ 『80ページ の"ホットスポット設定"参照』を指定します。ホットスポットには高画質を指定し、ビューの他の位置には低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

Smart Wall にホットスポットを追加する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、ホットスポットを表示できます。

1. ビューにホットスポットを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall へ送信する]**をクリックし、Smart Wall 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、ホットスポットを概要のタイルまでドラッグできます。

ホットスポット設定

プロパティ 『82ページ の"カメラ設定"参照』 ペインで、ホットスポットの設定を指定できます。ライブストリーム、画質、フレームレート、および画像の縦横比を維持などの設定が、ホットスポットのすべてのカメラに適用されます。

カメラ

以下の機能の一部は、特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』 でしか使用できません。

ビューにカメラを追加する

1. 設定モードで、カメラを追加するビューを選択します。
2. 概要ペインで、該当するサーバー  を展開して、そのサーバーで使用できるカメラを一覧表示します。

多くの場合、一つのサーバーしか表示されませんが、大規模な監視システムと接続されている場合は、複数のサーバーの階層構造が表示されます。サーバーが赤色のアイコンで表示されている場合は、利用できず、そのサーバーのカメラからは表示できません。

3. リストからカメラを選択し、ビューで追加する位置までドラッグします。

接続が確立されていれば、そのカメラの映像が選択した位置に表示されます。接続が確立されていなければ、カメラの名前だけが表示されます。

ヒント: 画像の一部が黒く表示されるのは、プライバシーマスク 『64ページ』 が使用されているからです。

プロパティペインで、カメラのプロパティ(画質やフレームレートなど)を指定できます 『82ページ の"カメラ設定"参照』。

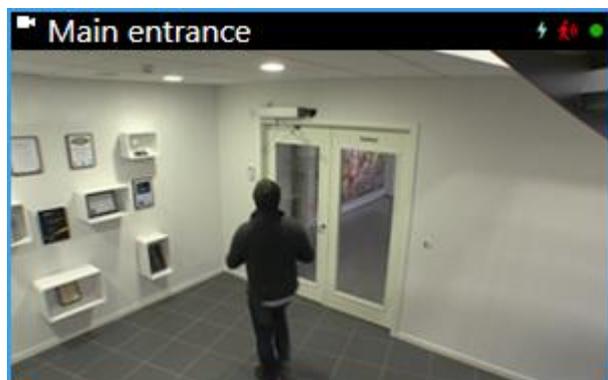
ビューで使用するすべてのカメラについて同様に設定します。

ヒント: 複数のカメラを一度にビューに追加するには、(たとえば、サーバーのカメラフォルダにあるすべてのカメラ)、フォルダをビューにドラッグするだけです。この場合、選択した位置から自動的にすべてのカメラがビューに追加されます。すべてを表示するのに十分な数の位置がビューにあることを確認してください。

ヒント: 別のカメラを位置にドラッグすることで、使用するビューに含まれるカメラを簡単に変更できます。

カメラ名と色のインジケータ

デフォルトでは、カメラのタイトルバーにカメラの名前が表示されます。セットアップモードで、[プロパティ] ペイン 『82ページ の"カメラ設定"参照』の【ライブ】タブでこれを変更できます。



円形のビデオインジケータは、カメラのタイトルバーの右上端に配置されます。このインジケータの色が変わり、ビューアイテムのビデオの現在のステータスを示します。次の一覧は、異なる色について説明します。

- 緑 ● - カメラへの接続が確立されています。
- 赤 ● - カメラからのビデオが録画されています。
- 黄 ● - 録画したビデオを再生します。
- 灰色 ● - 2秒よりも長くビデオが変更されていません。

モーションが検出されたときには、モーションインジケータが表示されます。画像の内側をクリックすると、モーションインジケータがリセットされます。このインジケータは、モーションが何も検知されていない場合は表示されません。

特定のイベントが発生すると、イベントインジケータが表示されます。これは監視システム管理者によって定義されます。画像の内側をクリックすると、イベントインジケータがリセットされます。このインジケータは、カメラに対してイベント通知が指定されていない場合や、指定されたイベントが発生していない場合は、表示されません。

注意: この機能は、特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用可能であり、イベントの通知がサーバーで設定されている必要があります。

ヒント: イベントおよびモーションインジケータは、音声による通知 『87ページ の"音による通知"参照』と組み合わせることができます。

カメラへのサーバー接続が失われた場合は、カメラ接続インジケータが表示されます。一日のうち特定の時間だけ使用できるよう設定されていたり、カメラやネットワークがメンテナンス中であつたり、監視システムサーバーで設定が変更された場合など、さまざまな理由でカメラが動作しない場合があります。

仮想ジョイスティックおよび PTZ オーバーレイボタン

ビューに魚眼カメラや魚眼レンズや PTZ デバイス 『52ページ の"PTZ および魚眼レンズ画像"参照』が含まれている場合、矢印マウスポインタ(仮想ジョイスティック)または画像の内側に表示される PTZ ナビゲーションボタンをクリックして、画像をナビゲートすることができます。



仮想ジョイスティック



PTZ オーバーレイ

ヒント：マウスをビューへ移動させた時にカメラのツールバーをポップアップ表示させたくない場合は、CTRL キーを押したまま、マウスを動かします。

カメラ設定

プロパティペインの**設定**モードで、選択したカメラのプロパティを表示、編集することができます（ビューで、選択したカメラは太い枠線で示されます）。

名前	説明
カメラ名	選択したカメラの名前を表示します。 カメラを変更するには、省略記号ボタンをクリックして カメラの選択 ダイアログを開き、別のカメラを選択します。カメラのみを変更し、設定は保持する場合、この方法が便利です。
ライブストリーム	使用可能である場合は、ビューに表示するライブストリームを選択します。サーバーで複数のストリームが設定されている場合、 デフォルト または使用可能なストリームオプションのいずれかを使用できます。 デフォルト 以外のオプションを選択する場合、 画質 または フレームレート 設定を変更できません。

名前	説明
画質	<p>再生されるビデオ画質だけでなく、帯域幅の使用にも影響します。Sony - Network Video Management System Smart Client をインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。</p> <p>低画質を選択した場合、選択されたカメラのビデオは監視システムサーバー上で JPEG フォーマットへ再エンコードされてから、Sony - Network Video Management System Smart Client へ送信されます。再エンコードには、次のような種類があります。</p> <p>フル：デフォルトの設定で、元のビデオと同じ完全な画質です。</p> <p>高詳細（メガピクセル用）：640 ピクセル(VGA)、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>高：320 ピクセル(QVGA)、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>中：200 ピクセル、25%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>低：160 ピクセル、20%の JPEG 画質レベルの出力幅に再エンコードされます。</p> <p>高さは、元のビデオの幅と縦横比に合わせて縮尺されます。</p> <p>ここで選択した画質は、ライブビデオだけでなく録画されたビデオにも適用され、JPEG だけでなく MPEG にも適用されます。ただし、ライブビデオを見ている場合はキーフレームだけが再エンコードされ、録画済みのビデオを見ている場合はすべてのフレームが再エンコードされます。</p> <p>使用する帯域幅を制限するために低めの画質を使用している場合、画像を再エンコードする必要があるため、監視システムサーバーでより多くのリソースを使用します。</p> <p>ヒント：ビューにあるカメラの帯域幅使用レベルをすばやく低減させるには、1つのカメラの画質を低くしてからすべての適用ボタンをクリックします。</p>
最大画面で画質を保持	<p>ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、特定のビュー内の他のカメラの位置をダブルクリックして最大化できます。この場合、選択している画質の設定に関係なく、デフォルトでカメラのビデオが最高の画質で表示されます。</p> <p>選択した画質設定が拡大表示中にも適用されるようにするには、画質設定のすぐ下にある最大画面で画質を保持ボックスをオンにしてください。</p>
フレームレート	<p>選択したカメラのフレームレートを選択できます。無制限（デフォルト）、中、または低のいずれかを選択してください。選択するフレームレートと監視システムの設定方法の組み合わせ『86ページ』の"フレームレートの効果について"参照』により、ビデオの画質が異なります。</p>
PTZ クリックモード	<p>使用している PTZ カメラに対するデフォルトの PTZ クリックモードを選択します。オプションは、クリックして中央揃えまたは仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルト PTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。</p>

名前	説明
魚眼スプリットモード	<p>選択したカメラが魚眼カメラの場合にのみ使用できます。魚眼パノラマ画像を作成、表示できる魚眼レンズテクノロジーです。Sony - Network Video Management System Smart Client は、1 台の魚眼レンズカメラからの最高 4 つの異なるビューポイントに対応しています。魚眼分割モードのリストを使って、使用する分割モードを選択します：</p> <p>分割なしではビューポイントが 1 つ表示されます。</p> <p>2 つずつでは、同時に 4 つの異なるビューポイントを表示します。</p> <p>Sony - Network Video Management System Smart Client のタブのいずれで表示しても、魚眼レンズカメラは同じ画像の 1 つまたは 4 つのビューポイントで、指定された通りに表示されます。</p> <p>ヒント：魚眼レンズカメラから異なるビューポイントを表示している場合、各ビューポイントの内側をクリックするか、カメラツールバーの PTZ プリセット メニューを使用して、各ビューポイントを個別にナビゲートできます。</p>
画像の縦横比を維持	<p>選択すると、カメラポジションのサイズに合わせてビデオが引き伸ばされることはありません。ビデオは録画された時の縦横比（高さとの関係）で表示されます。</p> <p>この場合、カメラによっては、画像の周囲に縦または横向きの黒いバーが表示されることがあります。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオはビューの位置に合わせて縮尺されるため若干歪む場合がありますが、ビデオのまわりに黒い棒は表示されません。</p>
モーションで更新	<p>このオプションを選択すると、モーションを検知したときのみ、選択されたカメラのビデオが Sony - Network Video Management System Smart Client のライブタブで更新されます。カメラのモーション検知感度（監視システムサーバーで設定）によっては、CPU の使用量を大幅に減らすことができます。</p> <p>モーションを感知したときだけビデオを更新するように設定すると、モーションが感知されるまで、カメラのビューの位置に静止画像と一緒に「モーションなし」というメッセージが表示されます。静止画像は灰色でオーバーレイされるので、どのカメラで動きがないかが簡単に識別できます。</p>
モーション検知で音を鳴らす	<p>カメラからのビデオをライブタブで表示している場合、モーションを検知した際に音で通知を受けることができます。</p> <p>カメラのビデオが実際に Sony - Network Video Management System Smart Client に表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。</p> <p>常にオフ：モーションを検知しても音声による通知を使用しません。</p> <p>常にオン：カメラがモーションを検知するたびに音声による通知を実行します。</p>

名前	説明
イベント発生時に音を鳴らす	<p>この機能は、特定の監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。 http://www.sony.net/CameraSystem.</p> <p>この機能を使用するには、イベント通知が監視システムサーバーで設定されていなければなりません。</p> <p>カメラのビデオが実際に Sony - Network Video Management System Smart Client に表示されている場合のみ、音の通知が機能します。そのため、該当するカメラを含むウィンドウを最小化していると、音の通知は機能しません。同様に、あるカメラを最大化しており、そのカメラだけが表示されている場合、他のカメラの音の通知は鳴りません。</p> <p>カメラからのビデオをライブタブで再生している場合、選択したカメラに関連するイベントが発生したときに、音で通知を受けることができます。</p> <p>常にオフ：カメラに関連するイベントが発生しても音声による通知を実行しません。</p> <p>常にオン：カメラに関連するイベントが発生するたびに音声による通知を実行します。</p>
表示設定	<p>デフォルトの表示設定を使用する：オプションダイアログで定義されるように、デフォルトの設定を使用して、選択したカメラのタイトルバーやビデオインジケータを表示します。選択したカメラをデフォルトの設定以外で動作させたい場合は、チェックボックスをオフにして、希望するタイトルバーおよび/またはビデオインジケータを選択します。</p> <p>タイトルバーの表示：各カメラ位置の最上部にタイトルバーが表示されます。タイトルバーにより、ユーザーはカメラを簡単に識別できます。ライブタブに表示されるタイトルバーには、さらに、検知したモーションやイベント、カメラが録画しているかなどについての情報が表示されます。カメラ名と色のインジケータ 『81ページ』も参照してください。</p> <p>注意：タイトルバーを表示しないことを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。</p> <p>ビデオインジケータの表示：タイトルバーの表示を選択している必要があります。ライブタブに表示される場合は、タイトルバーに緑色のインジケータが点滅します。インジケータの状態は、カメラから新しい画像を受信するたびに更新され、ビデオがライブであることを簡単に認識できます。多くの場合、ビデオ自体からライブであることがわかりますが、カメラのビューエリアで何も起こっていない場合に、ビデオインジケータが有効です。</p> <p>境界のボックスレイヤーを表示する：個々のカメラで、境界のボックスを表示します。境界ボックスプロバイダー 『87ページ』の"境界ボックスプロバイダーについて"参照』ダイアログボックスを開いて、カメラにデータを提供するメタデータデバイスを指定します。</p>

名前	説明
ビデオバッファリング	<p>プロパティペインのこの部分は表示されません。表示するには、オプションウィンドウの『32ページの"Network Video Management System Smart Client の構成"参照』関数タブに移動して、設定 > ライブビデオバッファリングの編集が利用可能に設定されていることを確認します。</p> <p>ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを構築できます。</p> <p>可能であれば、ビデオバッファリングの使用は避けてください。ビデオバッファリングによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用を大幅に増加できます。ビデオバッファを使用しない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。</p> <p>ライブビデオをバッファに保存すると、ジッターなく滑らかに表示されますが、バッファを構築することでライブビデオの再生にわずかな遅延が生じます。多くの場合、この遅延は、ビデオで人を見るには問題になりません。ただし、カメラがパン/チルト/ズーム (PTZ) カメラであり、ジョイスティックを使用してカメラを操作している場合は遅延していることが明らかになります。</p> <p>ビデオバッファリングの量を制御できるため、ライブビデオを滑らかに再生することを優先するか (バッファが必要で、わずかな遅延が生じます)、即時 PTZ およびジョイスティック操作を優先するか (バッファを必要としませんが、バッファを使用しないためにライブビデオにわずかにジッターが生じることがあります) を選択できます。</p> <p>ビデオバッファリングを使用する場合、デフォルトのビデオバッファを使用を選択し、次に必要なバッファをなしから最大 2 フレームから 2 秒の間で選択します。</p>
すべてに適用	<p>すべてに適用 ボタンを使って、選択したカメラに対する設定内容をビューにあるすべてのカメラに対して簡単に適用できます。</p>

フレームレートの効果について

フレームレートの選択の効果は以下の通りです。

効果	無制限	中位	低い
JPEG	すべてのフレームを送信	4 フレームおきに送信	20 フレームおきに送信
MPEG(I フレーム) H.264/H.265	すべてのフレームを送信	すべてのフレームを送信	すべてのフレームを送信
MPEG(P フレーム) H.264/H.265	すべてのフレームを送信	フレームの送信なし 一部のフレームを送信しない	フレームの送信なし 一部のフレームを送信しない

例:

Sony - Network Video Management System Smart Client で【フレームレート】オプションを【低】に設定しており、システムの管理者がカメラが 1 秒あたり 20 フレームのフレームレートで JPEG 画像をフィードするよう

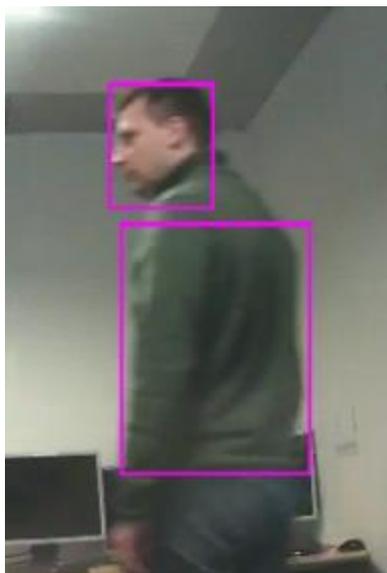
設定した場合、ホットスポットでカメラからのビデオを再生すると 1 秒あたり平均 1 フレームで再生されます。次に、システムの管理者がフィードを 1 秒あたり 4 フレームと低い値に設定すると、カメラからのビデオを再生すると 1 秒あたり平均 0.2 フレームで再生されます。

境界ボックスプロバイダーについて

境界ボックスレイヤーを表示するが選択されている必要があります。ダイアログボックスで、このカメラからのビデオで境界ボックスのデータを提供するメタデータデバイスを有効にします。システム管理者によって定義されたデバイスのリストです。

境界ボックス

境界ボックスとは、たとえばカメラの画像にある対象物を囲む長方形の境界です。Sony - Network Video Management System Smart Client では、境界ボックスはビデオにピンク色の境界で表示されます。



カメラのプロパティの**表示設定**で、個々のカメラの境界ボックスを表示/非表示にすることができます。

境界ボックスが画面に表示されている場合は、ビデオを Network Video Management System フォーマットでエクスポート 『132ページ の"Network Video Management System フォーマットの設定"参照 』したり、静止画像を印刷 『138ページ の"証拠を印刷する"参照 』する場合にも表示されます。

キーボードショートカットおよびオーバーレイボタン

使用している監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』によって、カスタムキーボードショートカット 『32ページ の"Network Video Management System Smart Client の構成"参照 』やオーバーレイボタンを割り当てて、ビューの中でのカメラの位置に対する補助コマンド(カメラによって定義されるコマンド)を起動することができます。補助コマンドはカメラごとに異なります。詳細については、カメラのマニュアルをご覧ください。

音による通知

使用している Sony - Network Video Management System Smart Client で、次の状態が発生すると音声による通知を受信するよう設定されている場合があります。

- 1台または複数の指定されたカメラでモーションが検知された場合

- および/または -

- 1台または複数の指定されたカメラに関連するイベント『130ページの"イベント"参照』が発生した場合

音声による通知が聞こえたら、特別な注意が必要です。組織内で、音声による通知が使用されているかどうか、またその使用方法については、監視システムの管理者までお問い合わせください。

特定のカメラからの音声による通知を一時的に消音することができます:カメラのツールバーで、**詳細 > 音声による通知 > 消音**の順にクリックします。

Sony - Network Video Management System Smart Client ウィンドウを最小化すると、音声による通知は無効になります。

カメラからの音声による通知を有効に戻すには、再度**詳細 > 音声による通知 > 消音**とクリックします。

音声による通知を消音する機能は、ホットスポット『79ページ』、自動切替『78ページの"画面自動切替"参照』、またはMatrix『108ページ』位置では使用できません。

よくある質問：カメラ

音声による通知は頻繁に実行されますか？

常にオンを選択している場合、モーションを感知したことを知らせる音声通知は、そのカメラに対して設定されているモーション検知の感度によって頻度を設定できます。モーション検知の感度を高に設定すると、非常に頻繁に通知を受けることもあります。カメラのモーション検知感度は監視システムサーバーで設定します。複数のカメラに対して音声による通知を設定すると、より頻繁に通知を受ける可能性があります、これもカメラに設定されている感度によって異なります。

ジッターとは何ですか？

ジッターは、ビデオにおける小さな変動であり、見ている人は、たとえば、歩行中の人物などの異常な動きとして認識します。

イベントとは何ですか？

イベントは、監視システム上で発生する、あらかじめ定義されたインシデントです。監視システムの設定によっては、カメラに接続された外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによってイベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントは、**アクション**をトリガするために監視システムによって使用されます。通常、監視システム上の大部分のイベントは自動的に生成されます。たとえば、検知されたモーションをイベントとして定義し、録画などのアクションをトリガできます。

通知音を変更することはできますか？

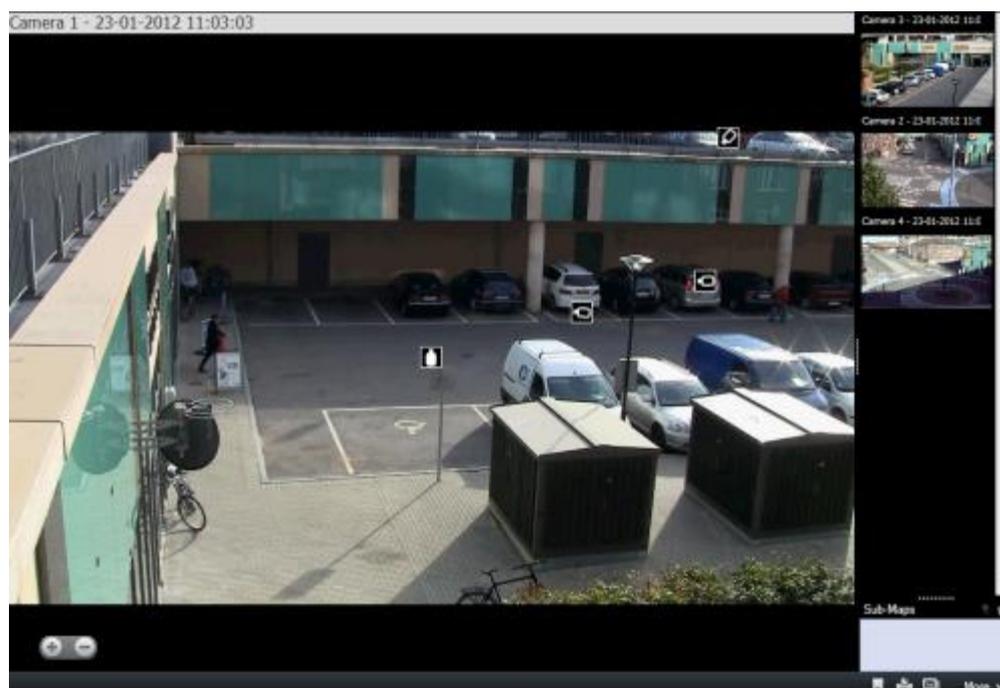
デフォルトでは、Sony - Network Video Management System Smart Client は音声による通知に単純なサウンドファイルを使用しています。このサウンドファイルの名前は **Notification.wav** で、Sony - Network Video Management System Smart Client のインストールフォルダ（通常は **C:\Program Files\Sony\Network VMS Smart Client**）にあります。別の.wav ファイルを通知音として使用する場合は、そのファイルの名前を **Notification.wav** に変更して、Sony - Network Video Management System Smart Client のインストールファイルにある元のファイルと置き換えてください。**Notification.wav** ファイルは、モーション検知の通知以外のイベントでも使用されます。カメラによって音を変えたり、イベントとモーション検知の通知に異なる音を使用することはできません。

カメラナビゲータ

この機能は選択した監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。
<http://www.sony.net/CameraSystem>.

カメラナビゲータについて

カメラナビゲータにより、たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、複数のカメラの相対関係を表示して確認することができます。この機能は、1つのカメラから別のカメラに移動して対象（人、物）を追跡する場合、たとえば、容疑者の建物の周囲での動きを追跡するなどの場合に便利です。地図または間取り図に従ってカメラを設定することで、1つのビューから1つのカメラから次のカメラに移動できます。



ライブおよび再生タブでは、カメラナビゲータ ビューで現在のカメラからのビデオを再生すると同時に、右側のペイン上で近接性に従って並び替えられて、近隣にあるすべてのカメラのサムネイルビューが表示されます。他のカメラをポイントすると、メインビューまたは右側のペインにカメラが赤い枠で囲まれて表示されます。カメラアイコンを直接クリックするか、右側のペインをクリックして、カメラを切り替えることができます。

ホットゾーンを通して相互に関連付けられている複数のマップに基づいてビューを定義することで、1つの階から別の階へ移動したり、建物から出て行く人物を追跡する場合のように、あるマップ上のカメラから、サブマップ上の別のカメラへ動きを追跡することができます。サブマップペインからは、マップのホットゾーンを通して関連づけられているマップに設定されたカメラにアクセスできます。

1つのカメラから次のカメラをクリックすると、カメラプレビューペインの上のホームボタンの隣に戻るボタンが表示されます。これにより、前のカメラをクリックして選択したり、デフォルトのカメラビューに戻ることができます。またサブマップビューでは、上へをクリックして前のマップを表示したり、ホームでデフォルトビューを表示できます。

カメラナビゲータを使用する

カメラナビゲータを使用する前に、マップを設定し、そのマップにカメラを追加する必要があります。ビューにカメラナビゲータを追加 『91ページ の"ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する"参照』すると、プロパティを定義 『90ページ の"カメラナビゲータの設定"参照』して、カメラナビゲータでビューを表示する方法を定義できます。

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント：**[名前]**フィールドを空欄にし、**[参照...]**をクリックすると、**[名前]**フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. **[参照...]**をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
6. **[OK]**をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

カメラナビゲータの設定

プロパティ 『82ページ の"カメラ設定"参照』ペインで、カメラナビゲータの設定を指定できます。

名前	詳細
ホーム マップとカメラ	カメラナビゲータが使用するマップとデフォルトのカメラを表示します。この設定を変更するには、  ボタンをクリックして、 ホームマップとカメラ を選択するウィンドウを開きます。
カメラインジケータの最大台数	メインビューに含めるカメラの最大台数を選択します。各カメラはカメラのアイコン  と共に表示されます。無制限の台数のカメラを表示することができます。

名前	詳細
カメラインジケータの方向	<p>カメラから見た実際の視点を反映して、カメラの位置や方向を表示する場合は、選択したカメラと関連を選択します。</p> <p>あるいは、カメラの位置や方向に、常に上から見たマップのレイアウトを反映させる場合は、マップに関連を選択します。</p> <p>現在選択されているカメラが常に中央に表示されます。</p>
プレビューカメラの最大台数	<p>プレビューペインに表示するカメラの最大台数を選択します。画面に表示されるカメラのみがシステムリソースを使用します。表示できるカメラの最大台数は 20 台です。</p> <p>プレビューするカメラの台数が増えるほど、より多くのシステムリソースが必要になります。</p>

ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する

カメラナビゲータにより、1つのビューの領域に対応するすべてのカメラを追加して、領域の完全な概要を設定できます。たとえば、建物周辺の誰かを追跡する場合に有用です。その人が移動すると、次のカメラに切り替えることができます。詳細については、「カメラナビゲータについて『89ページ』」を参照してください。

カメラナビゲータをビューに追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
 ヒント：カメラナビゲータを最大限に活用して、右側のペインにカメラビューを表示できるようにするには、1x1 ビューを選択してください。
2. システム概要ペインで、**カメラナビゲータ**をビューにドラッグします。
3. **ホームマップとカメラの選択**ウィンドウで、ナビゲーションに使用するマップを選択します。
4. **カメラナビゲータ**を開くたびに、デフォルトのカメラとして選択するカメラをクリックして、**OK**をクリックします。
5. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。

Smart Wall でカメラナビゲータを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、カメラナビゲータを表示できます。

注意：カメラナビゲータを Smart Wall に送信するときには、ナビゲータは元の設定のみを使用します。つまり、ビューの別のカメラを選択すると、Smart Wall は変更を表示しません。

1. ビューにカメラナビゲータを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント：ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、カメラナビゲータを概要のタイルまでドラッグできます。

音声設定

特定の音声機能に対するサポートはシステムによって異なります 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』。録音された音声や特定の録音された音声機能へのアクセスは、ユーザー権限に応じて制限されている場合があります。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

音声について

Sony - Network Video Management System Smart Client は、入力音声と出力音声の両方に対応しています。カメラ付属のマイクからライブ録音を聞くことができるだけでなく、カメラに接続されたラウドスピーカーを通して話すことも可能です。録画済みのビデオを再生する場合、カメラにマイクおよび/またはスピーカーが付いていれば、対応する音声を聞くことができます。カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクおよび/またはスピーカーもデフォルトで選択されます。

ヒント：ビューにマップが含まれている場合は、これらのマップにマイクおよび/またはスピーカーが含まれることがあります。この場合、関連するマイクやスピーカーエレメントをクリックするだけで、音声を聞くことができます。クリックして、聞いたり話す間、マウスボタンを押したままにします。

音声設定

ヒント：現在表示しているビューやカメラと関係なく、録音した音声を聞くことができます。**再生**タブのナビゲーション機能で時間を指定して、どの録音音声を聞くか指定する必要があります。

名前	詳細
マイク	音声を聞くマイクを選択します。 マイクのリストにマイク（ハードウェア）なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにマイクソースなしと表示された場合は、カメラに付いているマイクが使用できないことを意味します。
消音	選択すると、マイクまたはスピーカーを消音します(スピーカーの消音は再生タブでのみ可能です)。
スピーカー	話すスピーカーを選択します。 スピーカーのリストにスピーカー（ハードウェア）なしと表示されている場合は、使用しているコンピュータに、監視システムからの音声を再生するために必要なハードウェアがインストールされていないことを意味します。通常、これは使用しているコンピュータに音声カードが搭載されていないことが原因です。リストにスピーカーソースなしと表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。 監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(それらにアクセスするために必要な権限がある場合)、スピーカーのリストですべてのスピーカーを選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。
出力	クリックして、話す間だけマウスボタンを押したままにします。

名前	詳細
レベルメーター	<p>レベルメーターは、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクにもっと近づくか、Windows で音声設定を調整する必要があります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。</p>
選択した音声デバイスへロック	<p>カメラまたはビューを選択すると、対応するマイクおよび/またはスピーカーもデフォルトで選択されます。ただし、再生しているカメラに関わらず、特定のカメラの音声を聞きたい場合は、選択した音声デバイスにロックを選択することができます。</p> <p>例：犯罪の被害者に対して、カメラ A に付いているマイクとスピーカーを通して話を聞き、話しかける必要があるにも関わらず、カメラ X、カメラ Y、およびカメラ Z を至急確認する必要があります。そして、これらのカメラの一部は別のビューの位置に表示されています。選択した音声デバイスにロックを選択して、カメラ A で被害者と話をすると同時に別のカメラを見ることができます。</p>
現在のビューのデバイスのみをリスト	<p>使用している監視システムに多数のマイクやスピーカーがある場合、音声ペインで選択するマイクおよびスピーカーのリストは、非常に長くなる場合があります。これを避けるために、現在のビューのデバイスのみをリストを選択して、現在使用しているビューに関連するマイクおよびスピーカーのみが含まれるように、リストを制限することができます。</p> <p>この場合、現在のビューには、フロートビューとして開いているビュー、および一次、セカンダリディスプレイのビューも含まれることに注意してください 『110ページ の"マルチウィンドウ"参照 』。</p>

相手と話す

重要： 監視システムは、ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクからの入力音声を録音することができます。ただし、カメラに付いているスピーカーを通して出力される音声は、特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照 』でのみ録音されます。

カメラに付いているスピーカーを通して相手に話しかけるには、3つの方法があります。音声ペインを使用するか、オーバーレイボタンを使用するか、マップのスピーカー機能を使用します。

スピーカーを通して話す

1. **ライブタブの音声ペインのスピーカーで、音声出力のリストから関連するスピーカーを選択**します。スピーカーの設定に関する固有の情報については、音声設定 『92ページ 』を参照してください。

監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており(さらに、必要な権限がある場合)、**すべてのスピーカー**を選択すると、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。

または、ビューの位置にオーバーレイボタンがあるか、マップにスピーカーエレメントがある場合、これらをクリックすることができます。

2. 話している間は**会話**ボタンを押したままにします。話している間ボタンを押したままにしておくと、スピーカーを通して実際に出力される内容を完全にコントロールできます。

よくある質問：音声

なぜスピーカーリストを使用できないのですか？

監視システムによっては、双方向音声に対応していないものもあります。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の **Network Video Management System** 製品比較表を参照してください。

<http://www.sony.net/CameraSystem>.

カメラに接続しているマイクの録音音量を調整することはできますか？

この機能は、**Sony - Network Video Management System Smart Client** にはありません。ただし、マイク、あるいはマイクが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って録音音量を調整することができます。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

カメラに接続しているスピーカーの出力音量を調整することはできますか？

この機能は、**Sony - Network Video Management System Smart Client** にはありません。ただし、**音声ペインのレベルメーター**で入力レベルを確認できるので、出力レベルを推測できます。

スピーカー、あるいはスピーカーが付いているカメラデバイスの設定インターフェースを使って出力音量を調整することができます。**Windows** で、音声設定を調整することも可能です。詳しくは、監視システムの管理者にお問い合わせください。

他の **Sony - Network Video Management System Smart Client** ユーザーはスピーカーを通した会話を聞くことができますか？

概して、**Sony - Network Video Management System Smart Client** ユーザーはスピーカーを通して話しかけている声を聞くことはできません。ただし、話しかけているスピーカーの近くにマイクがあれば、聞くことができます。

同時に複数のスピーカーを通して話すことはできますか？

はい。監視システムで複数のカメラにスピーカーが付いており（それらにアクセスするために必要な権限がある場合）、すべてのスピーカーを通して同時に話すことができます。**音声ペインのスピーカーリスト**で、**すべてのスピーカー**を選択し、**会話**ボタンを押したまま話します。

音声ペインで[現在のビューのデバイスのみをリスト]を選択している場合は、[すべてのスピーカー]は表示されません。

カメラに付いているマイクの音声は録音されますか？

ビデオを録画していなくても、カメラに付いているマイクから入ってくる音声を録音します。

スピーカーを通して話したことは録音されますか？

監視システムは、ビデオを録画していなくても、マイクから入ってくる音声を録音できます。ただし、スピーカーを通して送信される出力音声は特定の監視システムでしか録音、再生、エクスポートできません。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の **Network Video Management System** 製品比較表を参照してください。 <http://www.sony.net/CameraSystem>.

そのため、使用する監視システムによっては、たとえば、録音を使用して、**Sony - Network Video Management System Smart Client** のオペレータがスピーカーを通して相手に特定の指示を与えたことを証明できる場合があります。

スピーカーを通して話す場合、自分の声の音声レベルは表示されますか？

はい。**音声ペインのレベルメーター**が、話し手の音声のレベルを示します。レベルが非常に低い場合は、マイクに近づく必要があることがあります。レベルメーターがまったくレベルを示さない場合は、マイクが接続され、正しく設定されていることを確認してください。

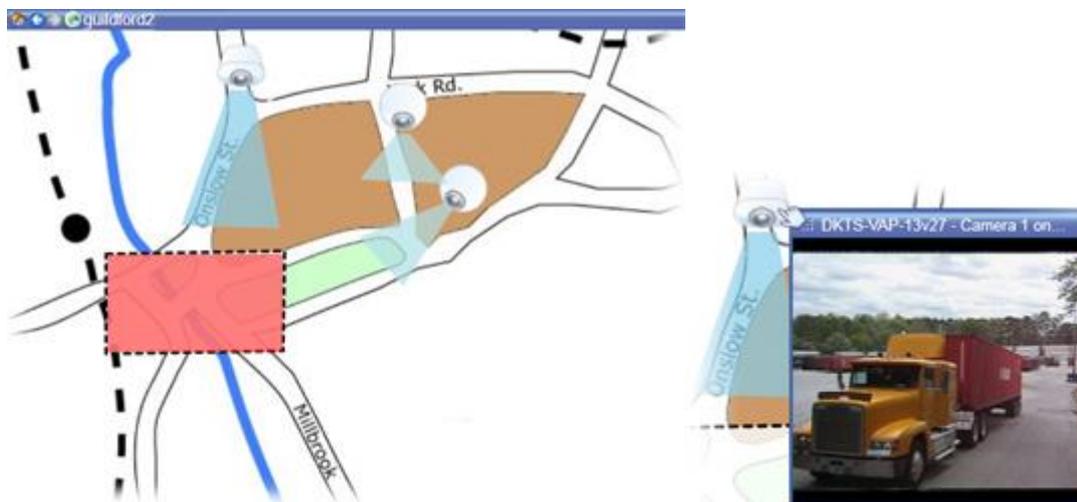
マップ

地図の紹介

地図機能は、選ばれた監視システム『11ページの"監視システムの別の特徴"参照』でのみ利用が可能です。地図位置には、生の映像は表示されず、常に静止画像が表示されます。

地図では、監視システムの物理的概要を把握することができます。どのカメラがどこに配置されていて、どの方向を向いているのかが、一瞬でわかります。地図は、ナビゲーションに利用することができます。地図は階層によりグループ化して、例えば、街から道路レベルへ、建物から部屋レベルへ、といった具合に拡大縮小を行いながら、ホットゾーンへと進むことができます。

地図には、カメラやマイク、類似の機器を占めるエレメントが含まれている場合があります。地図上のカメラアイコン上にマウスを移動させると、プレビューウィンドウでカメラに録画されている映像を閲覧する『104ページの"マップのカメラから録画されたビデオを表示"参照』ことができます。再生モードにおけるステータス情報は、録画されたデータに基づいて **いません** が、ライブモードで表示される通り、エレメントの現在のステータスから回収されます。



カメラ・エレメントとホットゾーンがある地図

地図は、ほとんどの場合が地勢図となっていますが、相である必要はありません。所属する組織のニーズにより、写真や他の種類の画像を地図として利用することもできます。

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイスを操作できます：

カメラ

マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーをクリックすると、別のフローティングウィンドウに表示します。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**#分間録画を開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カメラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要があることに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。

PTZ カメラは、監視システムのカメラに対して定義されている PTZ プリセットを使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZ カメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があることに注意してください。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに 25 以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、**エレメントの選択**ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットをクリックするだけで、PTZ カメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポット位置 『79ページ の"ホットスポット"参照』で、機能します。または、カメラを右クリックし、**PTZ プリセット**を選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。または、マイクを右クリックし、**マイクの使用**を選択します。再生モードのマップビューでマイクを使用することはできません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モードのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

マップにあるイベントをクリックすると有効化されます。または、イベントを右クリックし、**イベントの有効化**を選択します。イベントを左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、イベントが起動中であることを示します。

アラーム

マップにあるアラームをクリックして表示するか、アラームを右クリックし、**アラームを有効化する**を選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力をクリックすると有効化されます。または、出力を右クリックし、**出力の有効化**を選択します。出力を左クリックすると、マウスポインタが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移行するには、ホットゾーンをクリックします。または、必要なホットゾーンを右クリックし、**サブマップへ移行**を選択します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。

監視システムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンをクリックした時に、サーバーが使用できないためにサブマップが使用できないことを意味します。サーバーが使用できない理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない場合は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場合、Sony - Network Video Management System Smart Client によってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいているため、以前にアクセスできたマップにアクセスできない場合もあります。これは、1日の特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性があります。ユーザー権限に関して不明な点は、監視システムの管理者にお問い合わせください。

プラグイン

プラグインエレメントは、監視システムで使用されている場合のみ使用できます。プラグインエレメントの例：アクセスコントロールシステム、火災検知システムなど。

ステータス可視化は、マップに追加されたエレメントのステータスをグラフィックに表示する機能です。マップが完全に使用でき正常な状態にある場合、視覚的なステータス表示はありません。ステータス可視化ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

	<p>要注意—エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの空き容量がなくなってきている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないことに注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。</p>
	<p>使用できません—エレメントにエラーがある場合(たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに接続できない場合)。デフォルトの表示色はオレンジ色です。</p>
	<p>アラーム—エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。</p>
	<p>無効/ステータス不明—エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステータス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。</p>
	<p>ステータスを無視する—エレメントのステータスが対応を必要としない場合(たとえば、すでに何が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。</p>

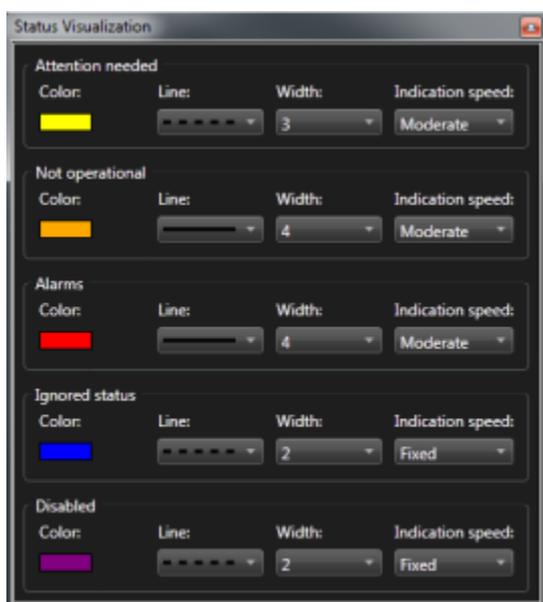
マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、最高4つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに**無効な**エレメントしか含まれていない場合でも、マップに**使用できません**状態が表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップには単純に**無効/ステータス不明**と表示されます。ステータス情報については、**マップ概要**も参照してください。



ステータスが表示されたマップの例

ステータス表示の外観の変更

1. 設定モードで、マップを選択します。マップを右クリックして、**ステータス表示**を選択します。



2. ステータス可視化ウィンドウで、色ボックスをクリックして色の選択ツールを起動し、ステータス可視化線に必要な色を選択し、色ボックスをもう1度クリックして、選択した色で色ボックスを塗りつぶします。
3. 線のリストから線の書式を選択します。
4. 幅のリストから線の太さを選択します。
5. ステータス可視化がどれくらいの速さで点滅するかを設定します。表示速度リストから速度を選択します。
6. プロパティペインで、ステータス可視化を選択して、ライブモードでのステータス可視化を有効にします。

ヒント：ステータス可視化はすべてのマップに適用されるため、各マップのステータス可視化の外観を個別に定義する必要はありません。

多くのマップがある大規模な監視システムに接続している場合、ステータス設定の読み込みと適切な表示に時間がかかる場合があります。複雑なシステムでは、ステータス可視化が適切に更新されるまで、30秒以上かかることがあります。

マップ設定

設定モードで、プロパティペインを使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	詳細
ホームマップ	特定のマップビューの基本を構成するマップを表示します。このフィールドは読み取り専用ですが、選択ボタン  をクリックすると、マップ設定ウィンドウが開いて、マップを変更できます。
バックグラウンドの変更	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。
マップの名前の変更	マップ名を編集します。
アイコンサイズ	アイコンサイズ ドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
名前を表示	名前 チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示するかどうかを有効化または無効化できます。 ヒント ：マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、 名前 を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、 テキストの削除 を選択します。 アイコンサイズ ドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
パンとズームを許可	選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。
マップを自動最大化	選択すると、 タイムアウト に定義されている秒数の間、 Sony - Network Video Management System Smart Client が使用されないと、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最大秒数は99,999秒です。
マウスオーバー時	選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示します。
デフォルトの表示設定を使用する	選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。このチェックボックスをオフにすると、プレビューの タイトルバー および ビデオインジケータ の設定ができます。 タイトルバー ：選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。 ビデオインジケータ ：選択すると、ビデオインジケータ『81ページの"カメラ名と色のインジケータ"参照』が表示され、画像が更新されるたびに緑色に点滅します。 ビデオインジケータ を選択できるのは、 タイトルバー も選択した場合のみです。
ステータス可視化	選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図示『97ページの"参照』されます。

名前	詳細
詳細ステータスサポートを有効化	オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを表示できます。
アラームのマップの自動変更	選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するときに、プレビューのマップを自動的に変更できます。
上に重ねた場合にのみ表示	カメラ、ビューゾーン、またはプリセット上にマウスを動かしたときにのみ、カメラビューゾーンと PTZ プリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複していたり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトでは、ビューゾーンとプリセットを表示します。

ツールボックス

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。**カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント**、または**出力**のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した**エレメントの選択**が表示され、エレメントをマップに配置できます。

ツールボックスのアイコン

	カメラ		
	サーバー		
	マイク	カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、または出力を選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した エレメントの選択 が表示され、エレメントをマップに配置できます。	
	スピーカー		
	イベント		
	出力		
	ホットゾーン		ホットゾーン描画ツールがアクティブ化されると、マップにホットゾーンを配置できます。
	テキスト		テキストツールが開き、マップに編集可能なテキストボックスを配置できます。
	プラグイン	プラグイン(所属する組織で使用されている場合)が一覧表示された エレメントの選択 が開き、マップにプラグインエレメントを配置できます。	
	カラーピッカー	色の選択ツールが開き、カラーピッカーがアクティブ化されて、マップにすでにある色を使用できます。	
	色の塗りつぶし	色の選択ツールが開き、テキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変更できます。	
	選択ツール	選択ツールがアクティブ化され、マップにあるエレメントを選択して、マップをパンおよびズームすることができます。	



マップ概要

マップ概要が開き、異なるマップ間を移動できます。

右クリックメニュー

設定タブでマップまたはマップのエレメントを右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできます。

右クリックコマンド

ショートカットメニューの内容は、右クリックしたマップのエレメントによって異なります。マップを設定モードで表示している場合には、ショートカットメニューから他の機能を利用することもできます。

- **削除 [...]:** 選択したエレメントまたはマップを削除できます。
- **マップの中心をここに設定:** クリックした位置が中心になるようにマップの位置を合わせます。
- **ズームイン**
- **ズームアウト**
- **標準サイズへズーム:** 設定されている標準サイズにマップを拡大します。
- **ホーム:** 簡単にホームマップへジャンプできます。
- **巻戻し:** 前のマップに簡単に戻れます。
- **早送り:** このセッションで以前に表示したマップに簡単に移動できます。
- **(PTZ カメラのプリセットから) プリセットへ移動 [プリセット]:** 事前に定義されたプリセットにカメラを設定できます。
- **(カメラから) ライブプレビュー:** 選択したカメラのライブプレビューを確認できます。
- **(カメラから) ビューゾーン:** カメラのビューアングルを示す、固定カメラのビューゾーンのオン、オフを切り替えることができます。

マップを右クリックしたときに表示されるショートカットメニューは、次のような他の機能も表示します。たとえば、**ホームマップの設定**、**ツールボックス**、**マップ概要**、**エレメントの選択**、**フォントの選択**、**色の選択**、および**ステータス可視化**。

個々のエレメント 『95ページ の"参照"』ショートカットメニューには、他のコンテンツがある場合もあります。

一般的な右クリックメニュー項目に加えて、イベントおよび出力の右クリックメニューにも**アイコンタイプの選択**機能があり、イベントアイコンまたは出力アイコンを、ランプ、ドア、ゲートまたはスイッチのいずれの形で表示するかを選択できます。イベント/出力アイコンを、実際のイベント/出力により適したものに変更することで、ユーザーはマップの実際のコンテンツの概要を、より簡単に把握できます。

詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます。

マップ概要ウィンドウ

マップ概要ウィンドウは、Sony - Network Video Management System Smart Client で設定されたマップ階層の概要を示します。マップ概要ウィンドウを開くには、マップを右クリックし、**マップ概要**を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコン  をクリックします。

マップ名の横に + 記号が付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていることを示します。マップ概要のマップをクリックすると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。

多数のマップを含む大規模な監視システムに接続している場合、マップ概要のコンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。

よくある質問：マップ

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは？

マップには bmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、および wmp のフォーマットのファイルを使用できます。

画像ファイルサイズと解像度は、10 MB および 10 メガピクセル以下にすることを勧めます。大きな画像ファイルを使用すると、Sony - Network Video Management System Smart Client のパフォーマンスが低下することがあります。20 MB または 20 メガピクセルまたはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoft の標準に従って、Sony - Network Video Management System Smart Client に表示されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか？

可能です。マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、プロパティペインで、マップの背景を変更するを選択します。

マップの操作

ビューにマップを追加する

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、システム概要ペインで、ビューの位置へマップのアイテムをドラッグします。
2. 表示されるマップ設定ウィンドウで、新規マップを作成または既存のマップ使用のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. 名前フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント：[名前]フィールドを空欄にし、[参照...]をクリックすると、[名前]フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. [参照...]をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. 開くをクリックして、画像ファイルを選択します。
6. [OK]をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。

2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント:ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

マップからフロートウィンドウへカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法 (各ビューにつき最大 25 台) :

1. ライブタブまたは再生タブで、フロートウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。
2. マップのタイトルバーの上部で、**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**アイコンをクリックします。

フロートウィンドウでは、ビューに最大 25 台のカメラが表示されます。

マップに 26 台以上のカメラがある場合は、このボタンをクリックすると、表示されるカメラが常に同じカメラとは限りません。

マップの背景を変更する

マップは更新するが、その中のすべての情報をそのまま保持する場合、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティペイン**で、**マップの背景を変更する**を選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、**マップの削除**を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加されたエレメントを含むマップ全体が削除されます。マップはビューから削除されるだけです。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

マップは**マップ概要**からも削除できます。

マップのエレメントの追加と削除

1. 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、必要なエレメントアイコンをクリックすると、**エレメントの選択**ウィンドウが開きます。
3. フィルターを使用すると、必要なエレメントを簡単に検索できます: 検索条件を入力すると、検索条件に合わせて、表示されるエレメントの一覧が絞られます。
4. エレメントを選択し、マップにドラッグします。

ヒント: ツールボックスの選択ツールを使用して、エレメントを選択し、マップで移動させるか、マップをパンします。

エレメントの削除

エレメントを削除するには、必要のないエレメント(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マイク、またはスピーカー)を右クリックして、**削除[エレメント]**を選択します。

エレメントの移動

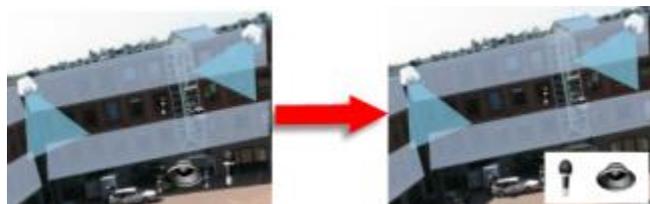
エレメントを移動させるには、エレメントをクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。

エレメントの回転

エレメントの方向を変えるには、エレメントを選択し、エレメントのサイズ変更ハンドルの1つの上へマウスを移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、エレメントをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。



ヒント：マップが、マップ上のエレメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを作成して、マップの上で見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエレメントを追加し、それをテキストボックスにドラッグします。



マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームと PTZ コントールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンをクリックしてデジタルズームを選択するか、表示される PTZ 『53ページ の"PTZ 画像"参照』コントロールを使用します。特定のカメラで PTZ プリセットが設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択して、プリセットを有効にすることができます。
- フロントウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ（1つのビューに最大 25 台）を表示するには、マップのタイトルバーの上部にある**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**をクリックします。

マップに 26 台以上のカメラがある場合は、このボタンをクリックすると、表示されるカメラが常に同じカメラではなくなります。

ホットゾーンをマップに追加

- 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス** 『100ページ』を選択します。
- ツールボックスで、ホットゾーンツールを選択します。



3. マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホットゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。



ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれる大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます。



ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。

4. ホットゾーンの開始点をクリックして、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホットゾーンに添付されていないことを示します。

ヒント：ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っぱることで変更できます。

5. サブマップをホットゾーンに追加するには、点線で描かれたホットゾーンをダブルクリックして、**マップ設定**ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接するホットゾーンを区別できます。

マップの要素の外観の変更

1. マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップ要素を互いに区別することができます。**設定**モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. 変更する要素を選択します。
3. ツールボックスで、色塗りつぶしツールを選択します。これにより、**色の選択**ウィンドウが開きます。

ヒント：カラーピッカーツールを使用して、マップから既存の色を選択します。

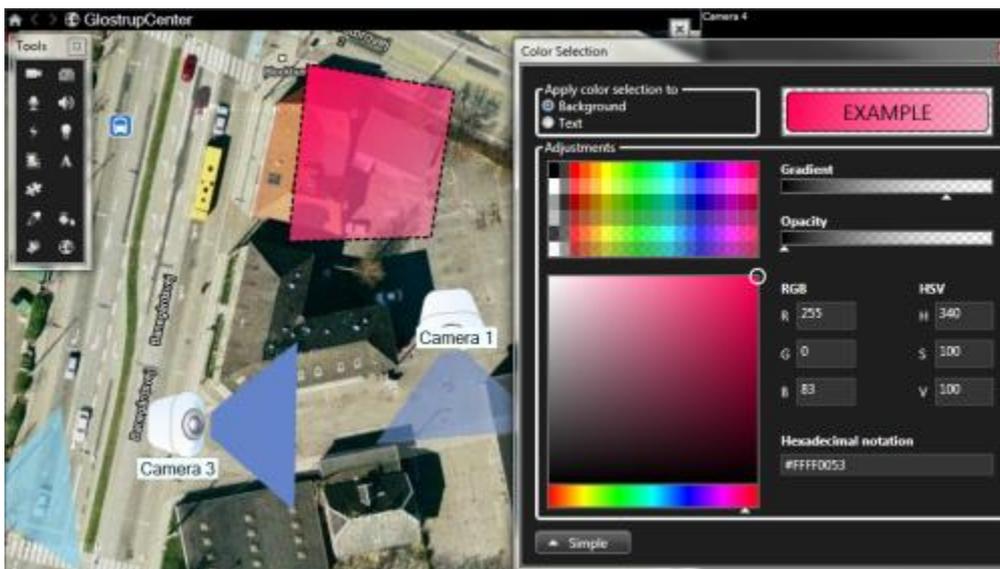
4. テキスト要素にのみ適用されます。色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。
5. カラーパレットから色を選択します。選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
6. マップ要素をクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、要素の色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、要素の色が即座に薄まります。左端にスライダーをドラッグすると、要素の色はほとんど薄まりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と階調を適用します。

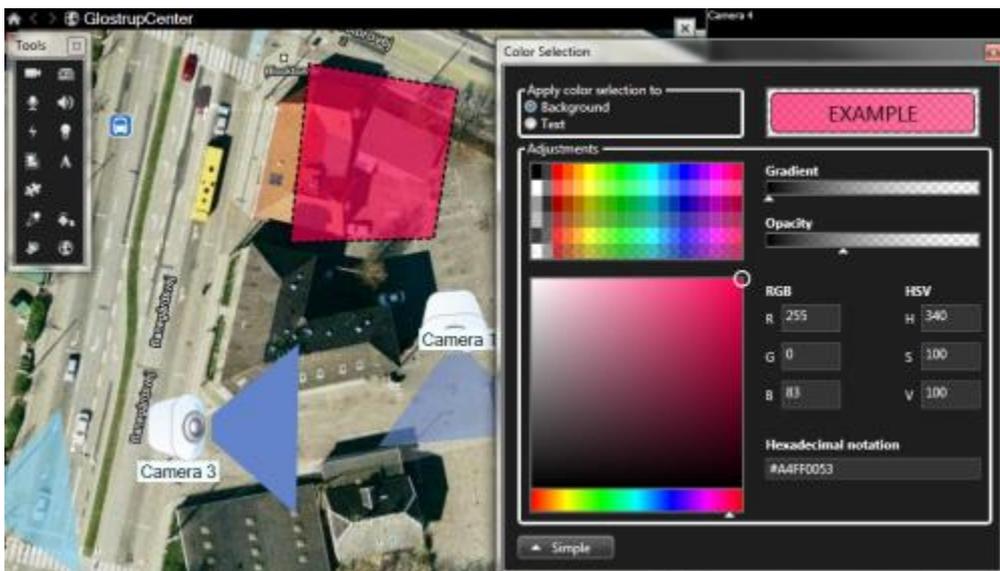


不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、不透明度スライダーを左端にドラッグすると色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。色の選択ウィンドウの詳細ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。

色スライドを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。

- または -

16 進表記フィールドに **16 進数**の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。

ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエレメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の操作を実行します。

- ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。

マップのスペースを無駄にしないもう **1 つ**の方法として、ビューゾーンと **PTZ** プリセットを重ねた場合にのみ表示 『99ページ の"マップ設定"参照』を選択することができます。

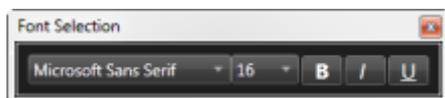
マップのテキストを追加/編集

テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合など。

- 設定モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
- ツールボックスで、**テキストツール**を選択します。



- フォントの選択**ウィンドウで、テキスト設定を編集します。



ヒント : テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツールボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設定を変更します。

- マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
- テキストを入力します。キーボードの **ENTER** を押すと、テキストボックスが下方に拡張します。

ヒント : 色塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。

ヒント : テキストボックスは移動できます。選択ツールを選択し、マップにあるテキストボックスをつかみ、テキストボックスを移動します。

ステータス詳細の表示

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、および FPS)とサーバー(たとえば、CPU 使用率、メモリ、ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

- 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます。

エラーメッセージ「イベントサービスのレコーディングサーバーへのアクセス権が不十分です」が表示された場合、レコーディングサーバーから詳細ステータスは表示できません。このエラーメッセージは、監視システムのマップ関連の通信を処理する、Event Server サービスに関係します。Event Server サービスは、監視システムサーバーで管理されます。この問題を処理できる監視システムの管理者にお問い合わせください。

ズームと自動最大化

マップが、Sony - Network Video Management System Smart Client のビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マップをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をクリックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップをクリックしてパンし、任意の方向にマップをドラッグします。

- マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じて**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。または、**標準サイズへズーム**機能を使用して通常のサイズに戻します。

ヒント：または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズームインし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを自動最大化が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、設定モードで、**プロパティ**ペインで指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元のビューに戻るには、追加されたエレメントの外側にあるマップの任意の場所をダブルクリックします。

Matrix

Matrix のコンテンツをビューに追加する機能は、特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』へ接続していないと使用できません。**Matrix** が使用できるのは、監視システムで **Matrix** が設定されていて、必要な権限がある場合だけです。

Matrix について

Matrix は、任意の監視システムカメラからネットワーク上の任意のモニター (**Matrix** 受信モニターと呼ばれる)へビデオを配信する機能です。一般的な **Matrix** 設定では、たとえばモーションが検知された場合や別のユーザーが重要なライブ画像を共有する場合など、定義されているイベントが発生すると指定された **Matrix** 受信モニターにライブビデオが自動的に再生されます。**Matrix** が監視システムサーバーで設定されている場合に、Sony - Network Video Management System Smart Client のビューに **Matrix** のコンテンツを含めることができます。特定のイベントが発生したり、別のユーザーがビデオを共有する場合、使用している **Matrix** のビューにライブビデオが自動的に表示されます。

Matrix のコンテンツの表示

Matrix の設定でどのイベントやカメラを使用するかは、監視システムサーバー **Matrix** 設定や他のユーザーが共有しようとしている内容によって決まります。**Network Video Management System Smart Client** でこれを制御することはできません。ただし、**Matrix** のコンテンツを必要な数のビューの位置に追加することはできるので、複数の **Matrix** によりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。

Matrix 位置はツールバーの Matrix アイコンで表示されます：。Matrix をダブルクリックすると、最大化できます。

ビューに複数の Matrix 位置が含まれている場合があります。これによって、複数の Matrix によりトリガされたソースからのライブビデオを同時に見ることが可能です。複数の Matrix 位置がビューにある場合、それらの位置は、Matrix の一次ポジション、二次ポジション、というように必ず順位が付けられます。最初に Matrix でトリガされたライブビデオストリームが受信されると、Matrix の一次ポジションにそのライブビデオストリームが自動的に表示されます。Matrix でトリガされた次のビデオストリームを受信すると、先入れ先出しの原則が適用されます。前に受信されたビデオストリームは、ビューの Matrix の二次リポジションに転送され、最新のビデオストリームが Matrix の一次ポジションに表示されます。Matrix の位置の順位付けは自動的に適用されます。追加した最初の Matrix 位置が Matrix の一次位置となり、次に追加した位置は自動的に二次位置などとなります。この順位付けは設定モードで変更できます。Matrix のプロパティ 『109ページ の"ヤ〇カ"参照』を参照してください。

再生タブでは、Matrix の位置に、ライブタブで最後に使用した Matrix の位置のカメラからのビデオが表示されます。もちろんこのビデオは、再生タブのナビゲーション機能を使って再生できます。

ヤ〇カ

設定モードで、プロパティ 『82ページ の"カメラ設定"参照』ペインで、Matrix の位置の設定を指定できます。

名前	詳細
Window インデックス	別の番号を選択して、Matrix 位置のランキングを変更します。ビューの Matrix 位置数に対応する範囲にある番号のみを選択できます。1 は最新のイベントのビデオが常に表示されるメイン位置です。2 には以前に検出されたイベントのビデオが表示されます。3 には位置 2 より前に検出されたイベントなどのビデオが表示されます。
接続設定...	TCP ポートとパスワードを指定し、Matrix でトリガされたビデオを監視サーバーから Sony - Network Video Management System Smart Client ビューに転送できます。これは、Matrix 位置 1 が選択されている場合にのみ使用可能です。他の Matrix 位置は位置 1 に対して指定された接続設定を継承します。デフォルトでは、Matrix で使用する TCP ポートは 12345 です。使用するポート番号とパスワードについては、監視システムサーバー管理者にお問い合わせください。

ビューに Matrix のコンテンツを追加する

- 設定モードのシステム概要ペインで、Matrix のアイテムを、Matrix のコンテンツを追加するビューの位置へドラッグします。青い枠線が表示され、そのビューの位置に Matrix のコンテンツがあることを示します。
- Matrix の位置を選択すると、プロパティペインでプロパティを指定できます。

ライブビデオまたは録画ビデオを再生している場合、Matrix の位置(またはビュー内の他のカメラの位置)をダブルクリックして最大化することができます。最大化すると、選択している画質の設定に関係なく、Matrix の位置のカメラのビデオは、デフォルトで最高画質で表示されます。最大化した場合も選択した画質を適用する場合は、最大画面で画質を保持を選択します。

- 追加する Matrix のそれぞれの位置に対して、繰り返します。

手動で Matrix の受信コンピュータにビデオを送信する

ビデオをホットスポット 『79ページ の"ホットスポットについて"参照 』や画面自動切替 『78ページ の"画面自動切替について"参照 』に送信することはできません。

1. ビューを選択します。
2. カメラのツールバーで、**詳細 > Matrix** をクリックして、関連する Matrix の受信コンピュータを選択します。

マルチウィンドウ

この機能は選択した監視システムでのみ使用できます。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。

<http://www.sony.net/CameraSystem>.

Sony - Network Video Management System Smart Client のメインウィンドウを背景に維持しながら、異なるウィンドウまたはディスプレイに個別のビューを送信できるので、複数のビューを同時に見ることができます。選択されたカメラまたはアイテムは常に青い境界線で表示されます。

ビューは、以下に送ることができます。

- コンピュータのメインディスプレイの個別のフル画面ウィンドウにビューと、その背景にメインウィンドウを表示するフルスクリーン。
- 別のモニター（ある場合）のフル画面ウィンドウにビューを表示するセカンダリディスプレイ。
- 別の小さなウィンドウにビューを表示するフローティングウィンドウ。必要に応じて、任意の数のフローティングウィンドウを使用したり、サイズを調整することができます。

プライマリ表示とセカンダリ表示では、タブとコントロールが非表示の状態ウィンドウがフル画面で表示されます。タブとコントロールを表示するには、**フル画面アイコン**をクリックします。 

フロートウィンドウには選択されたビューが表示され、**ライブ**および**再生**タブが表示されます。ドロップダウンボタンをクリックすると、ツールバーから新しいビューを選択できます。以下の**フル画面アイコン**をクリックすると、タブが非表示のフル画面フロートウィンドウと、タブのある小さいフロートウィンドウとを切り替えることができます。 。また、フロートウィンドウをメインウィンドウにリンクし、時間を同期するか、**ライブ**または**再生**タブに合わせるすることができます。

ビューの設定は Sony - Network Video Management System Smart Client に保存されるので、次にログインする場合に再使用することができます。ただし、これは設定したコンピュータにしか当てはまりません。複数のコンピュータの Sony - Network Video Management System Smart Client でマルチウィンドウを使用するには、コンピュータごとにマルチウィンドウを設定する必要があります。

プライマリディスプレイ



フルスクリーンへ送信されたビューの例です。別のフル画面ウィンドウを表示している間、メインの Sony - Network Video Management System Smart Client ウィンドウはその後ろに隠れています。

セカンダリディスプレイ



セカンダリディスプレイに送られた 8×8 ビューの例です。この例では、メインの Sony - Network Video Management System Smart Client ウィンドウは左側のディスプレイに表示されています。

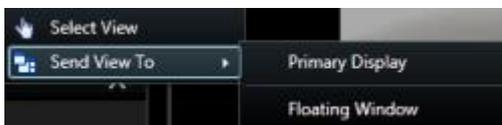
フローティングウィンドウ



フローティングウィンドウへ送信されたビューの例です。メインの Sony - Network Video Management System Smart Client ウィンドウはフローティングウィンドウのすぐ後ろに隠れています。

ディスプレイ間でビューを送信する

1. ビューペインで、関連するビュー(あるいはカメラペインで、ビューにあるカメラ)を右クリックします。
2. ビューを分ける をクリックしてから、ビューを表示する場所を選択します。



さらに使用可能なセカンダリディスプレイがある場合は、番号が付けられます。

3. ウィンドウをリンクする をクリックし、メインビューのいずれかでフロートウィンドウでビューを同期します。フロートウィンドウをリンクする場合、対応するタイムラインはフロートウィンドウに表示されませんが、メインウィンドウのタイムラインに含まれます。
4. 別に開いているビューウィンドウを閉じるには、ウィンドウの右隅にある閉じる ボタンをクリックしてください:



フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になります。タイトルバーを表示して、[閉じる]ボタンへアクセスするには、マウスをビューのトップへ移動させます。

ビューに含まれているホットスポット、画面自動切替、Matrix 位置、静止画像または HTML ページは、フローティングウィンドウで通常通り動作します。

よくある質問：マルチウィンドウ

セカンダリディスプレイはいくつまで使用できますか？

Sony - Network Video Management System Smart Client では、制限はありません。ただし、使用できるセカンダリディスプレイの数は、ハードウェア(ディスプレイアダプタなど)や Windows のバージョンによって異なります。

プライマリディスプレイまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューを閉じるボタンはどこにありますか？

表示エリアを最大化するため、フルスクリーンまたはセカンダリディスプレイに送信されたビューのタイトルバーは非表示になっています。タイトルバーを表示して、[閉じる]ボタンへアクセスするには、ビューの一番上へマウスポインタを移動させてください。

2つの異なるウィンドウで同じ画面自動切替が同期されていないのはなぜですか？

画面自動切替は、設定モードで設定した一定の間隔でカメラを切り替えます。例：10 秒間隔の場合、画面自動切替はカメラ 1 を 10 秒間、次にカメラ 2 を 10 秒間というように再生します。このタイミングは、画面自動切替を設定したビューの表示を始めるときに開始されます。後から別のビューで画面自動切替を表示し始めると、別のウィンドウや別のディスプレイであっても、その画面自動切替のインスタンスのタイミングが開始されます。このため画面自動切替が同期していないように見えます。実際には、画面自動切替の 2 つの別のインスタンスが表示されています。詳細については、画面自動切替のプロパティ 『79ページ の"自動切替設定"参照』を参照してください。

調査と文書

インシデントが発生した後、録画されたビデオを調査し、いつ何が起こったのかを正確に特定できます。たとえば次の方法でインシデントを素早く検索できます。

- ビデオの再生と視聴
- 検査できる短いシーケンスにビデオをスライス
- 録画の選択した領域のモーションを検索

このセクションのトピックでは、録画されたビデオの各手法について説明します。

録画済みビデオの検索

シーケンスエクスプローラ、**録画検索** ペイン、または **スマートサーチ** 『122ページ』の"スマートサーチペインを使用した検索"参照』ペインを使用して、録画済みビデオを検索することができます。

再生 タブで、**録画検索** ペインを使用して、選択したカメラまたはビューにあるすべてのカメラで録画されたシーケンスやを簡単に検索できます。あるいは、**スマートサーチ** ペインを使って、特定のカメラのからの録画の中にある、1つまたは複数の選択した領域でモーションを検索することができます。

魚眼レンズカメラからのビデオにはスマートサーチは使用できません。スマートサーチの使用は、ユーザー権限によって制限される場合があります。

個別再生を使用する録画済みビデオの表示

この機能は、ホットスポット、画面自動切替、または **Matrix** 位置ではなく、通常の単一のカメラ位置に対してのみ使用可能です。

1. 録画ビデオを再生するカメラをマウスで横切ります。表示されるツールバーで、**独立再生** ボタンをクリックします。



独立再生のタイムラインが表示されます：

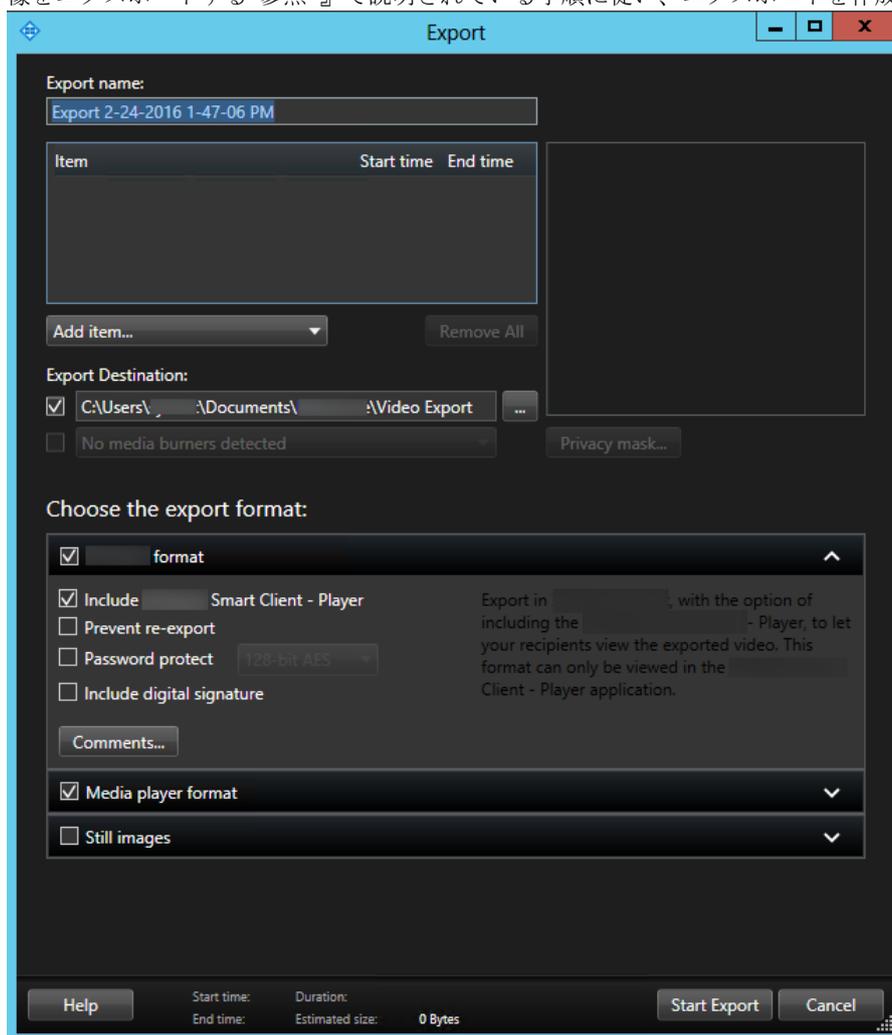


2. タイムライン 『125ページ』をドラッグして、再生するビデオが含まれる時間を選択します。
3. 選択した時間のすべてのカメラの録画ビデオをビューで同時に再生するには、**再生** タブで**選択された時間の録画を表示** をクリックします。 。この操作で、すべてのカメラが選択した時間に同期されて**再生** タブで再生されます。

エクスポートされたビデオの表示

Network Video Management System Smart Client で作成するエクスポートは、別のフォルダを指定しないかぎり、ローカルコンピュータのデフォルトフォルダに保存されます。作成した直後またはその後からエクスポートを表示できます。

- 作成した直後にエクスポートされたビデオを表示するには、
 - ビデオクリップ、音声、Network Video Management System データ、静止画像のエクスポート『134ページ の"ビデオクリップ、音声、Network Video Management System データ、静止画像をエクスポートする"参照』で説明されている手順に従い、エクスポートを作成します。



- エクスポートが完了したときに、右上端にある【詳細】ボタンをクリックします。出力フォルダへのリンクがあるダイアログボックスが表示されます。
 - リンクをクリックすると、出力フォルダが開きます。
2. 以前のある時点でビデオをエクスポートした場合

1. エクスポートファイルを保存するフォルダに移動します。デフォルトの場所は、**C:\Users<ユーザー名>\Documents\Sony\Video Export** です。フォルダの場所は、エクスポートウィンドウで確認できます。これは、常に同じエクスポート先を使用している場合にのみ動作します。
2. 出力形式に応じて、該当するフォルダを開き、ビデオファイルまたは静止画像をダブルクリックします。形式が **Network Video Management System 形式** の場合、.exe 拡張子の Smart Client Player ファイルをダブルクリックします。

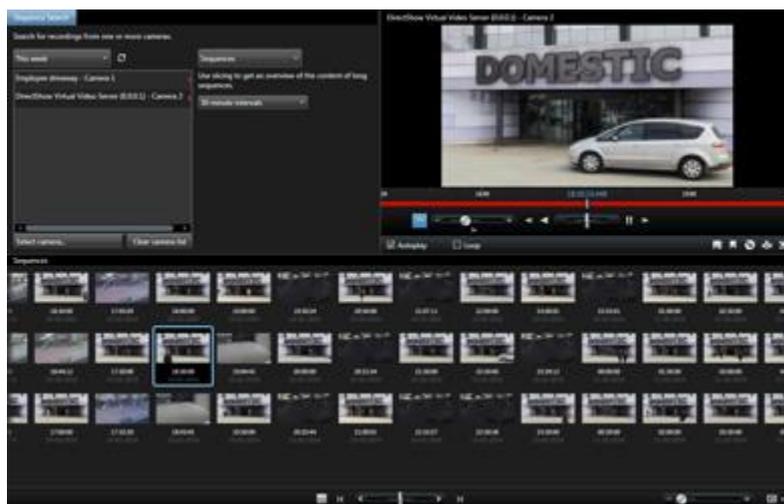
シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索

[シーケンスエクスプローラ]タブには、ビデオのシーケンスを検索することで、インシデントを調査できます。

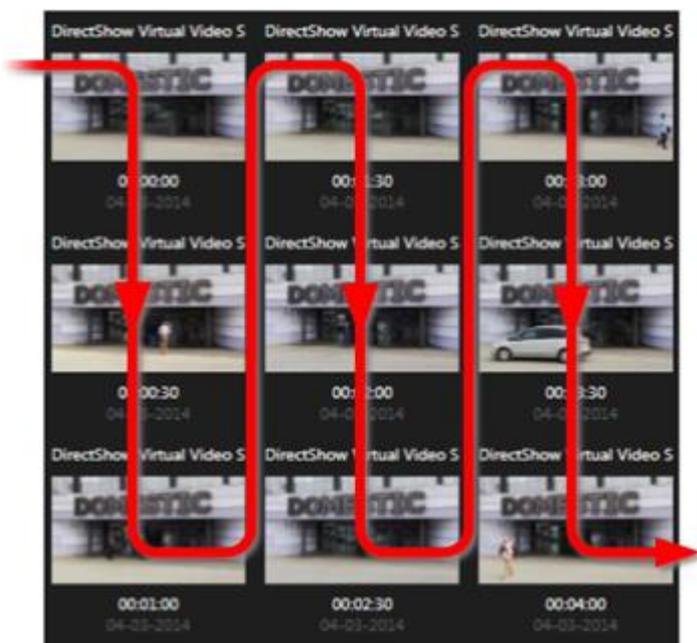
- **シーケンス検索**
モーション検知、イベント、などに基づいて、1つ以上のカメラで録画シーケンスを検索します。
- **スマートサーチ**
単一のカメラで選択したエリアのみからモーションを検索します。

シーケンス検索

シーケンス検索では、選択したカメラからの録画を簡単に調査できます。録画ビデオがサムネイル概要で表示され、そこで録画をブラウズし、Player ウィンドウですぐに再生できます。



サムネイル概要はコンテンツを左から右へ時系列的に表示し、直近のサムネイルをビューの右下部に配置します。

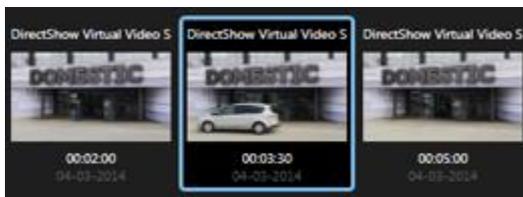


サムネイルのサイズは、サムネイル概要下部のサイズスライダーをドラッグすることによって調整できます。



サムネイルは、選択した個々のカメラまたはビューで選択したすべてのカメラに関連付けることができます。サムネイル概要をドラッグして時間を移動し、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、大量の録画ビデオを迅速に表示し、最も関係のあるビデオを特定して、すぐに再生することができます。

特定のサムネイルに関連するビデオを表示するには、サムネイルをクリックします。サムネイルをクリックすると、そのサムネイルが強調表示され(自動再生が選択されている場合 d)、関連するシーケンスがシーケンスエクスプローラの右側に再生されます。



ヒント: サムネイルをクリックし、サムネイル概要をドラッグしてそこを離れてナビゲートしている場合、更新ボタンをクリックすることによって、選択したサムネイルにすばやく戻ることができます。

サムネイル概要には、指定した時間間隔内だけ録画が表示されます。すべてのシーケンスの表示を選択していなければ、サムネイル概要の左右へマウスを移動させることで、時間幅を前後に移動できます。

シーケンスの検索

1. メニューでシーケンスを選択します。
2. スライス機能を使用して、特定の時間間隔でサムネイルを表示します。たとえば、30秒毎に1つのサムネイルを表示します。また、カスタムスライス間隔...で独自の間隔を指定することもできます。特に連

続録画、あるいは長期間の録画がある場合、スライスを使用してサムネイルを短いシーケンスに分割すると非常に便利です。

3. サムネイル更新のリストを見る。これで、選択したシーケンスを表示するリストの準備ができます。

検索の定義

1. シーケンスエクスプローラタブで、**シーケンス検索**を選択します。
2. **カメラの選択...** メニューで、シーケンスを表示させたいカメラを検索します。シーケンス検索には、最大で **100** のカメラを追加できます：
 - 検索フィールドを使用して、カメラの名前または説明で検索するか、
 - リストでカメラへ移動
3. カメラをクリックして、ビューに追加します。

タイムライン

シーケンスエクスプローラのタイムライン 『125ページ の"タイムライン"参照』により、ビデオの内容をナビゲートできます。

シーケンスのナビゲート

サムネイルをナビゲートするには、複数のオプションがあります。

クリックしてドラッグする

サムネイル概要をクリックして、サムネイル概要内で左（時間の後方向）または右（時間の前方向）へドラッグします。

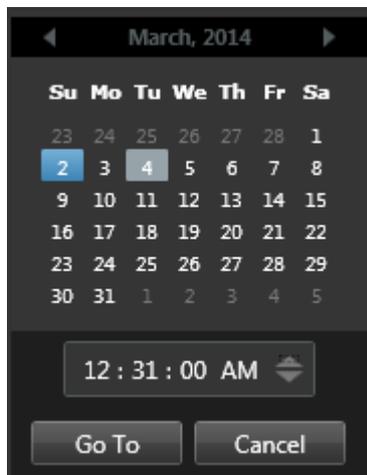
シーケンススライダー

サムネイル概要の下にあるシーケンススライダーを、左（時間の後方向）または右（時間の前方向）へドラッグします。



日付と時刻

サムネイル概要の下にある**カレンダーアイコン**  をクリックし、カレンダーにアクセスして、日付や時刻を指定できます。**移動** をクリックして、新しい日次のサムネイルを表示します。



ヒント： カレンダーで、青い背景  は、選択した日付を示します。灰色の背景は、現在の日付を示します。

感嘆符が付いたサムネイル

ナビゲーションの方法によって異なりますが、特定の時点から録画された画像がない場合、感嘆符が付いたプレースホルダサムネイルが表示されることがあります：



これらは、たとえばサーバー通信エラー、デコードエラーなどによって、シーケンスエクスプローラが適切なサムネイルを取得できない場合に表示されます。ただし、監視システムから取得したサムネイルが要求された時点と正確に一致しない場合も、プレースホルダサムネイルが表示されることがあります。これは、一致しないサムネイルは混乱を招くためです。

シーケンス検索でスライスを選択していると、取得したサムネイルが要求した時間間隔外であると、プレースホルダサムネイルが表示されます。例：要求した時間間隔が **12:00:00-12:00:30** であり、最初の使用できるサムネイルが **12:00:33** であるとしします。この間隔に該当する録画シーケンスがなければ、システムはサムネイルを取得しようとせず、表示される次のサムネイルは次の間隔(**12:00:30-12:01:00**)から取得されます。この間隔に該当する録画シーケンスがある場合は、プレースホルダサムネイルが表示されます。

シーケンス検索で、取得したサムネイルが、要求された時刻(つまり、問題のシーケンスの録画が監視システムでトリガされた時刻)から 3 秒以上離れている場合、プレースホルダサムネイルが表示されます。

プレースホルダサムネイルをクリックして、ビデオを表示することができます。こうすると、プレースホルダサムネイルが示す時点より後の、最初の使用できる記録に移動します。

サムネイル概要のナビゲーション

サムネイル概要の左右をドラッグするか、サムネイル概要の下にあるナビゲーションコントロールを使用して、時間を前後に移動できます。

サムネイルの下にある**カレンダー**アイコンをクリックし、カレンダーにアクセスして、日付や時刻を指定できます。矢印をクリックして、時間を前後に移動します。**移動**をクリックして、新しい日次のサムネイルを表示します。

サムネイル概要には、指定した時間間隔内だけ録画が表示されます。すべてのシーケンスの表示を選択していなければ、サムネイル概要の左右にあるボタンを使用することで、時間幅を前後に拡大できます。



最も早いシーケンスへ移動します。



最も遅いシーケンスへ移動します。



時間間隔を拡大して、早いシーケンスを表示します。



時間間隔を拡大して、遅いシーケンスを表示します。

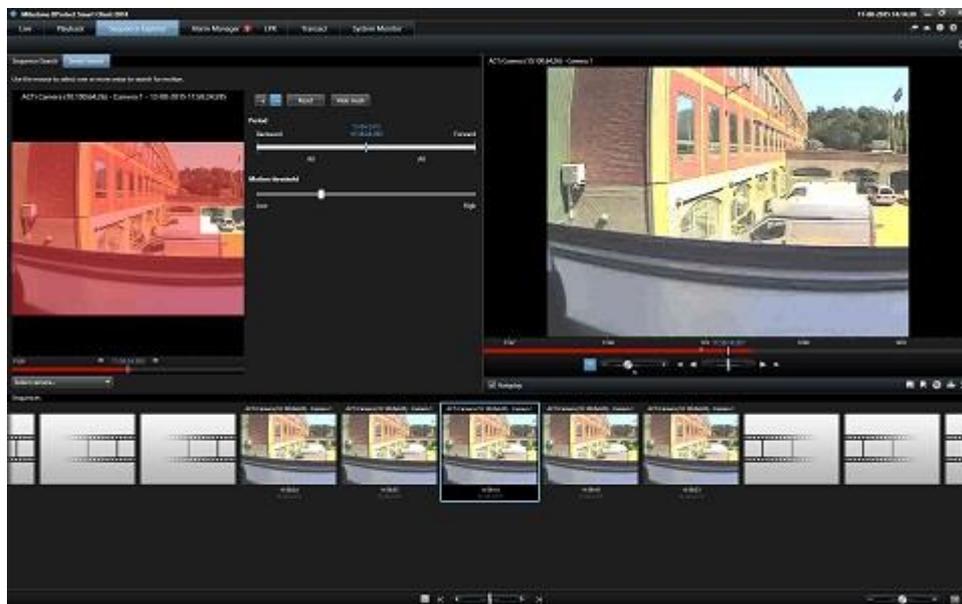


データベースの終わりです。これ以上シーケンスはありません。

録画されたビデオのモーションを検索する

スマートサーチは、選択した監視システム『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。ユーザー権限によっては、一部のカメラから検索できない場合があります。

スマートサーチを使用して、録画の選択された領域のモーションを検索します。たとえば、パッケージが棚から取り出されたときや人が裏口から入ったときを特定するときに、スマートサーチが有効です。インシデントが発生した場所とその領域に対応するカメラがわかっている場合は、録画内のその特定の領域におけるモーションを検索できます。インシデントの検索および再生を簡単にするために、モーションのあるエリアが緑色のボックスで示されたサムネイルシーケンスとして表示されます。



注意：スマートサーチは、モーション録画ビデオと共に生成されるモーションメタデータに基づいています。システム管理者はサーバーでカメラのスマートサーチを有効または無効にできます。また、感度、処理時間、検出方法などの設定を指定できます。検索結果がない場合は、カメラのスマートサーチが有効ではない可能性があります。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。

Network Video Management System Enterprise Edition で録画されたビデオのモーションを検索する

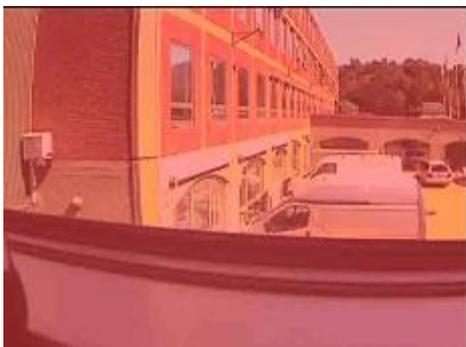
スマートサーチを使用すると、録画の選択された領域内のモーションを検索し、インシデントを調査できます。詳細については、「スマートサーチ 『119ページ』 の"録画されたビデオのモーションを検索する"参照』」を参照してください。

注意：スマートサーチ機能は、使用している Network Video Management System 製品によって異なります。次の手順がご使用の製品に合わない場合は、「スマートサーチペインを使用した検索 『122ページ』」を参照してください。

録画されたビデオのモーションを検索するには、次の手順に従います。

1. 次のいずれかを実行し、**【スマートサーチ】**タブを開きます。
 - 検索するカメラフィールドを既に表示している場合は、ビューアイテムツールバーで**【スマートサーチ】**アイコン  をクリックし、**【スマートサーチ】**タブとカメラを選択した状態で**【シーケンスエクスプローラ】**ウィンドウを開きます。
 - **【シーケンスエクスプローラ】**タブ、**【スマートサーチ】**タブの順にクリックします。カメラを選択する必要があります。

2. カメラがまだ選択されていない場合は、選択画像の下で**【カメラの選択】**をクリックしてから、ビデオを録画したカメラを選択します。マスクを適用した状態で、カメラからの画像が表示されます。マスクされた領域は検索から除外されます。これにより、検索結果の精度が上がります。



マスクされた画像

3. **【期間】**の下で、時間選択ツールを使用し、検索のタイムフレームを指定します。
4. **【モーションしきい値】**の下で、スライダを使用し、検索するモーションの量を指定します。しきい値が高くなると、必要なモーションが多くなり、検索結果が少なくなります。しきい値が低いと、検索結果が多くなります。
5. 検索対象を指定し、 ボタンをクリックしてから、選択画像をクリックして、マスクされていない領域までドラッグします。たとえば、誰かが部屋に入ったときに検出するには、ドア周辺の領域を選択します。その他のマスクされていない領域にもこの手順を繰り返します。



領域が選択された状態でマスクされた画像

注意：選択画像には表示されないグリッドがあります。領域のマスクを解除すると、グリッドのセルが消去されます。マスクを解除する領域にセルの一部分が含まれている場合、セル全体がマスク解除されます。この場合、想定しているよりも若干大きい画像のマスクが解除される可能性があります。

ヒント：CTRL ボタンを押し続けると、マスクモードとマスク解除モードを一時的に切り替えることができます。たとえば、想定したよりも大きい領域のマスクを解除した場合、CTRL ボタンを押すと、 ボタンをクリックせずに選択した部分をマスクできます。すべてのセルをクリアする場合は、**【リセット】**をクリックします。

6. 領域を選択すると、モーションが検出されたシーケンスが表示され、検出された最初のシーケンスが再生されます。再生コントロールとツールバーオプションを使用し、ビデオを調査します。

スマートサーチペインを使用した検索

スマート検索ペインは、すべての Network Video Management System 製品でサポートされているわけではありませんが、新しいバージョンでは シーケンスエクスプローラ タブに位置しています。

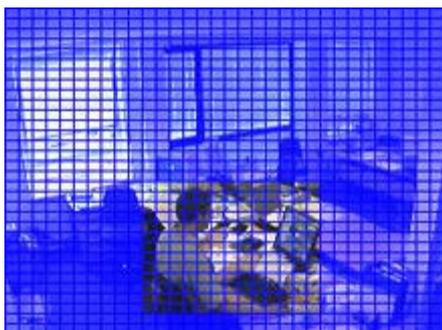
1. 再生タブのスマートサーチペインの検索エリアを展開し、**グリッドの表示**を選択します。
2. ビューでカメラを選択します。青いグリッドオーバーレイが表示されます。



ヒント：画像をダブルクリックすると拡大されて見やすくなります。

3. 画像の内側でクリック、ドラッグして、スマートサーチを実行するエリアを選択します。複数のエリアを選択できます。

選択したエリアは、青いオーバーレイを通して見えるようになります。したがって、この青いオーバーレイはスマートサーチから除外されるエリアを示していることとなります。



含めるまたは**除外する**のオプションをクリックして、選択したエリアを含めるか、除外するかを切り替えることができます。あるいは、選択を反転させて、選択しているすべてを含める、または除外することができます。スマートサーチペインの**含める**オプションと**除外する**オプションを使って、ドラッグしたエリアを含めたり除外することができます。



反転された選択部分の例

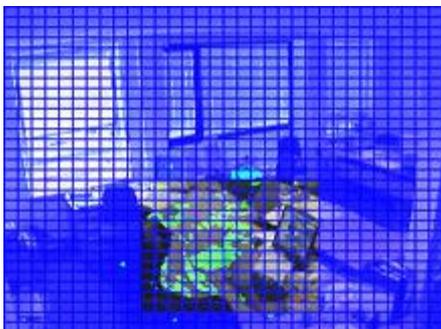
ヒント：反転をクリックする代わりに、クリック/ドラッグしながら **SHIFT** キーも押してエリアを選択できます。

4. **保存**をクリックして、検索エリアの設定を保存します。

ヒント：検索エリアに対してさまざまな変更を行って結果を確認する場合は、**ロード**をクリックして、保存した検索エリアの設定に戻ることができます。

5. **感度**リストで検索感度を選択し、**間隔**リストで画像の間隔を選択します。**すべての画像**を選択すると、すべての画像が分析されます。たとえば **10 秒**を選択すると、録画 **10 秒**ごとに **1 個**の画像だけが分析されます。長い間隔を選択すると、検索時間を大幅に短縮できます。ただし、長い間隔では、指定した間隔よりも短いモーションシーケンスを見逃す可能性があります。
6. **次へ**（時間を先へ進む）または**前へ**（時間を前に戻る）をクリックして、選択されたエリアでモーションが検知されたシーケンスで検索を実行します。

選択されたエリアでモーションがあるシーケンスが見つかったら、モーションが強調表示されてビューに表示されます。



ヒント：再生タブのタイムラインに、対応する時間情報が表示されます。

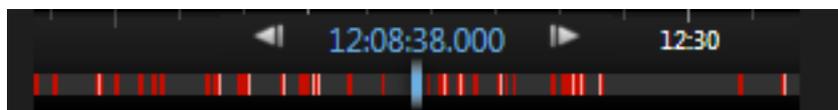
7. 必要に応じて、**次へ**または**戻る**をクリックしてスマートサーチを続行します。

時間の調整

スマートサーチで検索する時間を調整できます。選択した時間で、プレビュー画像が表示されます。

また、検索する期間を定義することもできます。期間は、常に選択した開始時間に基づきます。開始時間を選択するには、次の 2 つのオプションがあります：

- プレビューグリッドの下にあるタイムラインを左右にドラッグして、開始時間を設定します。使用できる録画は、色で示されます。また、矢印を使って、前または次のフレームへ移動することもできます。
- 現在の時間をクリックしてカレンダーにアクセスし、そこで日時を指定することができます。**移動**をクリックして、この時間を開始時間として設定します。



モーション閾値について

モーション閾値によって、スマートサーチを細かく定義できます。

より高い閾値を選択すると、スマートサーチがモーションを検知するのに、選択したエリアに必要なモーションが多くなります。

より低い閾値を選択すると、スマートサーチがモーションを検知するのに、選択したエリアに必要なモーションが少なくなります。

低い閾値は、必ずしも、より多くの結果を与えるわけではありません。高い閾値は、必ずしも、より少ない結果を与えるわけではありません。

スナップショットの作成

証拠ビデオをエクスポートする代わりに方法として、静止画像を保存または共有する場合は、画像のクイックスナップショットを作成できます。ライブ、再生、またはシーケンスエクスペローラの各タブで、あるいは画面自動切替、ホットスポット、またはカメラナビゲータからスナップショットを作成できます。

- スナップショットを作成するには、選択されたカメラのカメラツールバーで、スナップショットアイコンをクリックします：。スナップショットが作成されると、スナップショットアイコンが一時的に緑になります。

スナップショットファイルの場所を参照して、スナップショットを表示できます。スナップショットファイルは、アプリケーションオプション 『32ページ の"Network Video Management System Smart Client の構成"参照』で指定されたデフォルトのファイルの場所に保存されます。

画像にプライバシーマークが含まれる場合は、このプライバシーマークもスナップショット画像に適用されます。

時間ナビ制御

タイムラインのボタンとコントロール



- 1: 再生の日付
- 2: タイムラインの時刻
- 3: 再生の時刻
- 4: 時間選択モード
- 5: 開始時間/終了時間の設定
- 6: 再生速度および再生速度スライダー

再生ボタン

- 7: コマ戻し
- 8: 逆方向再生
- 9: シャトルスライダー
- 10: 順方向再生
- 11: コマ送り

ナビゲーションボタン:

- 12: 最初のシーケンス
- 13: 前のシーケンス
- 14: 次のシーケンス
- 15: 最後のシーケンス
- 16: 時間幅スライダー

タイムライン

タイムラインには、現在のビューで表示されているすべてのカメラの記録の一定期間の概要が表示されます。例えば、タイムラインは、再生モードに関係なく、**再生**および**シーケンスエクスプローラ**タブに表示されます。

タイムラインエリア 『124ページ の"タイムラインのボタンとコントロール"参照』には、2本のタイムラインが表示されます。上のタイムラインは選択したカメラの録画期間を示しており、下のタイムラインは選択したカメラを含めてビューにあるすべてのカメラを示します。フロートウィンドウをリンクした場合は、下のタイムラインにも表示されます。

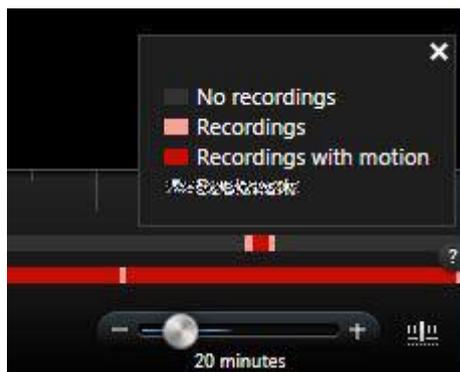
タイムラインを右へドラッグすると時間をさかのぼり、左へドラッグすると先へ進みます。マウスのスクロールホイールを使用して、タイムラインを前後に移動することもできます。タイムラインの範囲をズームして時間単位を増減するには、CTRL キーを押しながらスクロールホイールを使用します。

タイムラインは、録画中は明るい赤色、モーションは赤色、入力音声は明るい緑色、そして出力音声は緑色で表示されます。**タイムラインの時刻**は、青色の縦線で示されます。

右下隅の**簡易タイムライン/高度なタイムライン**ボタンを切り替えることで、簡易タイムラインと高度なタイムラインを切り替えることができます。簡易タイムラインを選択すると、表示されるのはシャトルスライダー、時間幅スライダー、**逆方向再生**および**順方向再生**ボタン、**コマ送り**および**コマ戻し**ボタンだけです。

初めて Network Video Management System Smart Client - Player を開くと、簡易タイムラインモードで開きます。

タイムラインの右の端の方で、カラーコードの凡例の小さい疑問符をクリックします。



再生の日時

タイムラインの上のエリアは、録画の再生の日時を青色で表示します。再生時間は、すべてのカメラに共通の時間です(独立再生モードは除きます)。録画を再生する場合、ビューにあるすべてのビデオは同じ時刻から再生されます。ただし、カメラによっては、モーションを検知した場合だけ録画しているものがあります。また、特定の時間に一致する、1台または複数のビデオで録画されたビデオがビューにない場合もあります。この場合、そのカメラのデータベースから、その時間より前の最も近い時間帯に録画された画像がビューに表示され、画像は灰色表示されます。

日付と時刻のナビゲーション

再生の日付または再生の時刻をクリックして**移動**ウィンドウを開くと、移動する日時を選択できます。タイムライン上の任意の場所をダブルクリックすると、その特定の時刻へ移動します。

時間選択

開始時間/終了時間の設定  をクリックすると、日時を指定して、特定の時点へジャンプできます。**時間選択モード**  をクリックすると、タイムラインで開始時間インジケータと終了時間インジケータをドラッグして期間を選択できます(通常は、ビデオをエクスポート『132ページの"Network Video Management System フォーマットの設定"参照』する場合)。もう一度クリックすると、時間が選択されていない状態でタイムラインが表示されます。

再生スピード

再生スピードスライダーを使って、現在の再生スピードを変更します。スライダーを左へ移動させると再生速度が遅くなり、右へ移動させると再生速度が速くなります。[1x]をクリックすると通常速度になります。

再生ボタン

再生ボタンを使用して録画を再生します：



コマ戻し：現在表示している画像のすぐ前の画像へ移動します。



時間内で逆方向再生



時間内で順方向再生



コマ送り：現在表示している画像のすぐ後の画像へ移動します。



一時停止：時間内で逆方向再生または時間内で**順方向再生**をクリックすると、ボタンが一時停止ボタンになります。これにより、マウスポインタを移動しなくても再生を一時停止できます。



シャトルスライダー：速度を調整できます。右にドラッグすると、順方向再生速度を上げることができます。左にドラッグすると、逆方向再生速度を上げることができます。

ビデオ録画を参照するには、左または右にタイムラインをドラッグします。

ナビゲーションボタン

ナビゲーションボタンを使用して録画シーケンスをナビゲートできます。



最初のシーケンス：選択したカメラのデータベースにある最初の画像へ移動します。



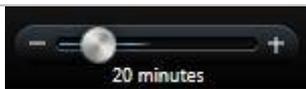
前のシーケンス：1 つ前のシーケンスの最初の画像へ移動します。



次のシーケンス：次のシーケンスの最初の画像へ移動します。



最後のシーケンス：選択したカメラのデータベースにある最後の画像へ移動します。



時間幅スライダー：タイムラインで再生の時間幅を指定してみましょう。

時間幅

時間幅スライダーを使用して、再生の時間幅、独立再生、タイムラインでの録画のシーケンス(例、1 時間、2 時間、または最大 4 週間まで)を指定できます。

イベントおよびアラーム

アラームの操作

アラームリストから、アラームの確認、アラームの詳細の編集、アラームに関する情報を記載したレポートの印刷ができます。

アラームの詳細の表示および編集

ビューの位置にアラームリストを追加した後、アラームをダブルクリックして、個別のウィンドウに情報を表示できます。ウィンドウには、アラームインシデントとライブビデオのプレビューが表示されます。

アラームは以下の方法で管理できます。

- **状態**：アラームの状態は、誰かがイベントに対応したかどうかを示します。アラームの状態を変更できます。通常は、**新規**から**進行中**に状態を変更し、その後で**保留中**または**終了**に変更します。ただし、必要な場合は、たとえば、**保留中**から**新規**に変更することもできます。
- **優先度**：アラームの優先度を変更できます。
- **割り当て先**：必要な場合、自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てることができます。アラームを割り当てられたユーザーは、アラームの所有者になり、アラームリストの**所有者列**に表示されます。
- **コメント**：アラーム履歴に追加されるコメントやメモを記入できます。コメントは通常、ユーザーが行ったアクションに関連します。たとえば、「警備員が容疑者を確保」、「容疑者を警察に引き渡した」、「誤警報」など。
- **アラーム履歴**：アラーム履歴は、どのようにアラームを処理したかの概要です。アラームの状態または優先順位にユーザーが変更を加えると、ユーザー間でのアラームの再割り当て、追加されたコメントがアラーム履歴に自動的に含められます。アラーム履歴を表示するには、編集ダイアログの左下にある  ボタンをクリックします。

注意：監視システムサーバーの設定によっては、アラーム履歴に、アラームの処理方法についての説明が含まれていることがあります。指示は、アラーム定義の一部としてサーバー側で定義されます。この場合、アラームを編集するときにアラーム履歴が自動的に表示されます。

- **印刷**：アラーム履歴や、画像が利用できる場合は、アラームの時刻での静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。

アラームの確認

- アラームを受信し、それに対応したことを記録するには、対象となるアラームを右クリックして**確認**を選択します。これにより、アラームの状態が**新規**から**進行中**に変わります。確認できるのは新規のアラームだけです。

複数のアラームを同時に確認することができます。Ctrl キーを押したままにして、確認するアラームを選択します。

アラームの無効化

「誤警報」の原因となった活動が分かっている場合、一定の期間、このタイプの活動に対するアラームを無効にする必要がある場合があります。これによって、対応する必要がある正しいアラームが区別しにくくなる場合があります。たとえば、あるカメラの周囲に多くの動きがあり、これがいくつかの「誤警報」を生じている場合、このカメラで10分間モーション検知を無効にすることができます。

1. アラームリストで、アラームを選択します。
2. 右クリックして、**新しいアラームを無効にする**を選択します。
3. アラームの無効化ウィンドウで、アラームを無効にする期間を指定します。

アラームの無視

マップで指定した期間、エレメントに対するアラームを無視することができます。たとえば、カメラが修理中で接続が解除されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視しても、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。

アラーム情報を記載したレポートの印刷

アラームリストから、アラーム履歴、利用可能な場合はアラーム発生時からの静止画像を含む、アラームについての情報を記載したレポートを印刷できます。対象となるアラームを右クリックして、**印刷**を選択します。アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、印刷機能は使用できません。

アラームレポートの表示

- **レポートボタン**をクリックして、**アラームレポート**ウィンドウを開くと、以下の事前定義のレポートの1つを表している2つのグラフを表示できます。
 - カテゴリ
 - 都道府県
 - 優先度
 - 閉じる理由
 - サイト
 - 応答時間

レポートをフィルターして、24時間、7日、30日、6か月、または1年の期間のアラームを表示することができます。

カテゴリ、状態、優先度、終了の理由、サイト、応答時間などを選択して、2つのグラフを横に並べて表示し、比較することができます。グラフの縦軸はアラームの数、横軸は時間枠になります。

アラームをフィルターする

関心があるアラームやイベントだけが表示されるように、複数の方法でアラームリストをフィルターすることができます。マップでエレメントをクリックすると、そのエレメントに関連しているアラームだけが表示されます。また、フィルターペインで事前に定義されているフィルターをクリックしたり、独自のカスタムフィルターを定義することも可能です。

- アラームリストの内容をフィルターするには、**アラームリスト**ツールバーで、**フィルター**をクリックして、アラームリストの上にある**フィルター**ペインを開きます。フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。たとえば、**ID** フィールドにユーザーIDを入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームだけが表示されます。

フィルターは組み合わせることも可能です（特定の日付の特定の場所など）。フィルターを適用すると、フィルターセクションの背景色が、青色からオレンジ色に変わります。フィルター処理していないアラームリストに戻るには、アラームリストのツールバーにある**フィルターのクリア**リンクをクリックします。

ヒント：多くの場合、フィルター条件を入力するフィールドには、必要な名前、場所などの最初の数文字を入力するだけで十分です。

フィルター条件を入力しても、他のフィルターフィールドに挿入点を移動するまで、アラームリストは更新されません。

ヒント：アラーム処理にマップコンテンツが含まれる場合は、マップ上の要素（カメラ、サーバーなど）を右クリックして、**アラームの表示**を選択することでもアラームリストをフィルター処理できます。これにより、選択したエレメントからのアラームだけがアラームリストに表示されます。

- アラームリストの内容を並べ替えるには、**アラームリスト**で、列の最上部にあるボタンをクリックします。

イベント

イベントは、監視システムで事前に定義されたインシデントであり、アラームをトリガするように設定できます。イベントは、事前に定義されたシステムインシデントまたはユーザー指定のイベント（たとえば、アナリティックイベント、ジェネリックイベント、またはユーザー指定）のいずれかです。イベントは必ずアラームにリンクしなければならないわけではありませんが、リンクすることができます。

通常、イベントはバックグラウンドで自動的にアクティブ化（たとえば、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータの結果として）されますが、手動で起動することもできます。イベントは、録画の開始や停止、ビデオの設定の変更、出力の起動、あるいは複数のアクションの組み合わせなどのアクションをトリガするために監視システムによって使用されます。使用している **Sony - Network Video Management System Smart Client** でイベントをアクティブ化すると、自動的に監視システムでアクションを起動します。たとえば、特定の期間、特定のフレームレートで特定のカメラで録画したり、事前に指定したインシデントの説明のテキストメッセージを特定のセキュリティ担当者の携帯電話に送信するなどです。

監視システムの管理者は、手動でイベントをアクティブ化した場合の動作を指定します。監視システムの管理者は、手動でアクティブ化されるイベントに対して、条件イベントのボタン、ユーザー定義イベントやカスタムイベントを使用することがあります。

手動でイベントをアクティブ化する

- **ライブタブのイベント**ペインで、関連するイベントを選択してから、**アクティブ化**をクリックします。

選択可能なイベントのリストは、サーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。階層構造内では、グローバルイベントが関連するサーバーの下に表示されます。サーバーが赤色のアイコン付きでリストされている場合は使用することができず、その場合、そのサーバーではイベントをアクティブ化できません。

代わりに、カメラで使用可能であれば、マウスを画像の上に移動した時に表示されるオーバーレイボタンをクリックします。

出力を以前にアクティブ化していれば、確認はありません。

証拠のエクスポート

【エクスポート】ウィンドウの設定

ユーザー権限、サーバーの種類、サーバーでの設定によって、一部のエクスポート設定が制限され、使用できないことがあります。

Sony - Network Video Management System Smart Client では、ムービークリップ、音声、静止画像、または Network Video Management System フォーマットで記録したエビデンスを簡単にエクスポートできます。エクスポートは、単一シーケンスまたはストーリーボード 『133ページ の"ストーリーボードのエクスポートについて"参照』のいずれかで行えます。設定したフォーマットおよび設定は保存され、次回エクスポートする際に表示されます。

一般的なエクスポート設定

名前	説明
エクスポート名	プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができます。保存するフォルダまたはデータを焼くディスクは、このエクスポート名を継承します。
アイテム	<p>たとえばビデオシーケンスなど、エクスポートで選択したアイテムをリストします。</p> <p>それぞれのアイテムについて、日時を変更できます。日付をクリックすると、カレンダーが開きます。ここで、表示する新しい日付を選択できます。移動をクリックして、日付を変更します。カレンダーの下にある時間インジケータを使用して、アイテムの開始時間および終了時間を変更することができます。</p> <p>アイテムをクリックして、エクスポートクリップのプレビューを、アイテムリストの右にあるプレビューペインに表示させます。SHIFTまたはCTRLボタンを押しながら、さらにアイテムをクリックして、複数のアイテムを選択すると、複数のプレビューにアクセスできます。それぞれのプレビューについて、タイムラインで開始時間および終了時間を調整できます。</p> <p>横にある赤い x をクリックすることで、アイテムリストからアイテムを削除することができます。マウスをアイテムの上に移動させると、赤い x が表示されます。アイテムを 2 つに分割したい場合は、分割アイコンをクリックします。プレビューペインで、それぞれのアイテムの開始時間や終了時間を編集することができます。</p>
アイテムの追加	アイテムの追加... ボタンを使用して、エクスポートのリストに含めたい他のアイテムを選択します。 すべて削除 ボタンを使って、 アイテム ウィンドウにあるリストをクリアします。

名前	説明
エクスポート先	<p>パス - パスはユーザーが指定できます（フィールドによってパスが提案されることがあります）。この方法でパスを指定する場合、指定するフォルダは既に存在しないフォルダである必要があります。既に存在していない場合は、自動的に作成されます。</p> <p>メディアパーナー - パナーを選択します。エクスポート先に送信したいパナーを指定できます。こうして、エクスポートを作成し、必ず一度に光学メディアに直接書き込まれるようにします。</p>
プライバシーマスク	<p>クリックして、カメラのプライバシーマスクを設定します。画像の一部が表示されないように、選択したエリアを不透明の黒いエリアで覆います。既存のプライバシーマスクは削除できません。新しく追加できるだけです。</p>

プライバシーマスク、メディアプレイヤー形式、静止画像は、詳細モードでのみ使用できます。

Network Video Management System フォーマットの設定

Network Video Management System フォーマットでエクスポートできるのは、一部の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続している場合のみです。ユーザー権限によっては、一部またはすべてのカメラからの証拠のエクスポートが制限される場合があります。

名前	詳細
Network Video Management System Smart Client - Player を含める	<p>選択すると、エクスポートするデータに Network Video Management System Smart Client - Player アプリケーションが含まれます。Network Video Management System フォーマットは、Network Video Management System Smart Client - Player でのみ再生できます。</p>
再エクスポートしない	<p>ビデオや音声の再エクスポートを許可しない場合に選択します。受信者は、いかなるフォーマットでもエクスポートできません。</p>
パスワード保護	<p>エクスポートするデータに適用する暗号化の長さを選択します。エクスポート開始をクリックすると、システムは 8 文字以上のパスワードを要求します。</p>
コメント	<p>クリックしてエクスポートにコメントを追加するウィンドウを開くと、個別のカメラやプロジェクト全体にコメントを追加することができます。</p>

メディアプレイヤーのフォーマット設定

メディアプレイヤーのフォーマットを使用すると、標準のメディアプレイヤーがインストールされているコンピュータで再生および/または聴くことができる、標準のビデオクリップおよび/または音声クリップをエクスポートすることができます。また、コンピュータにはエクスポートで使用するコーデックもインストールされている必要があります。

名前	説明
コンテンツの選択	ビデオのみ、音声のみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートするか選択してください。
形式の選択	AVI 形式または MKV 形式でビデオをエクスポートするか選択してください。
コーデック	<p>ビデオコーデックは、ビデオファイルを生成する際に使用される特別な圧縮/解凍テクノロジーです。選択したコーデックは、AVI ファイルの品質とサイズに影響します。</p> <p>リストには、使用中の PC で使用可能なビデオコーデックが含まれています。</p> <p>コーデックを変更することはできますが、変更するべき十分な理由がない限り、デフォルトのコーデックの設定を使用することをお勧めします。</p> <p>使用するコーデックは、ビデオクリップを再生するコンピュータと類似のものである必要があります。</p>
タイムスタンプを含める	監視システムからの日付と時刻をエクスポートされた画像に追加する場合に選択します。エクスポートされた画像の最上部にタイムスタンプが表示されます。
フレームレートの低減	選択すると、エクスポートのフレームレートを低減させます。1 つおきに画像をエクスポートしますが、リアルタイムで再生できます。
ビデオのテキスト	ビデオのテキストのウィンドウをクリックして開き、AVI ファイルの前後のテキストを作成することができます。これらのテキストは、エクスポートするすべてのカメラに追加され、ビデオの前(プレスライド)および/または後(ポストスライド)に静止画像として表示されます。

重要:MKV 形式でエクスポートを実行する場合、プライバシーマスクを使用せず、JPEG または MPEG-4/H.264/H.265 形式でビデオを録画すると、録画したビデオはエクスポートにトランスコードされません(録画したビデオの元の品質が保持されます)。対照的に、プライバシーマスクを使用しているか、他のコーデック(例、MxPEG または MPEG-4 ショートヘッダモード)を使用してビデオを録画した場合、録画されたビデオはエクスポートで JPEG にトランスコードされます。

静止画像設定

単一のビデオフレームをエクスポートする場合は、これらを静止画像としてエクスポートすることができます。

名前	詳細
タイムスタンプを含める	監視システムからの日付と時刻をエクスポートされた画像に追加する場合に選択します。エクスポートされた画像の最上部にタイムスタンプが表示されます。

ストーリーボードのエクスポートについて

ストーリーボード機能は、1 つのカメラから、または複数のカメラからのビデオシーケンスと一緒に 1 つの結合フローに貼り付けるのに役立ちます。イベントのシーケンス、ストーリーボードを内部調査や法定での証拠として使用することができます。

関連しないシーケンスをすべて省略したり、必要のないビデオの長いシーケンスを見ることで時間を無駄にすることを避けられます。また、関連するビデオが含まれていないシーケンスの保存でストレージを無駄にすることも回避できます。

ストーリーボード 『135ページ の"ストーリーボードのエクスポート"参照』を構成するビデオシーケンスを選択すると、時間選択モードの再生タブで作業ができます。ここで、エクスポート > エクスポートリストに追加機能を使用すると、エクスポートウィンドウを開くことなく、複数のシーケンスをリストに保存できます。リスト全体を構築すると、次にシーケンスの集合、ストーリーボードと一緒にエクスポートすることができます。また、エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポート 『135ページ の"エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする"参照』することもできます。

ビデオクリップ、音声、Network Video Management System データ、静止画像をエクスポートする

1. タイムラインの【再生】タブで、【時間選択モード】ボタンをクリックし、エクスポートするシーケンスの開始時間と終了時間 『126ページ の"時間選択"参照』を選択します。

ストーリーボードをエクスポート 『135ページ の"ストーリーボードのエクスポート"参照』する場合は、個別に開始時間および終了時間を設定した複数のシーケンスを選択することができます。

アイテムを直接【エクスポート】ウィンドウ 『135ページ の"エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする"参照』からエクスポートする場合は、時間選択モードを省略することも可能です。

2. タイムラインの右側にある【エクスポート】 > 【エクスポート...】をクリックして、【エクスポート】ウィンドウを開きます。

既に選択していて、関連するビデオデータを含んでいるアイテムに、さらにアイテムを追加したい場合は、【アイテムの追加...】ボタンを使用して選択することで、これらをエクスポートに含めることができます。また、選択を【エクスポート】ウィンドウで変更することもできます。

3. 【エクスポート名】フィールドに、エクスポートの名前を入力します。システムでは、現在の日時で名前を自動的に作成します。この名前は変更できます。
4. エクスポート先のパスおよび/またはメディアバーナーを指定します。
5. 関連するタブをクリックして、以下からエクスポートするフォーマットを 1 つまたは複数選択します。

- **Network Video Management System フォーマット** - エクスポートに Network Video Management System Smart Client - Player を含めるオプションを使用して Sony Network Video Management System データベース形式でエクスポートします。この形式でエクスポートしたビデオを表示するには、Network Video Management System Smart Client - Player を使用する必要があります。他のメディアプレーヤーでは動作しません。
- **メディアプレーヤーのフォーマット** - ほとんどのメディアプレーヤーで再生できる形式でファイルをエクスポートします。これには、ビデオを再生するコンピュータにメディアプレーヤーがインストールされている必要があります。
- **静止画像** - 選択した期間の各フレームを 1 つの静止画像ファイルとしてエクスポートします。

6. 選択した形式の設定 『131ページ の"[エクスポート]ウィンドウの設定"参照』を指定します。これらの設定に基づいて、プログラムはエクスポートのサイズを推定し、ウィンドウの下部のバーに表示します。

注:エクスポートで表示したくない項目や情報がビデオに含まれている場合は、プライバシーマスクを追加して、ビデオ内のこれらの項目を非表示にできます。詳細については、エクスポート中に録画の領域をマスクするを参照してください。

7. **【エクスポートの開始】**をクリックして、エビデンスをエクスポートします。

ヒント:変更を行いたい場合、あるいは後でアイテムを追加したい場合は、**【キャンセル】**をクリックします。選択したエクスポートアイテムを削除するかどうかを確認されたら、**【いいえ】**をクリックします。こうすることで、再度開いた時に、必ずエクスポートアイテムのリストが**【エクスポート】**ウィンドウで使用可能になります。

ストーリーボードのエクスポート

ストーリーボード 『133ページ の"ストーリーボードのエクスポートについて"参照』を構成している複数のアイテムをエクスポートする場合は、以下の手順に従います。

1. **【再生】**タブのタイムラインにある**【時間選択モード】**ボタンをクリックします。
2. エクスポートしたいそれぞれのアイテムについて、開始時間と終了時間を選択 『126ページ の"時間選択"参照』してから、**【エクスポート】** > **【エクスポートリストに追加】**の順にクリックします。これで、**【エクスポート】**ウィンドウを開くことなく、それぞれのアイテムがエクスポートのリストに追加されます。ストーリーボードに必要なアイテムがすべて追加されるまで、繰り返します。
3. タイムラインの右側にある**【エクスポート】** > **【エクスポート...】**をクリックして、**【エクスポート】**ウィンドウを開きます。選択したアイテムがすべて**【アイテム】**リストに表示され、エクスポートの準備が完了します。

【アイテムの追加】をクリックして、追加アイテムを追加します。**【すべて削除】**をクリックすると、リストはクリアされます。

4. **【エクスポート名】**フィールドに、エクスポートの名前を入力します。プログラムにより、現在の日時で名前が自動的に作成されます。この名前は変更できます。
5. エクスポート先のパスおよび/またはメディアバーナーを指定します。
6. 関連するタブをクリックして、エクスポート先のフォーマットを選択します。
7. 選択したフォーマットに必要な設定 『131ページ の"[エクスポート]ウィンドウの設定"参照』を指定します。これらの設定に基づいて、プログラムはエクスポートサイズを推定し、ウィンドウの下部のバーに表示します。
8. **【エクスポートの開始】**をクリックして、エビデンスをエクスポートします。

変更を行いたい場合、あるいは後でアイテムを追加したい場合は、**【キャンセル】**をクリックします。選択したエクスポートアイテムを削除するかどうかを確認されたら、**【いいえ】**をクリックします。こうすることで、再度開いた時に、必ずエクスポートアイテムのリストが**【エクスポート】**ウィンドウで使用可能になります。

エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする

エクスポートアイテムを直接**【エクスポート】**ウィンドウに追加することでアイテムをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. **【再生】**タブでタイムラインの右側にある**【エクスポート】** > **【エクスポート】**をクリックして、空の**【アイテム】**リストを含む**【エクスポート】**ウィンドウを開きます。
2. **【アイテムの追加】**をクリックして、カメラなどのエクスポートリストに追加したいアイテムを追加します。

3. それぞれのエクスポートアイテムをクリックしてから、リストの右にあるプレビューペインで開始時間と終了時間を指定します。リストにあるすべてのアイテムについて繰り返します。
4. **【エクスポート名】**フィールドに、エクスポートの名前を入力します。デフォルトでは、現在の日時が使用されます。この名前は変更できます。
5. エクスポート先のパスまたはメディアバーナーを指定します。
6. 関連するタブをクリックして、エクスポート先のフォーマットを選択します。
7. 選択したフォーマットに必要な設定 『131ページ の"[エクスポート]ウィンドウの設定"参照 』を指定します。これらの設定に基づいて、プログラムはエクスポートサイズを推定し、ウィンドウの下部に表示します。

注:エクスポートで表示したくない項目や情報がビデオに含まれている場合は、プライバシーマスクを追加して、ビデオ内のこれらの項目を非表示にできます。詳細については、エクスポート中に録画の領域をマスクするを参照してください。

8. **【エクスポートの開始】**をクリックして、エビデンスをエクスポートします。

注:変更を行いたい場合、あるいは後でアイテムを追加したい場合は、**【キャンセル】**をクリックします。選択したエクスポートアイテムを削除するかどうかを確認されたら、**【いいえ】**をクリックします。こうすることで、再度開いた時に、必ずエクスポートアイテムのリストが**【エクスポート】**ウィンドウで使用可能になります。

エクスポート中に録画の領域をマスクする

ビデオをエクスポートするときには、プライバシーマスクを追加して、選択した領域を非表示にできます。ビデオを表示すると、マスクされた領域は塗りつぶされたブロックとして表示されます。詳細については、「プライバシーマスク 『64ページ 』」を参照してください。

注意: プライバシーマスクはエクスポートするビデオにのみ影響します。元のビデオはマスクされません。

録画の1つ以上の領域をマスクするには、次の手順に従います。

-  ボタンをクリックしてから、マスクする領域の上にポインタをドラッグします。その他の領域をマスクするには、この手順を繰り返します。

注意: プレビュー画像には表示されないグリッドがあります。プライバシーマスクを追加すると、グリッドのセルが選択されます。選択する領域にセルの一部が含まれている場合、セル全体がマスクされます。この場合、想定しているよりも若干大きい画像がマスクされる可能性があります。

ヒント: CTRL ボタンを押しながら選択すると、マスクとマスク解除モードを一時的に切り替えることができます。たとえば、マスクを追加し、選択した領域が想定したよりも大きい場合、CTRL ボタンを押すと、 ボタンをクリックせずに選択した部分をマスク解除できます。

プライバシーマスクの一部を解除するには、次の手順に従います。

-  ボタンをクリックしてから、マスク解除するマスク領域の上にポインタをドラッグします。マスク解除する各部分でこの手順を繰り返します。

すべてのプライバシーマスクを削除するには、次の手順に従います。

- **【リセット】**をクリックします。

ヒント: マスクが適用されていない画像を表示する場合は、**【マスクの非表示】**ボタンをクリックし続けます。ボタンをリリースすると、マスクが再表示されます。

よくある質問：エクスポート

音声もエクスポートできますか？

メディアプレイヤーのフォーマットおよび Network Video Management System のフォーマットをエクスポートする場合、監視システムが音声に対応していれば、録音音声もエクスポートできます。データベースフォーマットでエクスポートできるのは、選択した監視システムに接続している場合のみです。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。 <http://www.sony.net/CameraSystem>. JPEG（静止画）フォーマットでエクスポートする場合は、音声を含めることはできません。

ブックマークビデオクリップをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

指定されたクリップの開始時間から指定されたクリップの終了時間まで、ブックマークビデオクリップの全体が含まれます。

シーケンスをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

証拠ロックをエクスポートすると、何がエクスポートに含まれますか？

削除から保護されているすべてのデータが含まれる：すべてのカメラおよびカメラに関連するデバイスからのデータ、選択した間隔の最初の画像から選択した間隔の最後の画像まで。

魚眼レンズ記録をエクスポートできますか？

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ(例、360°のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ)をサポートしている場合は可能です。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか？

通常は独自のパスを指定できますが、特定のタイプの監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』に接続していなければ、監視システムサーバーがエクスポートパスの設定を管理し、ユーザーは独自のパスを指定することができません。

証拠を印刷する

複数の方法で、録画されたビデオから単一の静止画像またはビュー全体を印刷できます。印刷すると、その画像は自動的に監視レポートに含まれます。この監視レポートには、記録されているインシデントに関するメモを含めることができます。



組織でアラーム処理機能を使用している場合、アラームに関する情報も印刷できます。

監視レポートを印刷する

1. 監視レポートの一部として印刷する、関連するカメラまたはビューを選択します。
2. 関連する時間またはシーケンスを参照します。
3. マウスを画像の上に移動し、カメラのツールバーに表示されるメニューで、印刷アイコンをクリックします。

監視レポートが表示され、以下に関する情報と共に画像のプレビューが表示されます。

- カメラ名
- 画像取得時間
- 印刷時間
- ユーザーの名前

ユーザーのメモ：に、インシデントの説明を含めることができます。

ヒント：画像にデジタルズームを使用した場合は、拡大した部分のみが印刷されます。

オプション：用紙サイズ、ソース、印刷方向を変更または確認するには、監視レポートウィンドウのページ設定ボタンをクリックして、ページ設定ウィンドウを開きます。



準備ができたなら、**OK** をクリックして、Sony - Network Video Management System Smart Client 監視レポートウィンドウに戻ります。レポートをプレビューする場合は、**プレビュー** をクリックします。

4. 印刷をクリックすると、画像とその関連情報が印刷されます。

拡張

Network Video Management System アドオン製品は個別のソフトウェアコンポーネントであり、追加の価値と機能でビデオ管理システムを拡張できます。

Network Video Management System Smart Wall

Network Video Management System Smart Wall について

このアドオン製品、選択した監視システム『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。ユーザー権限によって、一部の機能へのアクセスが制限されることがあります。

Network Video Management System Smart Wall はコラボレーションツールであり、セキュリティ担当者は、常時監視する必要がある領域の概要を、優れた視覚的效果を使用して確認できます。1人以上のオペレータは、モニターおよびビデオウォール上でビデオ、画像、マップ、テキスト、HTML ページなどのさまざまなコンテンツを共有でき、セキュリティチームはより迅速かつ効果的にインシデントに対応できます。

一般的に、Smart Wall はコマンドセンター、都市監視、交通管制センターなどのオペレータによって使用されます。



ビデオウォールの例

Smart Wall の設定

システム管理者は、Management Client で Smart Wall のレイアウトと動作を定義します。これには次の項目が含まれます。

- Smart Wall の名前などの一般プロパティ、ステータステキスト、タイトルバー、またはライブインジケータを表示するかどうか。
- ディスプレイのレイアウトを制御するプリセット、およびビデオの表示元のデフォルトカメラ。
- コンテンツを表示、操作、または再生できるユーザーの役割、および役割が各操作を実行できるタイミング。

- ルールと組み合わせて、アラームまたはコンテンツの表示などのシステムアクションをトリガするイベント。
- アクションがイベントによってトリガされるか、スケジュールに基づくかどうかを決定するルール。

動作に関するこのような設定のいずれかを変更する場合は、システム管理者に相談してください。Smart Wall の設定方法の詳細については、Management Client のヘルプの Network Video Management System Smart Wall に関するセクションを参照してください。

Network Video Management System Smart Wall でのライブまたは録画されたコンテンツの表示

Network Video Management System Smart Wall コンテンツは、Network Video Management System Smart Client のすべてのライブおよび再生タブで表示できます。

注意：ユーザー権限により、カメラが Smart Wall 上でビデオを表示できないようにすることができます。

Smart Wall のコンテンツを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューペインで、**Smart Wall** を展開し、Smart Wall フォルダを展開してから、モニターを選択します。
2. 実行する操作に応じて、**[ライブ]**または**[再生]**タブをクリックします。

別のウィンドウで Smart Wall コンテンツを表示する

Smart Wall コンテンツは、メインコンピュータモニターの別のウィンドウ、または使用しているセカンダリコンピュータモニターに送信できます。たとえば、次の状況で有用です。

- 初めてビデオウォールを設定し、モニター上でコンテンツを全画面表示する。
- Smart Wall とは別の部屋で作業しながら表示内容を確認する必要がある。
- Smart Wall で状況を監視しながら、Smart Client で作業を行う。たとえば、インシデントが発生した瞬間をブックマークに追加したり、**[再生]**タブで状況を調査したり、不審者のスナップショットを作成したりできます。

次の表には、別のウィンドウまたはディスプレイで Smart Wall コンテンツを表示する方法について説明します。

オプション	説明
フルスクリーン	現在表示しているコンテンツをディスプレイ上に全画面表示します。Smart Client は Smart Wall コンテンツの後ろで開いた状態です。ウィンドウは最小化またはサイズ変更できます。 このオプションは、Smart Wall が対応する領域に集中する場合に有用です。たとえば、警備員が建物内部の不審者を見失った後に、正面の駐車場を監視するときなどです。
セカンダリディスプレイ	別のディスプレイでコンテンツを表示し、現在のディスプレイでは Smart Client を表示し続けます。 このオプションでは、Smart Client で作業しながら、Smart Wall を監視できます。たとえば、インシデントのビデオをエクスポートしながら、駐車場を監視し続けることができます。

オプション	説明
フルスクリーン	<p>現在表示しているコンテンツをディスプレイ上に全画面表示します。 Smart Client は Smart Wall コンテンツの後ろで開いた状態です。ウィンドウは最小化またはサイズ変更できます。</p> <p>このオプションは、Smart Wall が対応する領域に集中する場合に有効です。たとえば、警備員が建物内部の不審者を見つけた後に、正面の駐車場を監視するときなどです。</p>
フロートウィンドウ	<p>現在表示しているディスプレイのフロートウィンドウでコンテンツを表示します。ウィンドウは最大化またはサイズ変更できます。</p> <p>たとえば、このオプションは、複数の Smart Wall からコンテンツを表示する場合に有効です。駐車場と屋根を同時に監視できます。</p>

Smart Wall からディスプレイにコンテンツを送信するには、次の手順に従います。

- Smart Wall ビューアイテムの上で、 アイコンをクリックし、**[ビューを分ける]**を選択してから、ディスプレイオプションを選択します。

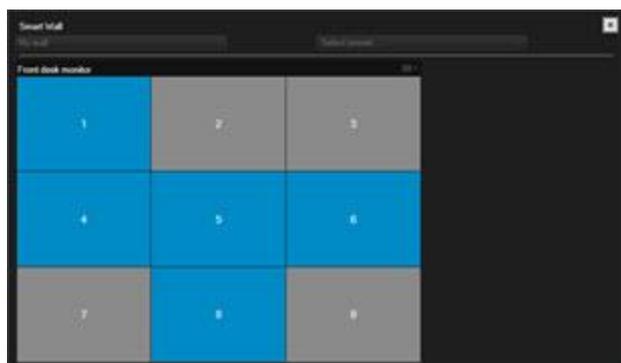
ビデオウォールに表示中の内容を妨害せずにコンテンツを確認する

[Smart Wall モニターの切断]をクリックすると、Smart Wall が表示するコンテンツを変更せずに、ライブまたは録画されたコンテンツを表示できます。切断中に行う変更は、Smart Wall が表示するコンテンツに影響しません。たとえば、タイムラインで時系列と反対に移動しても、Smart Wall は現在のビデオを表示し続けます。共有されたコンテンツに再接続する場合は、**[Smart Wall モニターの再接続]**をクリックします。

注意：**[再生]**タブで録画されたビデオを操作するには、自分が割り当てられているユーザー役割に**再生権限**が付与されている必要があります。この権限がない状態で、タイムラインスライダの移動などの変更を行おうとすると、共有ビューから自動的に切断されます。共有ビューに戻るには、**[Smart Wall モニターの再接続]**をクリックします。

Smart Wall の操作を開始する

システム管理者が Smart Wall を設定した後は、Smart Client で操作できるようになります。デフォルトでは、Smart Wall 概要は、システム管理者が指定したレイアウト、サイズ、およびカメラを反映しますが、これらの設定を変更し、他のタイプのコンテンツを追加できます。詳細については、「Smart Wall でのコンテンツの追加と削除 『144ページ の"Smart Wall のコンテンツの追加と削除"参照 』」を参照してください。



ビューアイテムの 3x3 レイアウトの Smart Wall 概要

Smart Wall 概要の青色のタイルはコンテンツを表示しています。灰色のタイルは空です。次の手順を実行し、タイルが表示しているコンテンツのタイプを特定できます。

- タイルの上にマウスカーソルを置きます。タイル番号がカメラなどのアイコンに変わり、コンテンツのタイプを示します。
- タイルをクリックすると、**[プレビュー]**ウィンドウにコンテンツが表示されます。

注意: プレビューウィンドウのツールバーには、コンテンツの印刷または別の Smart Wall に送信するためのオプションがあります。

Smart Wall 概要をビューに追加するには、次の手順に従います。

1. **[設定]**をクリックします。
2. ビューペインで、ビューを作成または選択します。

ヒント: 幅が広いレイアウトを含むビューは Smart Wall コンテンツを表示するのに適しています。たとえば、1+1+2 ビューの下部は幅が広い位置を示します。1×3 ビューには同時に 3 つの Smart Wall を含めることができます。

3. **[システム概要]**ペインで、作業するビューの位置まで **Smart Wall** 概要をドラッグします。
4. **[設定]**をクリックし、セットアップモードを解除します。
5. **Smart Wall** メニューで、操作する Smart Wall を選択します。

カメラからビデオを表示する

Smart Wall でカメラのビデオを表示するには、次の手順に従います。

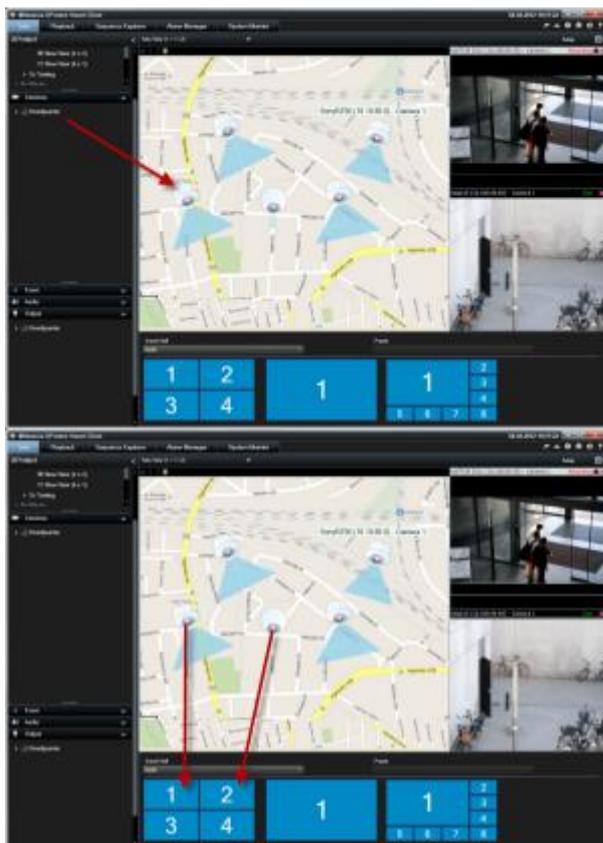
1. **[ビュー]**ペインの**[ライブ]**または**[再生]**タブで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。
2. カメラを追加するには、次の手順のいずれかを使用します。
- **[カメラ]**ペインで、カメラを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグします。

注意: **[カメラ]**ペインはサーバーによってカメラをグループ化します。赤色のアイコンは、サーバーが使用できないことを示します。このサーバーからカメラを選択することはできません。

マップから Smart Wall までカメラをドラッグします。

マップ上でカメラのビデオを表示するには、マップから Smart Wall ビューアイテムまでカメラをドラッグします。たとえば、この方法で、アラームがトリガするときにビデオをすばやく共有することができます。

ヒント: ローディングビューやセカンダリディスプレイのビューなどの他のディスプレイのマップからカメラをドラッグすることもできます。



Smart Wall のコンテンツの追加と削除

Network Video Management System Smart Wall では、カメラからのビデオフィードなどのコンテンツ、HTML ページ、画像、テキスト、およびモニターとビデオウォールのホットスポットおよび画面自動切替などのコントロールを表示できます。

監視する状況と環境によっては、異なるタイプのコンテンツを組み合わせることで、応答時間と効果を改善できます。たとえば、不審者の画像を表示し、パトロール中の担当者が不審者認識できるようにする場合は、画像を追加できます。応答測定のガイダンスを提供する場合は、テキストを追加できます。

ビデオまたは画像の表示

カメラからビデオを表示する

Smart Wall でカメラのビデオを表示するには、次の手順に従います。

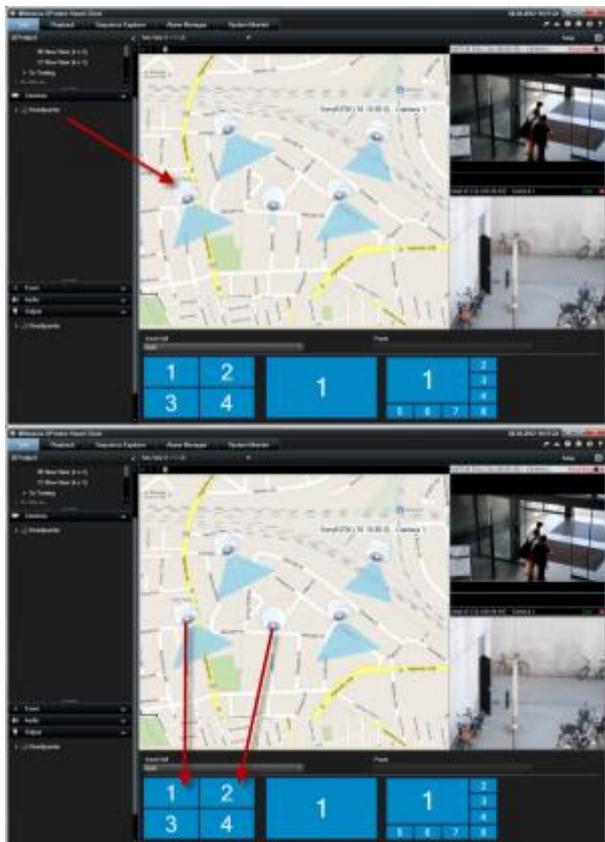
1. **【ビュー】**ペインの**【ライブ】**または**【再生】**タブで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。
2. カメラを追加するには、次の手順のいずれかを使用します。
 - **【カメラ】**ペインで、カメラを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグします。

注意：【カメラ】ペインはサーバー  によってカメラをグループ化します。赤色のアイコン  は、サーバーが使用できないことを示します。このサーバーからカメラを選択することはできません。

マップから Smart Wall までカメラをドラッグします。

マップ上でカメラのビデオを表示するには、マップから Smart Wall ビューアイテムまでカメラをドラッグします。たとえば、この方法で、アラームがトリガするときビデオをすばやく共有することができます。

ヒント:ローディングビューやセカンダリディスプレイのビューなどの他のディスプレイのマップからカメラをドラッグすることもできます。



画像の表示

Smart Wall には静的な画像を表示できます。たとえば、不審者のスナップショットまたは緊急避難用出口の図を共有する場合に有用です。

画像ファイルのネットワークロケーションにアクセスできないユーザーまたは Smart Wall と画像を共有している場合は、**【プロパティ】**の**【埋め込む】**をクリックして、画像を埋め込むことができます。画像を埋め込むと、Smart Client に保存され、元のファイルの場所への接続は削除されます。埋め込まれた画像を Smart Wall から削除するか置換して、再表示する場合は、もう一度 Smart Wall に画像ファイルを追加する必要があります。

ヒント:フロアプランまたはマップを共有する場合は、マップ機能 『95ページ の"マップ"参照』の使用を検討してください。マップ機能は、特定の監視システム 『11ページ の"監視システムの別の特徴"参照』でのみ使用できます。

このトピックの手順は、Smart Wall 概要が既にビューに追加されていることを前提としています。詳細については、「Smart Wall の操作を開始する 『142ページ』」を参照してください。

Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. コンピュータで、画像ファイルの場所へ移動します。
2. Smart Client のナビゲーションペインで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。

3. 画像を表示する概要のタイルまで画像ファイルをドラッグします。

注意: 画像を Smart Wall 概要までドラッグすると、画像が自動的に埋め込まれ、[プロパティ]ペインは使用できません。

複数の Smart Wall で画像を表示するには、次の手順に従います。

1. Smart Wall 概要を含むビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. **システム概要**ペインで、ビューの特定の位置まで**画像**項目をドラッグします。
3. 追加する画像ファイルを選択し、**【開く】**をクリックします。

注意: ビューに画像を追加すると、位置に合わせて、画像のサイズが変更されます。これにより、画像がゆがむ場合があります。ゆがみを回避するには、画像の**【プロパティ】**ペインで、**【画像のアスペクト比を維持】**チェックボックスを選択します。

4. **【プロパティ】**ペインで**【埋め込む】**をクリックします。
5. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall に画像を送信します。

スナップショットを作成し、Smart Wall に表示します。

次の方法で、インシデントのスナップショットを共有できます。

1. **【ライブ】**または**【再生】**タブで、映像を表示するビューアイテムの上にマウスカーソルを置きます。
2. ビューアイテムツールバーで、**スナップショットの作成アイコン**  をクリックします。画像は、[アプリケーションオプション]で指定された場所に保存されます。
3. スナップショットを表示するには、Smart Wall 概要でフォルダからタイルにスナップショットをドラッグします。

テキスト、Web ページ、アラームの表示

ビューまたは Smart Wall へのテキストの追加

ビューの位置にテキストを追加できます。たとえば、メッセージまたは手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿する場合に有用です。最大 1000 文字まで使用できます。

ビューアイテムにテキストを追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
2. **【システム概要】**ペインで、**テキストコンテンツ**をビューにドラッグします。
3. **【テキストエディタ】**ウィンドウでは次の操作ができます。
 - 表示するテキストを入力する
 - **【貼り付け】**を右クリックして選択し、Microsoft Word や WordPad などの外部テキストエディタからコピーしたテキストを貼り付ける。
 - フォントタイプ、サイズ、色などの基本書式設定をテキストに適用する。
4. テキストを保存し、表示するには、**【保存】**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**【編集】**をクリックして、**【プロパティ】**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

注意：

[テキストエディタ]ウィンドウのサイズを変更すると、テキストのサイズが変わります。表示されるときには、ビューアイテムに追加されたコンテンツのサイズがビューに合わせて変更されます。

Microsoft Word や Microsoft Excel などの製品から表を挿入することはできますが、表の変更はできません。たとえば、行のサイズ変更、行の追加と削除はできません。また、Network Video Management System Smart Client の暗いテーマと明るいテーマに対応するために、明るいテキストまたは暗いテキストの色が変更されます。テキストが表示されない場合は、テキストに別の色を適用してください。

Smart Wall でのテキストの表示

Network Video Management System Smart Wall アドオンを使用している場合は、ビデオウォールでテキストを表示することもできます。たとえば、ビデオウォールを表示できるユーザー全員に情報を提供する場合に有効です。テキストを共有する最適な方法は、1 つの Smart Wall にテキストを表示するか、複数の Smart Wall に送信するかによって異なります。

注意：テキストを Smart Wall に表示するときには、元のテキストのみが表示されます。つまり、ビューのテキストを編集する場合は、Smart Wall に変更が表示されません。

複数の Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューアイテムにテキストを追加するトピックで説明している手順を実行します。
2. 保存した後に、**[詳細]**、**[Smart Wall へ送信する]**をクリックし、Smart Wall 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。この手順を繰り返し、各 Smart Wall にテキストを送信します。

1 つの Smart Wall でテキストを表示するには、次の手順に従います。

注意：この手順では、テキストエディタがドラッグアンドドロップ操作をサポートする必要があります。サポートされていない場合は、このセクションの前の手順でテキストを Smart Wall に送信してください。

1. Network Video Management System Smart Client のナビゲーションペインで、Smart Wall 概要を含むビューを選択します。
2. テキストエディタで、表示するテキストを入力し、選択します。テキストが既に存在する場合は、選択します。
3. テキストを表示する概要のタイルまでテキストをドラッグします。
4. テキストエディタで、テキストを確認し、必要に応じて変更を行います。
5. テキストを保存し、表示するには、**[保存]**をクリックします。保存した後にテキストを変更する場合は、**[編集]**をクリックして、**[プロパティ]**ペインからもう一度テキストエディタを開くことができます。

Smart Wall でのアラームまたはアラームリストの表示

Smart Wall では、アラームリストまたは 1 つ以上の個別のアラームを表示できます。たとえば、アラームのリストを共有すると、対応が必要な複数のインシデントの概要が表示されます。個別のアラームを共有すると、1 つの特定のインシデントに注目することができます。

ビューまたは Smart Wall でのアラームリストの表示

アラームリストを追加すると、すべてのアラームおよびイベントの優先順序付けされた概要を共有できます。リストでアラームをダブルクリックすると、アラームの詳細を表示して操作できます。詳細については、「アラームの詳細の表示および編集 『128ページ』」を参照してください。アラームリストをビューに追加した後でイ

イベントのリストを表示するには、**【設定】**をクリックし、**【プロパティ】**ペインを展開して、**【データソース】**フィールドで**【イベント】**を選択します。

アラームのリストを表示するには、次の手順に従います。

1. **【ビュー】**ペインで、アラームリストを追加するビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. **【システム概要】**ペインで**【アラーム】**を展開し、**【アラームリスト】**概要をビューアイテムまでドラッグします。
3. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。
4. アラームリストを **Smart Wall** に送信するには、ビューアイテムツールバーで**【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックして、**Smart Wall**、モニター、およびリストを表示するタイルを選択します。

ヒント：あるいは、ビューに **Smart Wall** 概要が含まれる場合は、**Smart Wall** 概要のタイルにアラームリストを直接ドラッグできます。

Smart Wall での個別のアラームの表示

個別のアラームを追加するときには、アラームに関する次の詳細が **Smart Wall** に表示されます。

- イベントがアラームをトリガした日時
- アラームをトリガしたデバイスの名前とビデオフィード、そのデバイスに関連付けられたすべてのデバイス
- 詳細を表示し、アラームの一部の設定を変更するには、ビューの右上の矢印をクリックします。詳細は次のとおりです。
 - アラームが割り当てられたユーザー、優先度、アラームの状態。これらは任意の時点で変更できます
 - ソースまたはアラームをトリガしたもの（カメラがモーションを検出したときやアナリティックイベントが発生したときなど）
 - 手順。一般的に、これらはアラームに対して実行すべき対応を示します。Management Client でアラームの手順を定義します。
 - アクティビティ。これらはユーザーが入力したコメントです。一般的に、アラームに関連付けられた決定またはアクションを示します。また、誰かがアラームの詳細を変更すると、アクティビティのリストに変更が追加されます。
 - アラームにはコメントを追加できます。アクティビティとしてコメントが表示されます。
 - イベントが発生したときにビデオを記録していた場合は、**【再生】**タブ、**【アラーム時間へ移動】**をクリックすると、アラームがトリガされた時点のビデオを表示できます。

注意：ビューアイテムの上にポインタを置いたときに自動的に表示されるビューアイテムツールバーはスクロールバーに重なり、詳細を表示するためにスクロールできません。ビューアイテムの詳細を表示するには、ポインタがビューアイテム外にあるときに、CTRL キーを押し続け、スクロールバーを使用します。

個別のアラームを表示するには、次の手順に従います。

1. ビューにアラームリストを追加する手順に従います。
2. **【アラームリスト】**で、アラームを **Smart Wall** 概要のタイルまでドラッグします。

注意：個別のアラームを送信するには、Smart Wall までドラッグする必要があります。[詳細]メニューを使用して、リスト全体を追加します。

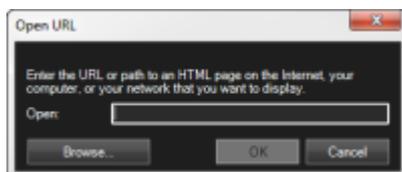
ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する

ビューおよび Smart Wall には HTML ページを追加できます。たとえば、これは、企業の Web ページ、インターネット地図サービス、リンクのコレクション、E ラーニングページなどで手順を表示する場合に有用です。



例：ビューに挿入された会社のホームページ

1. セットアップモードで、システム概要ペインで、ビューへ **HTML ページ** のアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. **URL を開く** ウィンドウが開きます。



3. **URL を開く** ウィンドウの **開く** フィールドに、表示する HTML ページの場所を入力します（例：<http://www.mywebsite.com/mywebpage.htm>）。

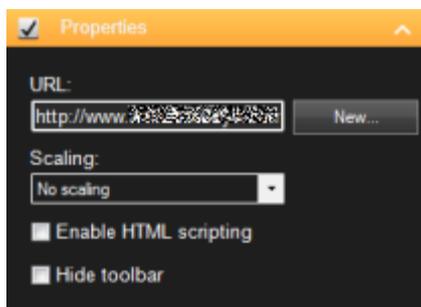
- または -

HTML ページが使用しているコンピュータにローカルに保存されている場合は、コンピュータ上のその場所を指定するか(例：<C:\myfiles\mywebpage.htm>)、または**参照...**をクリックして、必要な HTML ページを参照します。

4. **[OK]** をクリックします。

ビューに HTML ページを追加した後に、ページのプロパティを指定できます。

1. セットアップモードで、ビューへインポートした HTML ページを選択します。プロパティペインで、必要なプロパティを変更します。



- **URL** : **新規**をクリックして、新しい URL または HTML ページの場所を指定します。
- **スケーリング** : HTML ページのスケーリングを選択します。最適なスケーリングは、インポートされた HTML ページのコンテンツとその表示法によってまったく異なります。

原則として、1280×1024 のような高スケーリング値の場合は HTML ページのテキストが比較的小さく表示され、スクロールしなくても多くのコンテンツを見ることができます。反対に、320×200 のような低スケーリング値では、HTML ページのテキストが比較的大きく表示されるため、スクロールせずに表示できるコンテンツ量が比較的小さくなります。

- **HTML スクリプトを有効化** : この機能は、HTML ページが Sony - Network Video Management System Smart Client 内でナビゲートしたり機能をトリガするためにカスタマイズされている HTML ページである場合にのみ、使用してください(HTML ページを使ってナビゲートする『72ページ の"HTML ページを使ったナビゲーション"参照』にあるカスタム HTML ページの例を参照)。

この機能を選択すると、Sony - Network Video Management System Smart Client 内でのナビゲーションや多数の機能のコントロールに必要なクライアントスクリプトが、HTML ページに追加されます。このような目的に使用しない HTML ページの場合は、クライアントスクリプトを使用できないだけでなく、HTML ページが正しく動作しない場合があります。

- **ツールバーを隠す** : デフォルトで、インポートされた各 HTML ページに、単純なナビゲーションバーが挿入されます。ナビゲーションバーには、以下の 5 つのボタンがあります。巻き戻し、早送り、更新、ホーム、印刷。



ナビゲーションバーが必要ない場合は、**ツールバーを隠す**を使って非表示にできます。

インポートした HTML ページにリンクが含まれている場合は、それらのリンクに target='blank' 属性を含めることをお勧めします(例 : Link)。これにより、リンクをクリックすると新しいウィンドウで開くようになり、Sony - Network Video Management System Smart Client と同じブラウザウィンドウにリンク先の Web ページが表示されて現在の Sony - Network Video Management System Smart Client のビューが失われることはありません。

Smart Wall に HTML ページを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、HTML ページを表示できます。

1. ビューに HTML ページを追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

Smart Wall 機能を展開するコントロールの追加

カメラナビゲータをビューに追加する

カメラナビゲータにより、1つのビューの領域に対応するすべてのカメラを追加して、領域の完全な概要を設定できます。たとえば、建物周辺の誰かを追跡する場合に有用です。その人が移動すると、次のカメラに切り替えることができます。詳細については、「カメラナビゲータについて『89ページ』」を参照してください。

カメラナビゲータをビューに追加するには、次の手順に従います。

1. **【設定】**をクリックします。
ヒント: カメラナビゲータを最大限に活用して、右側のペインにカメラビューを表示できるようにするには、1x1 ビューを選択してください。
2. システム概要ペインで、カメラナビゲータをビューにドラッグします。
3. ホームマップとカメラの選択ウィンドウで、ナビゲーションに使用するマップを選択します。
4. カメラナビゲータを開くたびに、デフォルトのカメラとして選択するカメラをクリックして、**OK** をクリックします。
5. **【設定】**をクリックし、セットアップモードを解除します。

Smart Wall でカメラナビゲータを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、カメラナビゲータを表示できます。

注意: カメラナビゲータを Smart Wall に送信するときには、ナビゲータは元の設定のみを使用します。つまり、ビューの別のカメラを選択すると、Smart Wall は変更を表示しません。

1. ビューにカメラナビゲータを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall に送信】**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、カメラナビゲータを概要のタイルまでドラッグできます。

ビューにホットスポットを追加する

1. セットアップモードのシステム概要ペインで、ビュー内の位置へホットスポットのアイテムをクリックして、ドラッグします。

ヒント: 位置にはホットスポットアイコンが表示され ()、ホットスポットであることを示します。

2. プロパティペインで、ホットスポットのプロパティ『80ページ の"ホットスポット設定"参照』を指定します。ホットスポットには高画質を指定し、ビューの他の位置には低画質を指定して、帯域幅を節約することができます。

Smart Wall にホットスポットを追加する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、ホットスポットを表示できます。

1. ビューにホットスポットを追加する手順に従います。
2. **【詳細】**、**【Smart Wall へ送信する】**をクリックし、Smart Wall 設定を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。

ヒント: ビューに **Smart Wall** 概要が含まれている場合は、ホットスポットを概要のタイルまでドラッグできます。

ビューに画面自動切替を追加する

1. セットアップモードの**システム概要**ペインで、ビュー内の位置へ**画面自動切替**のアイテムをクリックして、ドラッグします。
2. **画面自動切替設定**ウィンドウの左側で、サーバーをクリックして展開してから、自動切替に含めるカメラを選択します。追加をクリックします。画面自動切替に含める各カメラについて、同じ操作を繰り返します。

サーバーが赤いアイコンで表示されている場合は使用できない状態であり、この場合そのサーバーのカメラは一覧表示できません。

3. 画面自動切替でカメラが表示される順序を指定するには、**選択したカメラ**のリストで、カメラを選択して、上下に移動させます。
4. 各カメラが画面自動切替に表示される秒数を入力します。すべてのカメラで同じ値を指定するか、カメラごとに異なる値を指定することができます。
5. **[OK]**をクリックして**画面自動切替設定**ウィンドウを閉じます。

画面自動切替の設定を変更するには、**[設定]**をクリックし、**[プロパティ]**ペインで**画面自動切替設定**をクリックして、**画面自動切替設定**ウィンドウを開きます。

Smart Wall で画面自動切替を表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、画面自動切替を表示できます。

1. ビューに画面自動切替を追加する手順に従います。
2. **[詳細]**、**[Smart Wall に送信]**をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント: ビューに **Smart Wall** 概要が含まれている場合は、画面自動切替を概要のタイルまでドラッグできます。

ビューまたは **Smart Wall** へのマップの追加

既存のマップを追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. セットアップモードで、**システム概要**ペインで、ビューの位置へ**マップ**のアイテムをドラッグします。
2. 表示される**マップ設定**ウィンドウで、**新規マップを作成**または**既存のマップ使用**のいずれかを選択します。

三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに 1 つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。

3. **名前**フィールドにマップの名前を入力します。名前は、マップ位置のタイトルバーに表示されます。

ヒント: **[名前]**フィールドを空欄にし、**[参照...]**をクリックすると、**[名前]**フィールドには、選択した画像の名前が表示されます。

4. **[参照...]**をクリックして、マップとして使用する画像ファイルを参照します。
5. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。

6. [OK]をクリックします。

Smart Wall でマップを表示する

Network Video Management System Smart Wall を使用している場合は、マップを表示できます。

1. ビューにマップを追加する手順に従います。
2. [詳細]、[Smart Wall に送信]をクリックし、Smart Wall のセットアップを選択して、モニターを選択してから、表示するタイルを選択します。

ヒント:ビューに Smart Wall 概要が含まれている場合は、マップを概要のタイルまでドラッグできます。

別のビューまたは Smart Wall で表示されている情報の表示

Smart Wall 間のビデオの送信

ビューアイテムから Smart Wall へのビデオの送信

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれるかどうかによって、次の方法でコンテンツを Smart Wall に送信できます。

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれない

- ビューアイテムツールバーで、詳細、Smart Wall へ送信するをクリックし、Smart Wall を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。



現在のビューに Smart Wall 概要が含まれる

現在のビューに Smart Wall 概要がある場合は、ビューアイテムを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグできます。

ビューアイテムが追加される方法は、システム管理者がモニターの要素挿入方法をどのように設定したのかによって異なります。ビューアイテムのコンテンツは、タイルに表示されるコンテンツを置換するか、Smart Wall 概要の次のタイルに挿入されます。たとえば、コンテンツをタイル 1 にドラッグすると、タイル 1 のコンテンツがタイル 2 に移動します。

ヒント: Smart Wall 概要のコンテンツを置換する前に、タイルが表示する内容を十分に確認することをお勧めします。占有されたタイルにマウスカーソルを置くと確認できます。タイルにはアイコンが表示され、表示しているコンテンツのタイプを示します。

Smart Wall で一部またはすべてのコンテンツの表示を停止する

インシデントが管理されているか、コンテンツが関連しない場合などは、複数の方法で Smart Wall にコンテンツを表示しないようにできます。

注意：他のユーザーは手動で Smart Wall のコンテンツを変更できます。コンテンツはスケジュールまたはルールに応じて変更できます。つまり、削除するコンテンツは後から再表示できます。永久的にコンテンツが表示されないようにするには、システム管理者に問い合わせてください。

Smart Wall 概要をビューから削除するには、次の手順に従います。

1. **【ビュー】**ペインで、Smart Wall を含むビューを選択し、**【設定】**をクリックします。
2. Smart Wall を含むビューアイテムで、 アイコンをクリックします。

注意：ビューのみがクリアされます。Smart Wall 概要のタイルには、Smart Wall のコンテンツが表示され続けます。

Smart Wall ですべてのコンテンツを表示しないようにするには、この手順に従います。

- クリアするモニターの Smart Wall 概要の上で、 アイコンをクリックし、**【ビューのクリア】**を選択します。

Smart Wall 概要の特定のタイルからコンテンツを削除するには、次の手順に従います。

- Smart Wall 概要で、クリアするタイルを右クリックし、**【ビューから削除】**を選択します。

ビューから Smart Wall にコンテンツを送信する

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれるかどうかによって、次の方法でコンテンツを Smart Wall に送信できます。

現在のビューに Smart Wall 概要が含まれない

- ビューアイテムツールバーで、**詳細、Smart Wall へ送信する**をクリックし、Smart Wall を選択し、モニターを選択してから、モニターの位置を選択します。



現在のビューに Smart Wall 概要が含まれる

現在のビューに Smart Wall 概要がある場合は、ビューアイテムを Smart Wall 概要のタイルまでドラッグできます。

ビューアイテムが追加される方法は、システム管理者がモニターの要素挿入方法をどのように設定したのかによって異なります。ビューアイテムのコンテンツは、タイルに表示されるコンテンツを置換するか、Smart Wall 概要の次のタイルに挿入されます。たとえば、コンテンツをタイル 1 にドラッグすると、タイル 1 のコンテンツがタイル 2 に移動します。

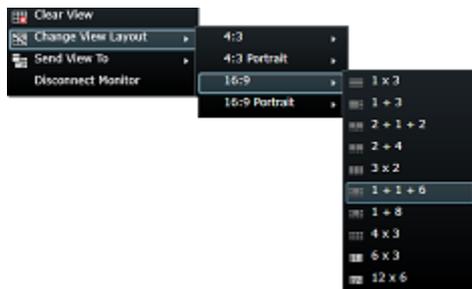
ヒント：Smart Wall 概要のコンテンツを置換する前に、タイルが表示する内容を十分に確認することをお勧めします。占有されたタイルにマウスカーソルを置くと確認できます。タイルにはアイコンが表示され、表示しているコンテンツのタイプを示します。

Smart Wall モニターのレイアウトの変更

モニターのレイアウトとコンテンツがモニター上に配置される方法を変更するには、複数の手順があります。

Smart Wall のモニターに別のレイアウトを適用する

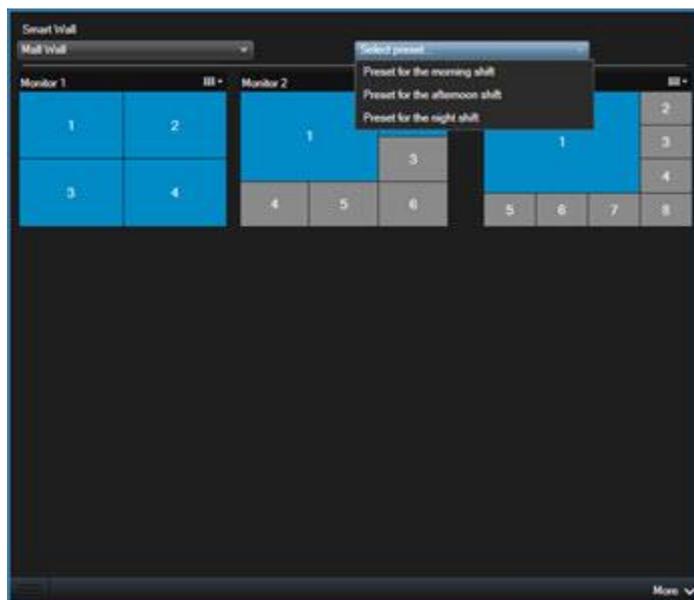
- Smart Wall 概要で、モニターの  アイコンをクリックし、**【ビューレイアウトの変更】**を選択し、表示フォーマット（たとえば 4:3 または 16:9）を選択して、次に必要なビューレイアウトを選択します。



別のプリセットの適用

Smart Wall 概要の別のプリセットを選択できます。ただし、プリセットを変更すると、Smart Wall のすべてのモニターが変更される可能性があります。

別のプリセットを適用する場合は、**【プリセットの選択】**メニューを使用してください。**注意**：他のユーザーがプリセットを手動で変更できるか、ルールが自動的にプリセットを変更できます。



Smart Wall のトラブルシューティング

このトピックでは、Smart Wall オペレータ向けのトラブルシューティング手順について説明します。一部の解決策では、システム管理者のサポートが必要です。

モニターで Smart Wall 用に指定したレイアウトが表示されない。

一般的に、システム管理者がモニターのプリセットをアクティブ化していないことが原因です。システム管理者に問い合わせ、プリセットが Management Client でアクティブであることを確認してください。

カメラがプリセットの一部ではない。プリセットをアクティブ化するとき削除されない。

[空のプリセット項目]がプリセットで選択されていない可能性があります。システム管理者に問い合わせ、Management Client のプリセットの設定を確認してください。

カメラなどの項目をビューまでドラッグできない。項目をクリックしても何も表示されない

これは Microsoft Windows の既知の問題であり、Network Video Management System Smart Wall でも発生することがあります。回避策としては、ESC を 1 回押すと、ドラッグ機能が動作するようになります。

ビューから Smart Wall に画像をドラッグしても表示されない。

ビューに画像を埋め込んでいない可能性があります。また、Smart Wall を実行するコンピュータが画像ファイルにアクセスできません。確実に全員が画像を表示できるようにするには、ビューに埋め込むことをお勧めします。詳細については、「Smart Wall でのコンテンツの追加と削除 『144ページ の"Smart Wall のコンテンツの追加と削除"参照 』」を参照してください。

Smart Wall モニターが相互の上に表示される原因。

システム管理者がモニターを Smart Wall に追加したときに、システム管理者がモニターのレイアウトを定義していません。管理者がモニターを追加すると、モニターは追加された順序で自動的にレイアウトに積み上げられます。管理者はニーズに応じてモニターを配置する必要があります。

Windows エクスプローラから Smart Wall モニターに画像をドラッグできない。カーソルがドロップの許可アイコンに変わらない

Smart Client が Windows エクスプローラと同じユーザープロファイルで実行されていないことが原因です。たとえば、ローカル管理者ユーザープロファイルで Smart Client を実行し、Windows エクスプローラを標準ユーザーで実行する場合です。この問題を解決するには、両方のプログラムが同じユーザープロファイルで実行されていることを確認します。

アラームリストをビューアイテムに追加した後に、スクロールバーを使用して詳細を表示できない。

これは Network Video Management System Smart Wall の既知の問題です。スクロールバーを使用するには、ビューアイテム外にポインタを置き、CTRL キーを押し続けます。これにより、ビューアイテムのツールバーがスクロールバーに重なりません。これでポインタをビューアイテムに移動し、スクロールバーを使用できます。

Network Video Management System Smart Client – Player

Network Video Management System Smart Client – Player のバージョン情報

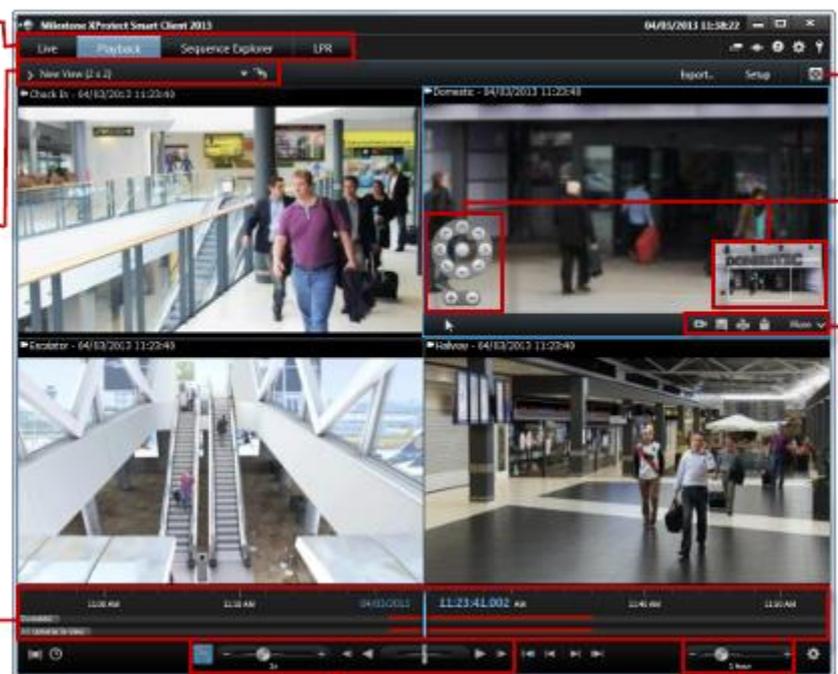
Network Video Management System Smart Client – Player は、エクスポートされたビデオデータに含まれるバージョンの Sony - Network Video Management System Smart Client であり、受信者は監視ソフトウェアをインストールしなくてもエクスポートされたファイルを表示できます。録画されたディスクが取り出された場合の記録の可用性を確保するために、Network Video Management System Smart Client – Player もビデオアーカイブと記録データベースフォルダに自動的に含まれます。Network Video Management System Smart Client – Player を使用してビデオデータを再生、アーカイブし、壊れたデータベースを修復することができます。このアプリケーションには、Sony - Network Video Management System Smart Client の多くの機能があり、外観も似ています。

Network Video Management System Smart Client – Player クイックガイド

再生/シーケンスエクスプローラ

現在のビュー

タイムライン



フル画面

ズーム

画像のコピー/印刷

再生

タイムラインスパンの変更

Network Video Management System Smart Client – Player のビューの操作

Network Video Management System Smart Client – Player のツールバーにある**設定**をクリックして、ビューを作成、管理します。

プロジェクトペイン

Network Video Management System Smart Client – Player のプロジェクトは、ビデオを Sony - Network Video Management System Smart Client からデータベースフォーマットでエクスポートした時に作成されるファイルの集合です。

設定をクリックして、ビューやアプリケーションの設定を変更し、変更をプロジェクトに保存します。ビューに関する情報を含むユーザー設定は、プロジェクトの一部として保存されます。**パスワード**

たとえば、権限を持つユーザーしかビデオを表示できないように、プロジェクトにはパスワードを割り当てることができます。また、エクスポートする際に、デバイスにパスワードを割り当てることもできます。複数のデータベースのパスワード管理の手間を避けるために、プロジェクト全体に単一のパスワードを割り当てることができます。全体用パスワードを割り当てていなくて、パスワード保護されたデータベースがプロジェクトに追加されると、プロジェクトを開く際に各データベースに対するパスワードを入力するよう求められます。プロジェクトにパスワードを割り当てると、削除することはできません。ただし、**プロジェクトペイン**でパスワードを変更したり、新しい同内容のプロジェクトを作成することができます。

- **新しいプロジェクト**をクリックしてから、**データベースを開く**  をクリックし、**データベースを開くウィザード**を起動して、該当するデバイスを追加します。

ビューペイン

ビューペインで、ビューを追加、作成、編集、削除することができます。ビューで可能な操作の詳細については、ビュー 『59ページ の"ビューについて"参照 』を参照してください。

概要ペイン

概要ペインには、カメラ、マイク、スピーカー、HTML、画像、およびプロジェクトに割り当てられたプラグインが表示されます。

- **データベースを開く**  をクリックして、**データベースを開くウィザード**を開きます。プロジェクトから、**名前の変更**  または**削除**  をクリックして、デバイスの名前を変更したり、プロジェクトからデバイスを削除することができます。

デバイスを削除しても、デバイスに関連付けられている実際のデータベース ファイルが削除されるのではなく、プロジェクトから削除されるだけです。

音声のリンク

音声をデバイスにリンクできます。

- **音声をカメラにリンクする**  をクリックして、特定のカメラで録画したビデオを表示する時に、関連する音声を自動的に選択することができます。

データベースを開くウィザード

データベースを開くウィザードにより、アーカイブまたは以前にエクスポートした素材からデータベースを開くことができます。たとえば、アーカイブされたデータベースまたは以前エクスポートした素材を表示する際に、

このウィザードを使用して、データベースを開き、プロジェクトに追加することができます。また、データベースを開くウィザードは、壊れたデータベースを自動的に修復します。データベースを開くウィザードを起動するには、**Sony - Network Video Management System Smart Client** のツールバーで、[設定]をクリックし、概要ペインで、[データベースを開く]をクリックします。

警告： ライブのデータベースまたはライブのアーカイブを開かないでください。システムが破損する可能性があります。

関連するファイルを含むフォルダを選択します。データベースを選択すると、**カメラ**、**マイク**、または**スピーカー**フィールドの横にデバイス名が表示されます。システムがカメラを認識しない場合、たとえば、アーカイブされた録画を開いて、名前が**不明**である場合は、**3種類**のデバイスすべてが不明デバイスとして（デバイスが存在しない場合も）データベースのファイル名が割り当てられて追加されます。デバイスがない場合、フィールドには**該当なし**と表示されます。

また、データベースに署名が含まれているかどうかを確認することも可能です。プロジェクトに追加する時に、データベースを検証できます(以下のセクションを参照)。

開こうとしているデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復することができます。

スクリプト

起動スクリプト

スクリプトを使用して、Sony - Network Video Management System Smart Client ログイン手続きの一部またはすべてを制御することができます。

例：

- **基本認証**または **Windows 認証**を使用している場合、Sony - Network Video Management System Smart Client ログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- **Windows 認証 (現行ユーザー)**を使用している場合、ユーザーの現在の Windows ログインに基づいて Sony - Network Video Management System Smart Client を監視システムに自動的に接続できます。

認証方法によっては、Sony - Network Video Management System Smart Client ユーザーが特定の Sony 監視システムへログインしていなければ使用できないものがあります。特定のシステムで使用可能な機能の詳細概要については、以下の Network Video Management System 製品比較表を参照してください。
<http://www.sony.net/CameraSystem>.

パラメータ

次のパラメータを使用できます。

ServerAddress

Sony - Network Video Management System Smart Client が接続する管理サーバーの URL を参照します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver` と入力された Sony - Network Video Management System Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver"
```

Sony - Network Video Management System Smart Client のデフォルト認証タイプは **Windows 認証 (現行ユーザー)**です。これを変更しない限り、**AuthenticationType** パラメータ (以下のセクションで説明)を使用すると、ログインウィンドウのユーザー名フィールドに現在の Windows ユーザーの名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、ユーザー名フィールドに `Tommy` と入力された Sony - Network Video Management System Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName "Tommy"
```

このパラメータは、**Windows 認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType** パラメータを使って指定します。

パスワード

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、ユーザー名フィールドに `Tommy`、パスワードフィールドに `T0mMy5Pa55w0rD` と入力された Sony - Network Video Management System Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe - ServerAddress="http://ourserver" - UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD"
```

このパラメータは、**Windows 認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType** パラメータを使って指定します。

AuthenticationType

+Sony - Network Video Management System Smart Client で使用できる 3 つの認証方法、**Windows 認証 (現行ユーザー)** (起動スクリプトでは **WindowsDefault** と呼ばれる)、**Windows 認証** (起動スクリプトでは **Windows** と呼ばれる)、または**基本認証** (起動スクリプトでは **Simple** と呼ばれる) のうち 1 つを指します。

次の例は、ダイアログのサーバーアドレスフィールドに `http://ourserver`、認証フィールドに基本認証、ユーザー名フィールドに `Tommy`、パスワードフィールドに `T0mMy5Pa55w0rD` (アスタリスクでマスキング) と入力された Sony - Network Video Management System Smart Client のログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType Simple
```

Windows 認証を使用する場合、例は次のようになります：

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName "Tommy" -Password "T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType Windows
```

Windows 認証 (現行ユーザー)を使用している場合、**UserName** パラメータと **Password** パラメータは不要となるため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -AuthenticationType WindowsDefault
```

Script

.scs スクリプト (Sony - Network Video Management System Smart Client を制御するスクリプトタイプ) へのフルパスを指します。

次の例では、.scs スクリプトを使ってログインします。

```
Client.exe -Script=c:¥startup.scs
```

現在の Windows ユーザーを使用して `http://ourserver` へログインする .scs は次のようになります。

```
<ScriptEngine>
  <Login>
    <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
    <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
  </Login>
</ScriptEngine>
```

Sony - Network Video Management System Smart Client の関数呼び出しを使用して、.scs スクリプトへ機能を追加できます(関数呼び出しリストを表示するを参照)。以下の例では、以前の例からの .scs スクリプトも Sony - Network Video Management System Smart Client アプリケーションを最小化するように、行を追加しています。

```
<ScriptEngine>
  <Login>
    <ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
    <AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
  </Login>
  <Script>SCS.Application.Minimize();</Script>
</ScriptEngine>
```

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです。

```
{-,/,--}param{ ,=,:} (".' )value(",')
```

例 :

```
-UserName Tommy
--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'
```

用語集

1

16 進数

16 を基準とする数値システムで、16 の異なった記号を使用します。ここでは、マップビューの色ツールで色の微妙な差異を定義するために使用します。

A

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには .avi というファイル拡張子が付いています。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供する Windows の拡張機能。

F

FPS

秒当たりのフレーム数で、ビデオに含まれている情報量を示す単位です。各フレームは 1 つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することでモーションを見ているように見えます。FPS の値が高いほど、より滑らかなモーションになります。ただし、FPS が高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP

画像のグループの意味で、個別のフレームをグループ化し、ビデオモーションのシーケンスを形成します。

H

H.264

デジタルビデオ圧縮の標準です。

MPEG 『164ページ』などの標準は、いわゆる不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。大規模圧縮と併用すれば、H.264 フォーマットのビデオサイズが大幅に縮小できます。ただし H.264 の大規模圧縮では、データ通信に使用するデバイスで大量のリソースを使用します。

例えば、Network Video Management System Smart Client を実行しているコンピュータでは、監視システムから受信した H.264 ビデオを解凍することで、大量のリソースを使用できる可能性があります。

I

I/O

入力/出力の省略語。

I-フレーム

インターフレームの省略語。デジタルビデオ圧縮のための MPEG 『164ページ』標準で使用されます。I フレームは指定された間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。I フレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG

画像圧縮方法の 1 つで、JPG または Joint Photographic Experts Group とも呼ばれます。この方法はいわゆる不可逆の圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時に失われることを意味します。この方法で圧縮した画像は、通常 JPG または JPEG と呼ばれます。

JPG

JPEG を参照してください。

M

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレスの意味で、ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 文字の 16 進数です。

Matrix

一部の監視システムに組み込まれている製品で、分散表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でのライブカメラビューを制御できます。Matrix によってトリガされたビデオが表示できるコンピュータは、Matrix 受信 PC 『164ページ の"Matrix 受信者"参照』と呼ばれます。

Matrix 受信者

Matrix によってトリガされたビデオが表示できるコンピュータ。

MPEG

Moving Pictures Experts Group (MPEG)によって開発された、デジタルビデオの圧縮標準とファイルフォーマットの集合。MPEG 標準は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化だけを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

N

PTZ

パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れたカメラです。

P フレーム

predictive frame の略語。デジタルビデオ圧縮の MPEG 『164ページ』標準で、P フレームと I フレーム 『163ページ の"I-フレーム"参照』を使用し

ます。I フレームはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

S

SCS

Network Video Management System Smart Client のコントロールを目的とする種類のスクリプトに使用されるファイル拡張子(.scs)です。

T

TCP

Transmission Control Protocol の略で、ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル(標準)です。TCP は、多くの場合、別のプロトコルである IP (Internet Protocol)と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の 2 つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスを接続するためにも使用します。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略で、インターネットを含むネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル(標準)の組み合わせです。

U

URL

Uniform Resource Locator の略語で、ワールドワイドウェブ上のリソースのアドレス。URL の最初の部分はリソースへアクセスするためのプロトコル (データ通信標準)を指定し、2 つめの部分はそのリソースが置かれているドメインまたは IP アドレスを示しています。例：

<http://www.myorganization.org>

V

VMD

ビデオモーション検知の略。IP ビデオ監視システムでは、多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が開始されます。そのため、不必要な録画を防ぐことができます。ビデオの録画は、その他のイベントや時間スケジュールによって開始することもできます。

アーカイブ

カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所への自動的に録画を転送します。これにより、保存できる録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最大サイズによる制限を受けません。またアーカイブによって、任意のバックアップメディアに記録データを保存することもできます。

アラーム

Network Video Management System Smart Client でアラームをトリガするように監視システムで定義したインシデント。組織がこの機能を使用している場合、トリガされたアラームは、アラームのリストまたはマップを含んでいるビューで表示されます。

イベント

監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基に監視システムはアクションをトリガします。監視システムの設定によっては、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによって、イベントが発生します。また、ユーザーの入力を通じて手動でイベントを発生させることも可能です。イベントの発生は、特定のフレームレートでカメラを録画したり、出力を開始したり、Eメールの送信や操作の組み合わせなどからトリガするよう設定できます。

オーバーレイボタン

ライブタブのビューの個別のカメラ位置にマウスカーソルを移動させた時に、ビデオにレイヤーとして表示されるボタンです。オーバーレイボタンを使用して、スピーカー、イベント、出力を起動し、PTZカメラを動かし、録画を開始し、カメラから信号を消去することができます。

カメラ ナビゲータ

たとえば、間取り図に基づいて配置されているかなど、すべてのカメラの相対位置を表示確認することができる機能です。カメラナビゲータを使用して、1つのビューで、1つのカメラから次のカメラに移動することができます。

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の標準(MPEG 『164ページ』など)で使用されます。キーフレームは指定された間隔で保存される1つのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、続くフレームは変化したピクセルだけを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームはIフレーム 『163ページの"I-フレーム"参照』と類似しています。

コーデック

エクスポートされた AVI 『163ページ』ファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍するテクノロジー。

シーケンスエクスプローラ

シーケンスエクスプローラは、ビュー内の各カメラまたはすべてのカメラからの録画シーケンスを表わすサムネイル画像を一覧表示します。

サムネイル画像をドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスでも簡単にアクセスでき、もっとも関係のあるシーケンスを特定して、すぐに再生できます。

スピーカー

Network Video Management System Smart Client の状況:カメラデバイスに付いている拡声器で、Network Video Management System Smart Client ユーザーはカメラが実際に取り付けられている場所にいる人と話すことができます。

デッドゾーン

デッドゾーンは、情報をシステムに送信するためのジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。ジョイスティックハンドルは、使用していない時は完全に垂直であるのが理想的ですが、多くの場合、少し傾いています。PTZカメラの制御にジョイスティック

クを使用していると、ジョイスティックが少しでも傾いていると PTZ カメラが動きます。このため、デッドゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があります。

ビュー

1 つまたは複数のカメラからのビデオ群で、Network Video Management System Smart Client で表示します。ビューには、HTML ページや静止画像など、カメラからのビデオ以外のコンテンツが含まれている場合もあります。

ビューには、個人ビュー(作成したユーザーだけが見ることができる)と他のユーザーと共有できる共有ビューがあります。

プリセット

Network Video Management System Smart Wall の個別のモニター用の定義済みレイアウト。

フレームレート

モーションビデオに含まれている情報量を示す単位です。通常、FPS 『163ページ』(秒当たりのフレーム数)で計算します。

ペイン

Network Video Management System Smart Client ウィンドウの左側にある、ボタン、フィールドなどの小さな集まりです。

ペインから、Network Video Management System Smart Client のほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、使用している設定および実行しているタスクによって異なります。たとえば、**ライブタブ**でライブビデオを見ている場合と、**再生タブ**で録画されたビデオを見ている場合ではペインが異なります。

ポート

データトラフィックの論理的終点。ネットワークでは、データトラフィックの異なる種類ごとに異なるポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定する必要があります。ほとんどのポートは、通信に含まれるデータの種類に基づいて自動的に使用されます。TCP/IP ネットワークの場合、ポート番号は 0 から 65536 ですが、0 から 1024 までは特定用途のために予約されています。たとえば、ポート 80 は

Web ページの表示に使用される HTTP トラフィック用です。

ホスト

TCP/IP ネットワークに接続されているコンピュータ。ホストには専用の IP アドレスがありますが、ネットワーク設定によっては、識別しやすくするために名前(ホスト名)が付いている場合があります。

ホスト名

ネットワーク上にある特定のコンピュータを識別する名前。ホスト名の方が、IP アドレスよりも覚えやすいのが一般的です。

ホットスポット

Network Video Management System Smart Client のビュー 『166ページ』で、拡大または高品質で表示されているカメラ画像の特定の位置。

マップ

- 1) Network Video Management System Smart Client は、ナビゲーションやステータス可視化で、マップ、間取り図、写真などを使用する機能です。
- 2) 実際のマップ、間取り図、写真などをビュー 『166ページ』で使用します。

モニター

Network Video Management System Smart Wall の各モニター。

漢字

画面自動切替

Network Video Management System Smart Client ビュー 『166ページ』で、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置です。

記録

IP ビデオ監視システムの場合、**記録**とはビデオを保存することを意味し、場合によってはカメラからの音声を監視システムのデータベースへ保存することも意味します。多くの IP 監視システムでは、カメラ

から受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーションが検知された、特定のイベントが発生した、あるいは特定の時刻になったなどの理由がある場合のみ開始されます。そのため、モーションが検知されなくなったり、他のイベントが発生しなくなってから一定時間後に録画は停止されます。元々**記録**は、録音／録画ボタンを押すまでビデオや音声をテープに保存できなかったアナログの世界の用語です。

魚眼レンズ

魚眼レンズ画像を作成、表示できるレンズです。

縦横比

画像の高さと幅の関係

出力

コンピュータから外へ送られるデータです。IP 監視システムで、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイスを起動するために使用されます。

索引

- [
- [エクスポート]ウィンドウの設定 - 131, 134, 135, 136
- [ライブ]タブ - 21, 25, 44
- [再生]タブ - 21, 28
- 1
- 16 進数 - 163
- A
- AVI - 163, 165
- D
- DirectX - 163
- F
- FPS - 163, 166
- G
- GOP - 163
- H
- H.264 - 163
- HTML ページを使ったナビゲーション - 68, 72, 150
- I
- I/O - 163
- I-フレーム - 163, 164, 165
- J
- JPEG - 163
- JPG - 164
- M
- MAC アドレス - 164
- Matrix - 164
- Matrix - 71, 72, 88, 108
- Matrix について - 108
- Matrix 受信者 - 164
- MPEG - 163, 164, 165
- N
- Network Video Management System Enterprise Edition で録画されたビデオのモーションを検索する - 120
- Network Video Management System Smart Client - Player - 157
- Network Video Management System Smart Client - Player クイックガイド - 157
- Network Video Management System Smart Client - Player のバージョン情報 - 157
- Network Video Management System Smart Client - Player のビューの操作 - 158
- Network Video Management System Smart Client のインストール - 14
- Network Video Management System Smart Client のモードについて - 19, 23, 24
- Network Video Management System Smart Client の開始 - 14
- Network Video Management System Smart Client の構成 - 23, 32, 53, 86, 87, 124
- Network Video Management System Smart Wall - 72, 140
- Network Video Management System Smart Wall でのライブまたは録画されたコンテンツの表示 - 141
- Network Video Management System Smart Wall について - 28, 140
- Network Video Management System フォーマットの設定 - 46, 50, 65, 87, 126, 132

P

PTZ - 48, 164, 165

PTZ および魚眼レンズ画像 - 25, 44, 46, 52, 81

PTZ パトロールの停止 - 56

PTZ プリセットの管理 - 27, 54

PTZ プリセットの編集 - 55

PTZ 画像 - 53, 78, 104

P フレーム - 164

S

SCS - 164

Smart Wall に画像を表示する - 69

Smart Wall のコンテンツの追加と削除 - 142, 144, 156

Smart Wall のトラブルシューティング - 156

Smart Wall の操作を開始する - 31, 69, 142, 145

Smart Wall モニターのレイアウトの変更 - 155

Sony - Network Video Management System Smart Client の概要 - 19

Sony - Network Video Management System Smart Client の操作 - 43

System Monitor タブ - 21, 31

T

TCP - 164

TCP/IP - 164

U

URL - 164

V

VMD - 165

あ

アーカイブ - 165

アプリケーションのオプション - 32, 69, 146

アプリケーションボタン - 22, 27

アラーム - 165

アラームのオプション - 39

アラームの確認 - 128

アラームの詳細の表示および編集 - 128, 147

アラームの操作 - 128

アラームの無効化 - 129

アラームの無視 - 129

アラームレポートの表示 - 129

アラームをフィルターする - 129

アラーム情報を記載したレポートの印刷 - 129

イベント - 88, 130, 165

イベントおよびアラーム - 128

エクスポートウィンドウからアイテムを直接エクスポートする - 134, 135

エクスポートされたビデオの表示 - 114

エクスポートのオプション - 36

エクスポート中に録画の領域をマスクする - 65, 134, 136

オーバーレイボタン - 165

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義 - 53

か

カメラ - 80

カメラ ナビゲータ - 165

カメラからビデオを表示する - 143

カメラツールバー - 26, 29, 31

カメラナビゲータ - 89

カメラナビゲータについて - 89, 91, 151

カメラナビゲータの設定 - 90

カメラの切り替え - 72

カメラ設定 - 30, 33, 35, 44, 47, 66, 79, 80, 81, 82, 90, 109

カメラ名と色のインジケータ - 33, 81, 85, 99

キーフレーム - 165

キーボードショートカットおよびオーバーレイボタン - 30, 87

キーボードのオプション - 37, 49

キーボードのショートカット - 37, 47, 48, 64, 72

コーデック - 165

このマニュアルの対象ユーザー - 10

さ

サムネイル概要のナビゲーション - 119

シーケンスエクスプローラ - 165

シーケンスエクスプローラを使用したビデオの検索 - 21, 46, 115

シーケンスのナビゲート - 117

シーケンスの検索 - 116

シーケンス検索 - 115

ジョイスティックのオプション - 37, 53

ズームと自動最大化 - 108

スクリプト - 160

ステータス詳細の表示 - 108

ストーリーボードのエクスポート - 134, 135

索引

ストーリーボードのエクスポートについて - 131, 133, 135

スナップショットの作成 - 27, 29, 31, 124

スピーカー - 165

スマートサーチペインを使用した検索 - 29, 113, 120, 122

セットアップモード - 30

た

タイムライン - 29, 47, 113, 117, 125

タイムラインのオプション - 35

タイムラインのボタンとコントロール - 124, 125

タスクボタン - 22

タブ - 21, 26

ツールボックス - 100, 104

ディスプレイ間でビューを送信する - 112

データベースを開くウィザード - 158

デジタルズーム - 50

デジタルズーム、パンチルトズーム、360° レンズ画像 - 50

デジタルズームについて - 50

デジタルズームの使用 - 27, 31, 46, 50

デッドゾーン - 165

トラブルシューティング - 16, 17

な

ナビゲーションボタン - 127

は

パトロールの一時停止 - 57

パネル - 21

- ビデオクリップ、音声、Network Video Management System データ、静止画像をエクスポートする - 22, 29, 114, 134
- ビデオの手動録画 - 27, 31, 45
- ビュー - 14, 21, 166
- ビューアイテムまたは Smart Wall へのテキストの追加 - 70
- ビューおよびカメラの検索 - 65
- ビューおよびビューのグループ - 61
- ビューから Smart Wall にコンテンツを送信する - 154
- ビューグループの作成 - 62
- ビューに Matrix のコンテンツを追加する - 31, 109
- ビューにオーバーレイボタンを追加する - 70
- ビューにカメラを追加する - 30, 66, 72, 80
- ビューにコンテンツを追加する - 30, 31, 65
- ビューについて - 59, 158
- ビューにマップを追加する - 102
- ビューのカメラを変更 - 26, 28, 31, 72
- ビューの作成 - 30, 63
- ビューの作成および管理 - 30, 60
- ビューの選択 - 26, 28, 47
- ビューヘショートカット番号を割り当てる - 47, 64
- ビューまたは Smart Wall に HTML ページを追加する - 67
- ビューまたは Smart Wall にカメラナビゲータを追加する - 31, 90, 91
- ビューまたは Smart Wall にホットスポットを追加する - 79
- ビューまたは Smart Wall に画面自動切替を追加する - 78
- ビューやグループをコピー、名前変更、または削除する - 63
- ビュー間でビデオを送信する - 27, 31, 71
- プライバシーマスク - 64, 66, 80, 136
- プリセット - 166
- フル画面表示 - 22, 29, 32, 48
- フレームレート - 166
- フレームレートの効果について - 83, 86
- ペイン - 166
- ペインのオプション - 34, 47
- ヘルプの表示 - 13, 23
- ポート - 166
- ホスト - 166
- ホスト名 - 166
- ホットスポット - 25, 44, 48, 71, 72, 79, 88, 96, 166
- ホットスポットについて - 79, 110
- ホットスポット設定 - 79, 80, 151
- ホットゾーンをマップに追加 - 104
- ま
- マップ - 69, 95, 145, 166
- マップからフロートウィンドウへカメラを送信 - 103
- マップのエレメントの外観の変更 - 105
- マップのエレメントの追加と削除 - 103

マップのカメラから録画されたビデオを表示 - 95,
104

マップのテキストを追加/編集 - 107

マップの削除 - 103

マップの操作 - 102

マップの背景を変更する - 103

マップ概要ウィンドウ - 101

マップ上でのラベルの編集と回転 - 107

マップ設定 - 99, 107

マルチウィンドウ - 16, 20, 72, 93, 110

メディアプレーヤーのフォーマット設定 - 132

モーション閾値について - 124

モニター - 166

や

ヤオカイ - 109

ユーザー権限によって、操作方法が決定されます -
43

ようこそ - 13

よくある質問：エクスポート - 137

よくある質問：カメラ - 88

よくある質問：デジタルズーム - 51

よくある質問：ビュー - 76

よくある質問：マップ - 102

よくある質問：マルチウィンドウ - 112

よくある質問：音声 - 94

ら

ライブビデオについて - 44

ログインウィンドウについて - 14

ログインおよびログアウト - 16

ログインプロセス - 14, 23

ログイン認証について - 15, 16, 17

ロックされた PTZ プリセット - 56

漢字

右クリックメニュー - 101

音による通知 - 81, 87

音声について - 92

音声設定 - 25, 44, 92, 93

仮想ジョイスティックおよびPTZ オーバーレイボタ
ン - 81

画面自動切替 - 25, 44, 71, 72, 78, 88, 166

画面自動切替について - 78, 110

拡張 - 140

監視システムの別の特徴 - 11, 15, 16, 18, 34,
35, 39, 44, 54, 56, 57, 61, 64, 69, 76, 80,
81, 87, 92, 93, 95, 108, 119, 132, 137,
140, 145

監視と通信 - 59

管理サーバーからのインストール - 14

簡易モードでのビデオのエクスポート - 24

簡易モードでのビューの変更 - 23, 24

簡易ワークスペースの使用 - 19, 23

機能のオプション - 35, 46

記録 - 166

起動スクリプト - 160

魚眼レンズ - 167

魚眼レンズ画像 - 52

境界ボックス - 87

- 境界ボックスプロバイダーについて - 85, 87
- 検索の定義 - 117
- 言語のオプション - 43
- 個別再生を使用する録画済みビデオの表示 - 26, 29, 31, 44, 113
- 再生スピード - 126
- 再生の日時 - 126
- 再生ボタン - 24, 126
- 最低限のシステム要件 - 12
- 時間ナビ制御 - 46, 124
- 時間の調整 - 123
- 時間選択 - 126, 134, 135
- 時間幅 - 127
- 自動切替設定 - 79, 112
- 手動で **Matrix** の受信コンピュータにビデオを送信する - 110
- 手動でイベントをアクティブ化する - 130
- 手動での出力のアクティブ化 - 58
- 縦横比 - 167
- 出力 - 167
- 証拠のエクスポート - 131
- 証拠を印刷する - 29, 31, 46, 50, 87, 138
- 詳細オプション - 39
- 上級版ワークスペースを使う - 20, 77
- 静止画像設定 - 133
- 設定モードに入る - 22, 27, 29, 30, 47
- 相手と話す - 93
- 単一の画像のコピー - 27, 31, 48
- 索引
- 地図の紹介 - 95
- 著作権、商標、および免責条項 - 9
- 調査と文書 - 113
- 定義済みの PTZ プリセット位置までカメラを移動する - 52, 53
- 日付と時刻のナビゲーション - 126
- 録画されたビデオのモーションを検索する - 31, 119, 120
- 録画ビデオについて - 28, 45
- 録画済みビデオの検索 - 29, 113